### - 平成 28 年度環境省地域活性化に向けた協働取組の加速化事業-最終報告書

付録 2:平成 28 年度協働取組加速化事業

(協働取組カレンダー・中期計画)

### 記入フォーム①事業の全体構成 協働取組カレンダ

### 記入日:2016.6.10 こ向けたラムサール地域協働の加速化事業 大沼環境保全計画改正 事業名:

### 1)この取組がなぜ必要なのか

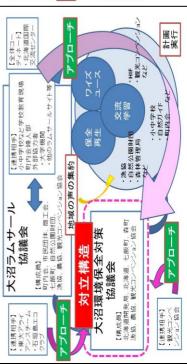
### 現状表面化している問題

のために「大沼環境保全協対策議会」のメンバーに参入。しかし、域活性化と大沼の環境保全が両立する観光ルールづくりを進 に漁業者、農業者、観光業者、NPO、地元行政である七飯町が 構成員となる「大沼ラムサール協議会」を設置した。2014年に実 い。水質浄化を目的にした場合、大沼地域の対立構造は避けら 施した協働取組加速化事業により、「大沼環境保全計画」改定 七飯町大沼は2012年にラムサール条約に登録され、これを機 ながら、1997年2月に策定されて以来、遅々として進んでいな 、新しい方向性をどう描けるかが問題になっている。

## ・問題を放置した場合に想定される状況

ー度、復活した「大沼環境保全計画」改定であるが、問題がデリ ケートなため、休眠状態になり、大沼の環境保全が持続不可能

### ーとの関係 4事業開始時のステークホルダ

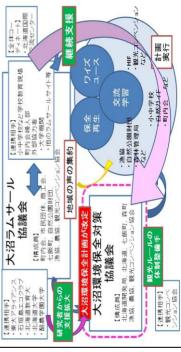


## <u> うこの取組を進める上での課題は何か</u>

- 大沿環境保全対策協議会のステークホルダーは、昔から大沼 地域に在住しているため、考えが蛸壺化してしまい経営的な視 点から対立構造が生まれ議論ができない状態である。
- 上記の関係性から大沼環境保全計画は踏襲されてしまう懸念 がある。
- ・大沼は国定公園に指定されているにも関わらず環境保全に関 係するルールが現在はない。新幹線の開業などによる観光客 の増加で大沼の環境が悪化する可能性がある。

②この取組で何を目指すのか・「大沼環境保全計画」の改訂に合わせて、ラムサール条約の3本柱である「保全・再生」「賢明な利用」「学習・交流」を盛り 込んだ大沼地域の実態に即した保全計画を目指す。 ・新幹線の開業などによるインバウンド観光客の増加による地 めるための体制整備を行う。

# ⑤事業終了時のステークホルダーとの関係性(目標)



この取組を進める上で課題にどのように対応するか  $\infty$  ・各ステークホルダーをヒアリングから引き出し、経営的な考え や海外ワークキャンパーや地元住民とのビジョンづくりなど硬 ・問題にストレートに向き合うのではなく、他地域の類似事例 から離れた大沼の姿を共有し対話の場をもつ。 軟織り交ぜて対応をしてゆ

**料職のメモ これがをしてがい。** ・共通のベクトルづくりや第三者の声を聞いて視野を広げるこ とで対立構造の改善。

レートなどインバウンド事業の推進による経済の活性化と環境 ・大沼地域は観光業で成り立ってきたので、大沼ラムサールプ ・計画に観光ルールのことを記載できるように働きかける。 保全が両立する観光ルール作成に向けた体制づくり。

(1)保全・再生・・・・・大沼環境保全計画に地域住民の声を反 映するために、第3者である東京大学海洋アライアンス等が 五 3この取組で何をどのように行いますか (一財)北海道国際交流センタ 記入者:

盆

Ш

(2) 賢明な利用・・・・・(一社)七飯大沼国際コンベンション協会と協働で経済と環境保全が両立する大沼観光ルールづくり 地域住民ヘヒアリング調査・分析を実施し、住民意見を数値 化する。

に向けて専門家などを招きワークショップの実施をとおして体 制整備を行う。2014年の同事業にて開発した「大沼ラムサ・ ルプレート」の試食会や提供場所の開拓

上記で得られたものを大沼環境保全協議会の場にて、大沼 ラムサール協議会がインプットし、計画へ反映していく。

- ⑥ステークホルダーのニーズはどこにあるか
  - (1)大沼環境保全対策協議会
- ①渡島総合振興局、七飯町、森町、鹿部町
- - (2)外部協力者
- ・各地域が抱える課題や解決策を普遍化し、地域に普及する (3)HIF・・・・全体のコーディネートとなり、ステークホルダーが 大沼の保全に向けて歩み出せるようにサポート

⑨この取組をどのように継続させるか 今回の協働取組加速化事業で、大沼環境保全計画の改定を 行い、次の時代につながる計画を残すこと、次年度以降に この大沼の取組を全国、世界に発信することで、大沼の環境 保全活動の継続を行ってゆく。

_
ì
Ή
<b>``</b> \
Ÿ
42事業ス
洲
S)
7
入フォー
Ŋ
$\prec$
記入
_
1×
$\langle \rangle$
力 元
然
卧
靊
協働取組力L

3月		環境保全対策協議 会(副町長と各課長 級)											
2月	報告会			東京大学海洋アライ アンスチーム・石垣 島エコクラブ報告会 (東京)				ラムサール協議会		東京大学海洋アライ アンスチーム・石垣 島エコクラブ報告会 (東京)			
1月		環境保全対策協議 会(定期幹事会)								東京大学海洋アライ アンスチーム打合せ (東京)			
12月				東京大学海洋アライ アンスチームヒヤリ ング②(大沼)		環境保全を取り入れたインパウンド勉強 たインパウンド勉強 会の実施		ラムサール協議会		ヒヤリングのまとめ		セミナー準備・振り返 リ・まとめ	
11月	第2回連絡会	環境保全対策協議 会(定期幹事会)		石垣エコクラブ打合 せ (石垣島)	大沼ラムサールプ レート試食会		小学生とビジョン作り ワークショップ②			打合せ資料準備	大沼ラムサールプ レート試食会		学校との打合せ・まとめ
10月								ラムサール協議会					
日6			海外ボランティアと地域住民による意見交換会	東京大学海洋アライアンスチームヒヤリング①石垣島エコクラブ打合せ(大沼)ビジョンクビジョングのコーニーのビジョンがミング(リカーロー・アラック・アー・アラー・アラー・アラー・アラー・アラー・アラー・アラー・アラー・アラー・	大沼ラムサール女子 会による試作	インパウンド勉強会の実施(国際観光について・受け入体制の整備)	<u>小学生とビジョン作り</u> ワークショップ①		ワークキャンプ実施 団体と打合せ	ヒヤリングのまとめ	試作のまとめ(大沼 ラムサール女子会)	セミナー準備・振り返 り・まとめ	学校との打合せ・ま とめ
8月		環境保全対策協議会(定期幹事会)(8/22)	有識者と地域住民によるビジョン作りワーケショップ実施		観光事業者との協働 : による大沼ラムサー ! ルプレート試作			ラムサール協議会	有識者打合せ	東京大学海洋アライ アンスチーム打合せ (東京)	試作のまとめ(観光 事業者)		
Н́2			海外ボランティアとの ビジョン作りワーク ショップ実施						ワークキャンプ実施団体と打合せ			一般社団法人七飯 大沼国際観光コンベンション協会との打 合せ	
日9	第1回連絡会(キック オフ)	環境保全対策協議会(定期幹事会) (5/25)	ビジョンづくりワーク ショップ打合せ	有識者によるヒヤリング 体制打合 セング 体制打合 セ	大沼ラムサールプレート打合せ	観光ルール作り打合せ			打合せ準備	打合せ準備	打合せ準備	打合せ準備	
	協働取組全主体の連絡会・勉強会・報 告会の開催 (仮)	大沼保全協議会への参画	大沼地域のビジョンづくり(保全・再生)	住民意識調査(保全・再生)	観光事業者との協働によるご 当地メニューの開発 (賢明な利用)	観光ルール作りのための体制がくい(賢明な利用)	子ども達による将来の大沼ビ ジョンづくり(学習・交流)	大沼ラムサール協議会の開催	大沼地域のビジョンづくり (保全・再生)	住民意識調査(保全・再生)	観光事業者との協働によるご 当地メニューの開発 (賢明な利用)	観光ルール作りのための体制づくり(賢明な利用)	子ども達による将来の大沼ビ ジョンづくり(学習・交流)
	協働取			対外的な取	り組み					対内的な	取り組み		

### (1)事業の全体構成 中期計画シート(概要版)

# 記入日:2017年2月5日 事業名:大沼環境保全計画改正に向けたラムサール地域協働の加速化事業

## この取組がどうして必要なのか

・現在表面化している問題はなにか

ラムサール協議会」を設置した。2014年に協働取組加速化事業により、「大沼環境保全計画」改定のために「大沼環境保全計画」改定のために「大沼環境保全協対策議会」のメンバーに参入。しかしながら、1997年2月に策定されて以来、改善はされていない。水質浄化を目的にした場合、大沼地域の対立構造は避けられず、新しい方 アクター、そして地元行政である七飯町が構成員となる「大沼 七飯町大沼は2012年にラムサール条約に登録され、様々な 向性が問題になっている。

・放置した場合にどのような問題が生じるか

一度、復活した「大沼環境保全計画」改定であるが、問題がデ リケートなため、休眠状態になり、大沼の環境保全が持続不

可能になる。

### ④今年度末時点のステークホルダーとの関係性はど のようなものか

計画 学校教育現場 - 地域の声の集約 大沼ラムサール [構成]] 自己会、中民国体、商工 七般节、由然公園身团、 道路、職務、觀光口ンへ入 協議会 大沼環境保全対策 協議会 芸術園題常向、芸術園、 新籍、観客コンスン りない [注]集相手]

係の改善方法、地域住民の声により、会議の進行はスムーズ ・2016年度の取り組みでわかったステークホルダーの対立関 になることが想定されるが、引き続き対立構造には、注意が必要である。 この取組を進める上での課題は何か

・対立構造が発生すれば、大沼環境保全計画に記載できそうなワイズュースに関わる取り組みができなくなる恐れがある。

・大沼は国定公園に指定されているにも関わらず環境保全に 関係するルールが現在はない。新幹線の開業などによる観光 客の増加で大沼の環境が悪化する可能性がある。

# ②この取組でどのような状況の達成を目指

③この取組で具体的に何をどのように行うのか

ニ 岩田

記入者:(一財)北海道国際交流センター

-2017年度時

で、積極的に発言して、ラムサールの3つの視点の中でも、観光を軸とした「ワイズュース」をきちんと入れ込むこと。大沼環境保全計画の周知の機会をつくる。具体的な観光ルールづくりの話し合いの場を設け 2016年度に可視化した住民の意見をもとに大沼環境保全協議会の中 •2017年度時点 大沼の環境への取り組みが地域住民に理解される。観光ルール 2017年度に策定される「大沼環境保全計画」の中に、ラムサールの視点である「ワイズユース」が取り入れられ、また平易な文章で づくりに着手する。

-2018年度時点

ő

・2018年度時点 大沼全体の状況を把握しながら、観光にも配慮したわかりやすい大沼 のマップづくりを行う。実施に際しては、北海道大学教育学部の地域プ ロジェクトも活かしながら、デザインに着手し、観光ルールとともに大沼 大沼で行われている様々な環境保全活動を、マップでみられるよ うに活動を地図上に落とし込み、広く環境のことに関心を持っても らえるように進める。観光ルールも広く広報していく。

-2019年度時点

海外へのアピール、インバウンドを見据えた環境作りを行い、環境と観光の融合を図る。また、大沼の食材についても、環境配慮型のブラン のPRにも活用する。 2020年の東京オリンピックに備えて、外国人観光客対策は急務であり、観光業との融合により、地域全体のまちづくりを加速度的

こ推進することとする。

⑤各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か ①波島総合振興局、七飯町、森町、鹿部町 (1)大沼環境保全対策協議会 ーとの関係性はどのようなも 53年後にステークホルダ の変化しているとよいか

ド化を進め、まちづくりの一翼を担う。

·2019年度時点

••••地域振興、環境も含

評画 · 首位 - 自然公園即日 - 特林衛祖周 七飯町、韓町ケリの一次の一部の 大沼環境保全対策 【雑氏皿】 岩浴道医球底、岩浴道、七飯具、 紙環、根据、観光ロンスンション箱 北海道国際交流センター ・世界中から、大沼を視察に ・議員、自治体も大沼に ・大学の地域もモデル研究対象に 協議会 【全体コーディネート】 協議会地域の声の集約 大沼ラムサール ノモン協会 [連携相手]

て地域が一体となる

(3)HIF・・・・全体のコーディネートとなり、ステークホルダーが大沼の保全に向けて歩み出せるようにサポート 各地域が抱える課題や解決策を普遍化し、地域に普及する (2)外部協力者

ユースの言葉をいれ、次の時代につながる計画を残すことと、次年度 以降にこの大沼の取組を全国、世界に発信することで、継続を行って ⑨この取組をどのように継続させるか 今回の協働取組加速化事業で、大沼環境保全計画の改定にワイズ 8この取組を進める上で課題にどのように対応するか

・問題にストレートに向き合うのではなく、他地域の類似事例や海外ワークキャンパーや地元住民とのビジョンづくりなど硬軟織り

レートなどインバウンド事業の推進による経済の活性化と環境保全が両立する観光ルールづくりの体制づくりをする ・大沼地域は観光業で成り立ってきたので、大沼ラムサールプ

なずて対応をしてゆく

・対立構造改善の1つであろうステークホルダーの意見を認めあるうことをベースに、地域の声からみえてきた共通のミッションづく りや第三者の声聞いて視野を広げることで対立構造の改善(大 沼での経済活動をひとつにまとめるベクトルづくり)

# 一般財団法人北海道国際交流センター ( H 28 中期計画)

`
=
Ĺ
Ч
?`\
火 人
2
2事業ス
7111
₩
$\bigcirc$
$\overline{}$
概要版
监
翢
比
**
$\widetilde{}$
÷
ĺ
1,1
圄
+
盂
部
母母

り、観光業との。 。 観光の融合を図 まちづくりの一翼		1月~	第3回連絡会			海外ボランティア の育成計画を実 施する	海外のアイビー リーグへのアプ ローチ
目標・事業内容 、観光客対策は急務であ ・的に推進することとする ・環境作りを行い、環境と ・理のブランド化を進め、、	2019年度	10月~	第2回連絡会	大沼ラムサール プレートの開発	2020年東京オリンピック対策としてのインバウンド は進		
2019年度の重点目標・事業内容 <重点目標> 2020年の東京オリンピックに備えて、外国人観光客対策は急務であり、観光業との 融合により、地域全体のまちづくりを加速度的に推進することとする。 <事業内容> 海外へのアピール、インバウンドを見据えた環境作りを行い、環境と観光の融合を図る。また、大沼の食材についても、環境配慮型のブランド化を進め、まちづくりの一翼を担う。	2018	7月~			2020年東京オリンピック対策としてのインバウンド は進進	海 ケボラントイア ワーケショップ	大学関係者との 打ち合わせ
2019年 1ンピックに 備え、 (全体のまち のぐ) (全体のまち のぐ) (上、イン、イン・イン・ド) 食材に ついても、食材に ついても、		4月~	第1回連絡会	大沼マルシェ開催	海外へのアピー ルの方法を確立 する		
<ul><li>(重点目標&gt; 2020年の東京才融合により、地域では、地域のでの東京大地域を対象を対象をできた、大沼のでは、大沼のを担う。</li></ul>		1月~	第3回連絡会			海外ボランティア の育成計画を実 施する	ICU、AIU、APUな どの国際系大学 へのアプローチ
がでかられるよう いを持ってもらえ いを持ってもらえ かかりやすい大 学教育学部の 、観光ルールと	2018年度	10月~	第2回連絡会	大沼ラムサール プレートの開発	海外へのアピー ルの検証		
目標・事業内容   発活動を、マップ  活動のことに関  広報していく。  観光にも配慮した  では、北海道大  デザインに着手し	2018	7月~			環境に配慮した 観光のあり方会 議	海外ボランティア ワークショップ	大学関係者との 打ち合わせ
2018年度の重点目 いる様々な環境保 に落とし込み、広公 に落とし込み、広公 観光ルールも広公 観光ルールも広公 記光ルールも広公 を把握しながら、 を行う。実施に際し と行う。実施に際し と に 活用する。		4月~	第1回連絡会	大沼マルシェ開催	環境に配慮した 観光のあり方会 議		
2018年度の重点目標・事業内容 〈重点目標〉 大沼で行われている様々な環境保全活動を、マップでみられるよう に活動を地図上に落とし込み、広く環境のことに関心を持ってもらえ るように進める。観光ルールも広く広報していく。 〈事業内容〉 大沼全体の状況を把握しながら、観光にも配慮したわかりやすい大 沼のマップづくりを行う。実施に際しては、北海道大学教育学部の 地域ブロジェクトも活かしながら、デザインに着手し、観光ルールと ともに大沼のPRにも活用する。		1月~	第3回連絡会			海外ボランティア の育成計画を5年 間目標で構築	東大、早稲田、慶 応、上智大学な どへのアプローチ
こ、ラムサールの 5.易な文章で大 観光ルールづく 境保全協議会 点の中でも、観 と。大沼環境保 ルづくりの話し合	2017年度	10月~	第2回連絡会	大沼ラムサール プレートの開発	観光業者とイン バウンド推進		
2017年度の重点目標・事業内容 たれる「大沼環境保全計画」の中 でユース」が取り入れられ、また引 が組みが地域住民に理解される。 1組みが地域住民に理解される。 2とた住民の意見をもとに大沼環 発言して、ラムサールの3つの視 でスュース」をきちんと入れ込むこ 巻金をつくる。具体的な観光ルー	2017	7月~			観光業者との意 見交換会	海外ボランティア ワーケショップ	大学関係者との 打ち合わせ
		4月~	第1回連絡会	大沼マルシェ開催	観光を軸とした環境の取り組みの検証		
く重点目標>2017年度に第日間の17年度に第一部の17年度に第一日の17年度に第一日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日日	11 1 7 7 4 - 7	行動計画	連絡協議会	インバウンド準備	観光ルールづく リ	第3者との協働 による対立構造 の改善	第3者との協働 による対立構造 の改善

### 記入フォーム①事業の全体構成 協働取組カレンダー

### 秡 小笠原 1 「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会 この取組で何をどのように行います 記入者: 2016.6.10 Ш 記入に 2)この 取組で何を 目指す 目指した協働取組 |の実現を 衈 る天売 ┢ 事業名:「人と海鳥と猫が共生・ この取組がなぜ必要なの

・<u>現状表面化している問題</u>

近年、天海島(北海道苫前郡羽幌町)ではノラネコが増えており、ウミネコなどの海鳥 売島における「人と海鳥と猫の共生」を目指す。将来的には、島内で適正に飼育されて「が主体となって意見交換を行うプロセスが不可欠であり、自主的な決定に基づく実践を近くまた島。におばこれである。これで私た島には、島内で適正に飼育されて「が主体となって意見交換を行うプロセスが不可欠であり、自主的な決定に基づく実践を変しまった。これでは、大力を提供している。これで、大力を発見がある。これで、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力に関本を表し、大力を表し、大力を表し、大力に関本を表し、大力を表し、大力に関本を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力に関大を表し、大力に関大を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力に関わら、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、いる、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大力を表し、大

### 問題を放置した場合に想定される状況

昨年度、取り組みが着実に実施されたことから、現在はノラネコの個体数は減少している。しかし繁殖が可能なノラネコはまだ島内に存在しており、一部で餌やり等も続いていることから、捕獲を再開しなければ元の状況に戻ってしまい、被害が拡大し、対策が困難になる恐れがある。

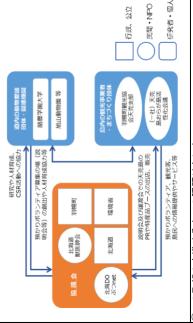
またあわせて、鳥内で天売猫の譲渡会や意見交換会等を開催することで、天売猫の預かりボランティアや飼い主、協議会メンバーの天売島への渡航を促し、観光振興に寄与する。それとともに島民との交流により、天売猫の取り組みへの社会の関心の高さや地域振興に係る効果の島内への意識づけや、ネコのあり方に関する認識の見直

さらに協議会と北海道海鳥センターの協働により、天売島のネコ問題を素材した環境教育プログラムを作成し、島内外の学校で実施していくことで、自然との共生についての思考を促し、島内での理解の深まりを目指す。

⑤ステークホルダーのニーズはどこにあるか 「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会

とはいえ島外の関係者が中心となって課題解決方策を決定、実施した場合、島民が E体となった価値観の共有や合意の形成は進展せず、同様の問題が生じた際にも、 弱当たり的な対応に終始することが危惧される。

### 事業開始時のステークホルダーとの関係性



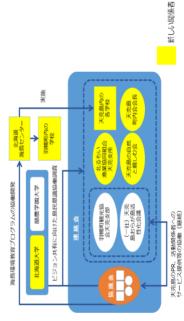
### この取組みを進める上での課題はなにか

(1)会議のプロセスのデザイン 島民と構成する連絡会で「人と海島と猫が共生する天売島」のビジョンが共有されることを目標としているが、島民の意識調査をどのように活用し、次にどのような段階を踏んで理解を促していくがについては、取り組みを進めながら考えていく状況である。また、島民への働きかけが「説得」ではなく「舎意形成の促進」となるためには、意思決定を島民に委ねる局面が必要になる。そこでは中立的な進行が求められるが、それをど のように担保するかは今後調整が必要である

(2)無<u>関心圏へのアプローチ</u> 本取組では、島内の重要なステークホルダーからなる連絡会を設置することで、島民 意見の形成をねらう。たた漁業関係者を含めた多くの島民は、現在も海島の保護や天(3)ビブネズミ問題の解決策 意見の形成をねらう。ただ漁業関係者を含めた多くの島民は、現在も海島の保護や天(3)ビブネズミ問題の解決を用いて島外搬出することは現実的ではない。港湾工事 売補の取り組みに対し関心が薄いと考えられる。これまでも戸別回覧や訪問、IP電 臭気が強く、フェリーや高速船を用いて島外搬出することは現実的ではない。港湾工事 売補の取り組みに対して関心が薄いと考えられる。これまでも戸別回覧や訪問、IP電 製気が強くフェリーや高速船を用いて島外搬出することは現実的ではない。港湾工事 売価の別に接触しており、本取組でも連絡会の設置を梃子として、島内での、等の機会を活用等で個別に発触しておいてといったが、 な管理・処分において、アネスミなどの害埋原係の専門家より、被害防止の観点か は管理・必分において、高端の変容を促していきたい。

(3)ドブネズミ問題の解決策 ドブネズミ問題の解決策のひとつとして、ほとんどの関係者が共通して優先すべきと考えているのが、居住地と海鳥繁殖地の中間にある、現在稼働していない生ごみ処理場の放置堆肥の処理(島外廃棄)である。この問題について、今年度中に解決できるかどうかは未定である。また、島民による生ごみ等の不適正な管理・処分が一部で見られており、これらの改善もドブネズミ問題の解決には必要であるが、島民のライフスタイ *、*の変更には時間がかかる問題である。

## ⑤事業終了時のステークホルダーとの関係性(目標



北海道大学、酪農学園大学、生態学・社会学・動物行動学の観点からのノラネコ対策

|天売猫の飼い主、預かりボランティア:天売島への関心、飼い主同士の交流

の年光

馴化・譲渡によるノラネコ問題の解決 ・天売島民・ノラネコやドプネズミの被害軽減 ・北るもい、漁業協同組合矢売支所:漁業被害の減少 ・北るもい、漁業協同組合矢売支所:漁業被害の減少 ・一般対団強が協会天売支部・天売島の知名度・集客UP ・一般対団法人表売島おらが島活性化会議・天売島の活性化 ・天売の自然と親しか会・海島の保護・大売島の合学校、地元の題材を活用した環境教育の実施 ・天売島内の各学校、地元の題材を活用した環境教育の実施 ・天売島内の各甲校・地元の題材を活用した環境教育の実施 ・大売島内の各甲校・市領地の公案衛生の向上 ・北海道海島センター・環境教育プログラム作成・実施による海鳥保護の啓発・

## 8)この取組みを進める上での課題にどのように対応するか

### ⑨この取組みをどのように継続させるか

(1)会議のプロセスのデザイン 北海道大学や酪農学園大学等の高等教育機関に助言・支援をいただきつつ、天売島(ており、ノラネコの捕獲・馴化・譲渡という一連の取組は早期に終結することを目指してのビジョンづくりにおいて共通の価値観を持つ(一社)天売島おらが島活性化会議や、いる。 本協働取組に第三者として関わる地方支援事務局と検討を重ねていくことしたい。 本協働取組に第三者として関わる地方支援事務局と検討を重ねていくことしたい。 その後、島内で問題を繰り返さないたがに、本協働取組において環境教育プログラ

「 人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会((H28 協働カレンダー)

)事業スケジュール
- 記入フォーム②
協働取組カレンダー

3月		「人と海鳥と猫が共 生する天売島連絡 会」の開催 会」の開催										
2月	報告会				他地域で活用可能な 教材、ティーチャーズ ガイドの作成と配布							
1月	記入フォームの提出 (1月末予定)	「人と海鳥と猫が共 生する天売島連絡 会」の開催 会」の開催					「人と海鳥と猫が共 生する天売島連絡協 議会」の開催					
12月												
11月	第2回連絡会	「人と海鳥と猫が共 生する天売島連絡 会」の開催 会」の開催										
10月				島民向けの説明会の開催	羽幌地域の学校での事業実施		「人と海鳥と猫が共 生する天売島連絡協 議会」の開催		島民向けの説明 会の開催に向け た打ち合わせ	環境教育プログラムに関する情報共有、実施に向けた調整等		
9月		「人と海鳥と猫が共 生する天売島連絡 会」の開催 会」の開催				天売島自然体験ツアーの実施						
8月	3ヵ年の中期計画記 入フォームの提示		島民への聞き取り調 査結果の周知	島民向けの説明会の開催			「人と海鳥と猫が共 生する天売島連絡協 議会」の開催	島民への聞き取り調査結果の共有	島民向けの説明 会の開催に向け た打ち合わせ		天売島自然体験 ツアーの実施に 向けた打ち合わ せ	ドブネズミ駆除業者による島民へ指導など
7月		「人と海鳥と猫が共 生する天売島連絡 会」の開催 会」の開催				天売猫の譲渡会in天 売島の実施						
6月	第1回連絡会 (キックオフ)		島民への聞き取り調 査の実施		天売猫を題材とした 環境教育プログラム 作成		「人と海鳥と猫が共 生する天売島連絡協 議会」の開催	島民への聞き取り調査の実施に り調査の実施に 向けた打ち合わせ			天売猫譲渡会に 向けた打ち合わ せ	(5月~) ドブネズミの捕獲 海島繁殖地でのドブ ネズミの生息数調査 /海鳥への影響把握
	協働取組全主体の連絡会・ 勉強会・報告会の開催	(1)協働取組に係る協議の場の設置	(2)ノラネコ問題な どに関する島民の 意見聴取の実施	(3)協働取組に関 する島民への周 知・意見交換の機 会の創出	<ul><li>(4) ノラネコ問題を 題材にした環境教 育プログラムの開 発と実施</li></ul>	(5)観光振興に向 けた交流会の創出	(1)協働取組に係る協議の場の設置	(2)ノラネコ問題な どに関する島民の 意見聴取の実施	(3)協働取組に関 する島民への周 知·意見交換の機 会の創出	<ul><li>(4) ノラネコ問題を 題材にした環境教 育プログラムの開 発と実施</li></ul>	(5)観光振興に向 けた交流会の創出	ドブネズミ対策
	協働取組全主 勉強会·報			(名な民立)					的な取り			関連した動き

### (1)事業の全体構成 中期計画シート(概要版)

### 目指した協働取組 島」の実現を N. 形形。 10 p ₩ 事業名「人と海鳥と猫が共

### この取組がどうして必要なのか

### 現在表面化している問題はなにか、

に向けて、島民との合意形成を図るため、島内の関係者と「人と海鳥と描が共生する天売島連絡会」を組織し、協議を重ねてきた。その結果、連絡会内の合意形成や島民への理解が進み、捕獲作業の再開につながった。また、 天売ッアーなどの実施により、 天売猫の取組と観光振興との連動も進んでいる。一方で、島内の飼い猫の不適正な飼養が一部で続いており、飼い猫の適正飼養の促進のための取り組みを進めていく必要がある。また、 ノラネコが減少し 平成28年度は、ドブネズミ問題により中断していたノラネコの捕獲作業を再開

たことで、ノラネコが海鳥の繁殖に影響を及ぼすことは少なくなっているが、ハシブトガラスやドブネズミなどの他の捕食者が存在しており、引き続き海鳥への 影響が懸念されている。

## 放置した場合にどのような問題が生じるか】

「飼い猫の不適正な飼養が継続された場合、再び問題が再発する可能性がある。また、他の捕食者による海鳥への影響が継続された場合、ノラネコ対策が 海鳥への保全につながらない可能性がある。

# ④今年度末時点のステークホルダーとの関係性はどのようなものか

### 公 研究者、個人 民間、NPO 新たな 天売島 天売島のPR、活動関係者へのサービス提供等の協働実施(平成27年度より継続) 华校 ビジョン共有に向けた島民意識協働調査 (一社) 天売 島おらが島活 性化会議 連絡会 酪農学園大学 海鳥環境教育プログラムの協働 沿龍 環境 臣 細 戦医師 温油 光 攌 北海DO

### この取組を進める上での課題は何か 民の意識の定清

今年度の取組で島内関係者と意見交換を行う場づくりや天売猫だよりなどを通じた島民への啓発の体制ができたが、今後同様の問題が起こらないためには、島民の理解と意識の定着が必要である。

### 連絡協議会の資金問題

加速化事業終了後に協議会が取り組みを実施するにあたり、行政予算以外の 資金をどのように確保していくか。

現在、協議会の事務局や主担当は数年で異動を伴う職員が担当している。そのため、人事異動によって担当が変わることで、取組の継続が進まないことが

## ②この取組でどのような状況の達成を目指すか [2017年度時点]

記入日: 2017年2月3日

「人と海鳥と猫が、共生する天売島連絡会」などを通して、島民との意見交換や取り組みの啓発が継続され、島民と連携して取組を実施する体制を構築する。 ・天売島内にノラネコが居なくなる(全てのノラネコを搬出) ・環境教育プログラムが町内の学校や他地域で実施される。

・飼い猫の適正飼養の促進に向けた取り組みが継続的に行われる。

[2017年度時点] ・「人と海鳥と猫が共生する天売島連絡会」での定期的な議論の実施や天売猫だよりの発刊などを継続して行う。 ・捕まりづらいノラネコの対策を検討しながら、島民と連携し捕獲を進める。 ・環境教育プログラムの実施拡大に向けて、学校や関係機関に周知を行う。 ・島内の飼い猫の適正飼養の促進に向けて、学校の関係機関に関知を行う。 ・島内の飼い猫の適正飼養の促進に向けて、獣医師による島内での健康診断の実施 ・ちをの譲渡会を開催する。また、保健所や愛護団体からの保護猫情報を島内の掲示板に設置するなどして提供する。また島民から希望があった場合の窓口となる。 ・海島センター20周年記念行事と連携したイベントなどを通じて島民との連携を深め

該

小笠原

この取組で具体的に何をどのように行うのか

記入者:「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会

### [2018年度時点]

・島外に搬出した全てのノラネコの譲渡が完了する。 ・島民との連携体制が継続される。 ・天売猫のみではなく、環境保全と天売島の地域振興が連動するように島民と の意見交換が行われる

【2018年度時点】 ・愛護団体や動物園、ホームセンターなどと協働で譲渡会を定期的に開催するなど機 ・天売島連絡会との連携体制を継続させる。島内のノラネコ問題解決後も島民との協

### (2019年度時点)

・天売島の環境保全と地域振興が連動する取組みが島民との協働により行わ

働に生かしていく。 会の拡大をする。

2019年度時点】

# 地域の問題解決のための話し合いの場として天売島連絡会を継続していく。

⑤3年後にステークホルダーとの関係性はどのようなもの変化しているとよいか

【連絡協議会】馴化・譲渡によるノラネコ問題の解決、天売島の海鳥保全、島内の住民環境の保持、道内のノラネコ問題の解決など(天売猫の取り組みをてこに、構成主体の北海DOジつネット/北海道獣医師会/北海道の協働により、道内の動物愛護関係者 の連帯促進、動物愛護政策の推進を目指す

⑤各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か

、連絡会】ノラネコ問題の解決と天売島の環境保全による活性化

华校

旭山動物園

酪農学園大学

北海道大学

環境教育に係る連携

(北るもい漁業協同組合天売支所)漁業被害の減少
 (天売島内の各町内会長)市街地の公衆衛生の向上
 (羽幌町親北協会天売支邮)天売島の知名度、第客UP、観光客の増加
 (一社)天売島かが島活性化会議>天売島の活性化
 (一社)天売島かが島活性化会議>天売島の活性化
 (一社)天売島と親と表しる。海島の保護、生態系の保全
 (天売の目然と親しか会>海島の保護、生態系の保全
 (天売島内の各学校>地元の題材を活用した環境教育の実施

民間, NPO

天売島内の

羽幌町観光協

漁業協同組合 天売支所

海鳥センター

北海道

獣医師 **4**|1

協議会

連絡会

名学校

〈天売島民〉 ノラネコやドブネズミの被害軽減

研究者、個人

〈北海道海鳥センター〉環境教育プログラム作成・実施による海鳥保護の啓発〈北海道大学、路農学園大学〉生態学、社会学、動物行動学の観点からのノラネコ対 策の研

新たな 関係主体

天范島 町内会会長

天売島の自然 会天売支部

と親しむ金

(一社) 天売 島おらが島活 性化会議

出寫出

ዂ症彵

北海道

北海DO

事業の継続発展に向けた、協議会/協議会構成主体と島民のパートナーシップ強化(外部への情報発信を含む) この取組を進める上で課題にどのように対応するか

〈天売猫の飼主、預かりボランティア〉 天売島への関心、飼い主同士の交流

事業)等を組み合わせて、島民が意思決定するための情報を「天売猫だより」 「こより共有し、「連絡会」において提示するなども考えられる。

## ⑨この取組をどのように継続させるか

行政主導や島外関係者中心の取組ではなく、今後さらに島民が主体となって取組が継続するよう、環境づくりを進めていく。例えば⑧にあげた観光事業や学校教育での取組と、ノラネコの状況、海鳥の繁殖状況のモニタリング (環境省 これまでの取り組みに加え、島内での譲渡会などのイベント、小学校での環境教育プログラムなどの活用、地域振興との連動など、島民が関心を持ってもらえる形の啓発を続けながら、ノラネコ問題を生活に身近なものと感じてもらい、

### 人事異動の問題

・<u>人事異動の問題</u> 基本的に異動がない専門職を配置している海鳥センターが主担当することが理 想だが、職員の負担が増大してしまうため、海鳥センターのサポート体制の拡 充を進めていく

必要な取組の絞り込みや、助成金などの活用に加え、CSR活動を行っている企業との協働を模索するなど、継続的な資金確保の体制を構築する。

連絡協議会の資金問題

必要性の認識を高める。

- 島民の意識の定着

### 付23

د
Н
۲3
7
Ķ
2)事業スク
개기
卌
(2)
$\overline{}$
反
띮
剛
概要版
$\dot{}$
<b>+</b>
ĺ
")
画
中期計
承
#

		問題解決のた		1月~	1			1		
日梅•事業内容		/ラネコ問題解決後も地域の問題解決のたして機能させる。	2010年	10月~				<u>^</u>	①獣医師派	連絡会機能の発展
2019年度の重点	機能の発展	をノラネコ問題解決場として機能させる。		7月~				①計画・実施	①獣医師派	 
	(重点目標) ・天売島連絡会機能の発展	(事業内容) ・天売島連絡会を/ めの話し合いの場と	_	~ 4月~			1	域で実施	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	
		₩N		+/≤ 10月~    1月	(元の) (元の) (元の)	十 (三 	8年度完了)		①獣医師派遣 ②掲示板·希望者窓	
占日槽·事業内容	重点目標) ・捕獲した全ての天売ネコの譲渡 ・ノラネコ問題解決後の島民との協働	(事業内容) ・ホームセンターなどの企業や動物園、他の愛護・ホームセンターなどの企業や動物園、他の愛護団体との協働で譲渡会を開催し、譲渡の機会を促進させる。 ・島内にノラネコが居なくなった後も啓発イベント・島内にノラネコが居なくなった後も啓発イベントなどで天売島連絡会との連携体制を継続する。	9018年	7月~		近地四部四日四日   1	 	画・実施		~を通じた連携
2018年度の重	真) た全ての天売 7 1問題解決後の	s) センターなどの お働で譲渡会者 ノラネコが居な た島連絡会との		4月~				14(D)	①獣医師	天売島連絡会(随時開催)
<u> </u>	(重点目標) ・捕獲した ・/ラネコ	七型な		1月~						天売島道
というというというというというというというというというというというというというと	<b>高外搬出</b>	各発イベント(天 (医師派遣、保護	9017年度	10月~			捕獲作業(2017年度完了) 1 企業などとの調整		①獣医師派	連携
- (1/2/人) (4/2) (4/2) (5/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (7/2) (	のノラネコの屋	(全道各地) (全道各地) (速会などの唇 基盤整備(獣		7月~			捕獲作		①獣医師派 2計画	イベントを通じた連携
Ì	重点目標) ・天売島内の全てのノラネコの島外搬出・適正飼養の促進 ・環境教育の推進 ・島民との協働	(事業内容) ・ノラネコ捕獲作業 ・ノラネコ捕獲作業 ・天売猫の譲渡会(全道各地) ・観光イベントや譲渡会などの啓発イベント(天 売島) ・環境教育 ・ネコを飼うための基盤整備(獣医師派遣、保護 猫情報の提供)		行動計画	統		の捕獲・足進	適正飼養の取組 ①譲渡会などの 啓発イベント ②環境教育の推 進		御幣(
2	真天滷縣島	(事・・・ 記・ 猫 ・・・ 記・ 猫 **/ 天観 島環 木情**/ 「おいい)(おけて 神		福少 付2	連絡協議会		ノラネコの補獲・ 譲渡の促進	通①をとり選問機・発送の連合機・発力を受ける場合がある。	推権 基本の 会業を 会議 条数 発送 発送 登	島民との協働

「 人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会 ( H 28 中期計画)

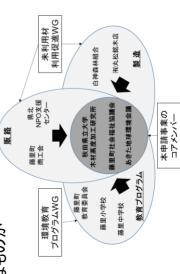
### 記入フォーム①事業の全体構成 協働取組カレンダー

### 記入日:2016/7/1 vol.2 『社会復帰プログラム×森林保全』協働取組事業 業名:

## この取組がどうして必要なのか

- ・現状表面化している問題
- ▶藤里町を含む秋田県の間伐村はその利用が進まず、森林の 荒廃を招いている。
  - ▶当該地域で実施されている環境教育では、間伐材の需要開発の重要性を学ぶ機会は限られており、森林荒廃と間伐材利 用のつながりを伝える体系的な学びとなっているとは言い難
- 訓練の場への出席率は半数に留まり、メニューのマンネリ化 る。福祉協議会が就労支援に取り組んでいるが、就労支援・ ▶藤里町では働く世代の10%が引きこもっているとされてい が懸念されている。
  - 問題を放置した場合に想定される状況
- 間伐材利用が進まず、森林荒廃が進む
- ▼間伐村の需要開発の重要性の認識が広まらない
  - こもり対策のマンネリ化や引きこもりの増加 의하.

# ①事業開始時のステークホルダーとの関係性はどのようなものか



1)事業終了以降における、未利用バイオマス利用事業の採 **プこの取組を進める上での課題は何か** 算性の確保

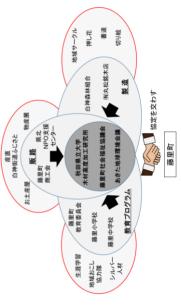
### || )参画団体の事業に対する理解

|||)参画団体のリーダーシップが発揮されるか

廃を防ぎ、引きこもり対策を拡充する新たなモデルを多様な主体と協働で構築し、地域活性化を目指している。そのため目指す状況は、これまで関係したステークホルダー自らの強みが 森林保全」と「引きこもりの就労支援」、2つの異なる取組を掛 主体的に発揮され、さらにより多くのステークホルダーが関わ り、それぞれが地域のことを考え力を発揮している状況と考え け合わせることにより、秋田県の間伐材利用を進め、森林荒 でどのような状況の達成を目指すか 2)この取組

ています。 平成27年度には木ハガキを中心とした間伐材の利用促進に 資する木工製品の製造工程を構築し、またその製造工程を就 労支援・訓練のメニューとして「訓練者のレベルを選ばないメ ニュー」といった評価を得た。また、地元小・中学校の協力を得 て環境教育プログラムの構築・実践を行った。平成28年度で は、上記地域課題・状況の解決・達成に向けて、これらの成果 の拡充・定着が課題と言える。

⑤事業終了時にステークホルダーとの関係性はどのようなもの変化しているとよいか



⑧この取組を進める上で課題にどのように対応するか)事業終了以降における、未利用バイオマス利用事業の採 算性の確保

・事業の認知度を高める ・木ハガキや多品目化による製品の販路を確保す

ファシリテーションを活用した検討会により参画団体と事業 の意義や社会的なインパクト、明確なビジョンを共有する。 || )参画団体の事業に対する理解

iii)参画団体のリーダーシップが発揮されるか 参画団体同士の相互を理解を促し、尊重・信頼しあう雰囲気 づくりを行った上で、明確な役割分担のもと、実証を行う。

### 摵 記入者:杉本

- こ何をどのように行うのか で具体的( 検討委員会(名称未定 この取組
- 事業趣旨の共有
- ▶事業の方向性、推進方法検討
- プ(以下WG) ◆事業実施効果の検証・評価 ▶協定締結へ向けた検討 ・未利用材利用促進ワーキンググ
- ▶未利用材利用の木ハガキや多品目商品の製造工程の構 築 実践
  - ▶事業化へ向けた検討・実践
    - ・環境教育プログラムWG
- ▼木ハガキなどを活用した環境教育プログラムの実践・拡充 ▶実施プログラムの評価
- ⑤各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か

-個別二

藤里町社会福祉協議会※1,2:支援・訓練事業の拡充 藤里町教育委員会※2:環境教育の場の拡充 藤里町商工会※1:地場産業の活性化 白神森林組合※1:間伐材利活用促進・普及 秋田県立大学木村高度加工研究所※1,2:木工製品の普及・ 理解促進、環境教育プログラムの拡充・普及促進 あきた地球環境会議※1,2:(環境に関わる)社会課題の解決・ 地域活性化

・共通のニーズ

住民参加型の地域活性化、社会課題の解決 ※1 未利用材利用促進MG ※2 環境教育プログラムMG

参画団体それぞれの"強み"が主体的に発揮され、より多く の地域団体が関わることで地域に根差した取り組みとなり、認 知度の向上によって、継続的に利益が得られる状態の創出つ まり事業採算性についても十分考慮しながら、、参画団体が当事者意識を持って、取り組んでいくことが、継続に繋がると考える。 ③この取組をどのように継続させるか

般社団法人あきた地球環境会議 ( H 28協働カレンダー)

報告書(3/10締切) 3月 月次報告 最終報告会(2/18) 報告書作成 2月 事業全体の成果とり まとめ 第3回環境教育プログラム WG開催 第3回未利用材利用促 進WG開催 3回連絡会(仙台 **第2回検討会開催** 匹 月次報告 ワーキング 成果 とりまとめ く 各ワーキング成果 とりまとめ く フーキング成果 事業採算性調査 とりまとめ > 12月 月次報告 アンケート集計・解析 11月 月次報告 木ハガキ普及活動 木材関連産業勉強会② (製材業) 環境教育プログラムの 実践(講師:高校生) 2回連絡会(現地) ^イロットモデル実施 環境教育プログラムでの木ハガキ活用 10月 月次報告 環境教育プログラム 環境教育プログラムの 実践(講師:訓練者) 第2回未利用材利用促 進WG開催 6 月次報告 実施校環境教育プログラム拡充 選定・調整 第1回環境教育プログラム | WG開催 WG開催 木材関連産業勉強会① (林業) 89 月次報告 就労<mark>支援施設内 就労支援参加者</mark> 環境整備 募集 選定 第1回連絡会(7/25)(仙 材料調達 第1回未利用材利用促 進WG開催 第1回検討会開催 (7/13) 設備等の整備 月次報告 6月 協働取組加速化事業の 連絡会・勉強会・報告会 の開催(予定) 未利用材利用促 進プログラムの 拡充・実践 未利用材利用促 進プログラムの 拡充・実践 事業成果 とりまとめ・報告 環境教育プログ ラムの拡充・実践 各協議会の開催 環境教育プログ ラムの拡充・実践 対内的な活動 対外的な活動

記入フォーム②事業スケジュール

協働取組カレンダー

### ①事業の全体構成 中期計画シート(概要版)

### 森林保全』協働取組事業 × 『社会復帰プログラ. 事業名:

## 1)この取組がどうして必要なのか

- ・現状表面化している問題はなにか
- 、森林 ▶藤里町を含む秋田県の間伐村はその利用が進まず、 の荒廃を招いている。
- 発の重要性を学ぶ機会は限られており、森林荒廃と間伐材利 用のつながりを伝える体系的な学びとなっているとは言い難 ▶当該地域で実施されている環境教育では、間伐材の需要開
- ▶藤里町では働く世代の10%が引きこもっているとされている。福祉協議会が就労支援に取り組んでいるが、就労支援・訓練の場への出席率は半数に留まり、メニューのマンネリ化 が懸念されている。

協定締結2年度目として、 業の周知・認知度向上に 目指す。

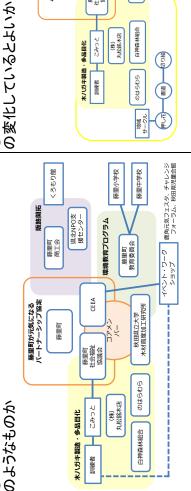
•2018年度時点

協定締結3年度目と -2019年度時点

- ・放置した場合にどのような問題が生じるか
- ►間伐材利用が進まず、森林荒廃が進む ►間伐材の需要開発の重要性の認識が広まらない こもり対策のマンネリ化や引きこもりの増加

# ④今年度末時点のステークホルダーとの関係性はどのようなものか

⑤3年後にステークホルダ



- 1)事業終了以降における、未利用バイオマス利用事業の採 での課題は何か この取組を進める上 性の確保
- || )参画団体の事業に対する理解
- |||)参画団体のリーダーシップが発揮されるか

# (2)この取組でどのような状況の達成を目指すか参画団体それぞれの"強み"が主体的に発揮され、より多くの地域団体が関わることで地域に根差した取り組みとなり、認知度の向上によって、継続的に利益が得られる状態の創出つまり事業採算性についても十分考慮しながら、参画団

で具体的に何をどのように行うのか

体が当事者意識を持って、恊働取組が継続的になされる状態を目指し、 -2017年度時点

協定締結初年度として、藤里町での本事業の周知・認知度上により、新たに町内3団体の参画を目指す。

▶未利用材利用の製品の改良および多品目商品の製造工程構築・実践 未利用材利用促進ワーキンググループ(以下WG)

▶事業の方向性、推進方法検討

▶事業趣旨の共有

検討委員会

記入者:杉本

記入日:2017/2/5

▶事業実施効果の検証·評価

▶自立事業化へ向けた検討・調査・実践 ・環境教育プログラムW 匝

▶木ハガキなどを活用した環境教育プログラムの実践・拡充 ▶実施プログラムの評価・改良

・2017年度時点 新商品を1つ作り上げる。販路拡大として、藤里町および秋田県内のお土産店など3店舗確保 して、藤里町および周辺自治体での本事上により、新たに町内・外3団体の参画を

環境教育プログラムを6校で実施。

・2018年度時点 新商品を2つ作り上げる。販路拡大として、藤里町および秋田県内外のお土産店など3 店舗確保 環境教育プログラムを9校で実施。 、て、藤里町および秋田県内外での本事

<u>業の周知・認知度向上により、新たに県内・外3団体の参画を</u> 目指す。

-2019年<u>度時点</u> 新商品を3つ作り上げる。販路拡大として、藤里町および秋田県および首都圏のお土産 店・アンテナショップなど3店舗確保。環境教育プログラムを12校で実施。

### ⑤各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か 藤里町社会福祉協議会※1,2:支援・訓練事業の拡充 個別ニース ーとの関係性はどのようなも 土産屋 秋田空港

に関わる)社会課題の解決・ 藤里町教育委員会※2:環境教育の場の拡充 藤里町商工会※1:地場産業の活性化 白神森林組合※1:間伐材利活用促進・普及 秋田県立大学木材高度加工研究所※1.2:木工製品の普及・ 理解促進、環境教育プログラムの拡充・普及促進 あきた地球環境会議※1,2:(環境| 地域活性化 ・共通のニーズ

ビジター センター

県北NPO支援センター

物産展

聚無町

型機

廢里小学校 藤里中学校

景境教育プログラム

CEEA

聚里町 社会福祉 120議会

木八ガキ製造・多品目化

訓練者

藤里町 教育委員会

白神森林組合 (株) 丸松路木店 にみった

のはらむら

担

住民参加型の地域活性化、社会課題の解決 ※1 未利用材利用促進MG ※2 環境教育プログラムMG

シレバー人材 生涯学習

地域おこし 協力隊

この取組をどのように継続させるか <u>ල</u>

体が当事者意識を持って、取り組んいくことが、継続に繋がる と考える。 の地域団体が関わることで地域に根差した取り組みとなり、認知度の向上によって、継続的に利益が得られる状態の創 出つまり事業採算性についても十分考慮しながら、、参画団 参画団体それぞれの"強み"が主体的に発揮され、より多

### 8この取組を進める上で課題にどのように対応するか)事業終了以降における、未利用バイオマス利用事業の採 性の確保 뺃

- 6 ・事業の認知度を高める ・ホハガキや多品目化による製品の販路を確保す

### ファシリテーションを活用した検討会により参画団体と事業の意義や社会的なインパクト、明確なビジョンを共有する。 ||)参画団体の事業に対する理解

||i)参画団体のリーダーシップが発揮されるか 参画団体同士の相互を理解を促し、尊重・信頼しあう雰囲気 づくりを行った上で、明確な役割分担のもと、実証を行う。

1/—r;	
2事業スケジ	
(概要版) (3	
中期計画ツート	

	度向置のお											
	周知・認知	母	-	1月~	1		1				· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
目標·事業内容	外での本事業のおよび秋田県お	本驗WS、事業周	2019年度	10月~						1	計画・実施・	*
2019年度の重点目標・事	および秋田県内・ お屋を目指す。 大として、藤里町 精確保。 も。	きてベントでの制作		7月~						計画・実施		*
2019年月	目として、藤里町 県内・外3団体の3 リエげる。販路拡 ショップなど3店舗 ラムを12校で実加	・WGの定期開催 )多品目化、改良 ラムの実施、改ら 部圏の各種環境1		4月~								*
	(重点目標) ・協定締結3年度目として、藤里町および秋田県内外での本事業の周知・認知度向上により、新たに県内・外3団体の参画を目指す。 ・新商品を3つ作り上げる。販路拡大として、藤里町および秋田県および首都圏のお土産店・アンテナショップなど3店舗確保。	(事業内容) ・検討会および各WGの定期開催 ・未利用材利用の多品目化、改良 ・環境教育プログラムの実施、改良 ・県内・東北、首都圏の各種環境イベントでの制作体験WS、事業周知		1月~							· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	*
		事業周知	2018年度	10月~	·····································					<b>1</b>	計画・実施・	*
目標•事業内容	および周辺自治( 1内・外3団体の参 大として、藤里町 、。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。	え の制作体験WS、		7月~	—————————————————————————————————————			随時·実施		計画 ・ 実施		*
2018年度の重点	(重点目標) ・協定締結2年度目として、藤里町および周辺自治体での本事業の ・協定締結2年度目として、藤里町および周辺自治体での本事業の 周知・認知度向上により、新たに町内・外3団体の参画を目指す。 ・新商品を2つ作り上げる。販路拡大として、藤里町および秋田県内 外のお土産店など3店舗確保 ・環境教育プログラムを9校で実施。	(事業内容) ・検討会および各WGの定期開催 ・未利用材利用の多品目化、改良 ・環境教育プログラムの実施、改良 ・県内・東北の各種環境イベントでの制作体験WS、事業周知		4月~								*
	(重点目標) ・協定締結2年度 問知・認知度向」・新商品を2つ作・新商品を2つ作 外のお土産店な・環境教育プログ・環境教育プログ・環境教育プログ	(事業内容) ・検討会および各・未利用材利用の・ ・環境教育プログ・現内・東北の各・・		1月~							改良	*
	a・認知度向上に 7および秋田県	₩	2017年度	10月~						1	計画・実施・	*
点目標·事業内容	での本事業の周9 11指す。 11大として、藤里町 15、藤里町	是 总 体験WS、事業周4		7月~						計画・実施		*
2017年度の重点目標	(重点目標) ・協定締結初年度として、藤里町での本事業の周知・認知度向上により、新たに町内3団体の参画を目指す。 ・新商品を1つ作り上げる。販路拡大として、藤里町および秋田県内のお土産店など3店舗確保	(事業内容) ・検討会および各WGの定期開催 ・未利用材利用の多品目化、改良 ・環境教育プログラムの実施、改良 ・県内各種環境イベントでの制作体験WS、事業周知		4月~								*
	(重点目標) ・協定締結初年」 より、新たに町が・新商品を1つ作・新商品を1つ作 内のお土産店な・環境教育プログ・環境教育プログ	(事業内容) ・検討会および行・未利用材利用(・環境教育プログ・現場の発育のでは、現場を開発を表現がある。 では、現場をは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またののでは、またのでは、またののでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのでは、またのではでは、またのでは、またのでは、またのでは、またので	行動計画	I	検討会および	会WG	木ハガキなどの	商品化されたも のの製造	<u> </u>	多品目化の検 討・開発	環境教育プログ ラムの実施・改 良	環境イベン下へ の出 展

一般社団法人あきた地球環境会議

( H 28中期計画)

付28

冓朿
全体
)事業の全体構成
<u>_</u>
記入フォー、
記入
ンダー 記入
ノグダー
ı

	のように行うのか ナマス利用のメリットデメ していくための条件を明 行い、費用対効果等の 5行政と協働し、木質バ たれるか検証する。 が、木質バイオマスへの ぎする。	は通のニーズは何かなルギーの利用拡大をした森林の整備促進した森林整備の整備促進した森林整備の整備促進なルギー利用によるコストスルギー利用によるコストスルギー利用によるコストスルギー利用によるコストス・	でもか 7 大利用を考える協議会 個別のメリットを求めな化・人口減対策につな
記入者:石塚慶	③この取組で具体的に何をどのように行うのか・地域の大型施設で木質バイオマス利用のメリットデメリットを検証。具体的に導入をしていくための条件を明らかにする。また、導入実験を行い、費用対効果等の検証も実施する。・地域の間伐作業を行う会社や行政と協働し、木質バイオマスを持続的に供給し続けられるか検証する。・一般家庭への導入促進のため、木質バイオマスへの理解を深めるセミナー等を実施する。	<ul> <li>⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か・ ・住内総合支庁環境課:自然エネルギーの利用拡大・ ・住内総合支庁環境課:自然エネルギーの利用拡大・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>	<ul><li>⑨この取組をどのように継続させるか・継続的な地域内本質バイオマス利用を考える協議会を設置することで、それぞれが個別のメリットを求めながらも最終的には地域の活性化・人口減対策につながるような組織にしていく。</li></ul>
一を自給自足 記入日:2016/7/21	(2)この取組でどのような状況の達成を目指すか 人口減を課題とする地域と、荒廃した山林をマッチング・ し、森林から生じる熱エネルギーを地元の大型施設や 1 一般家庭で利用する仕組みを構築する。 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(5)事業終了時にステークホルダーとの関係性はどの ようなもの変化しているとよいか	<ul> <li>⑧この取組を進める上で課題にどのように対応するか(協働全体会で本質バイオマス利用についての勉強会・な、森林を実際に歩いてみるなど会議のみならず現場 目線での体験を取り込み理解を図る。</li> <li>・ステークホルダー以外の一般住民にもセミナー企画のお手伝いを依頼するなど、広がりを作る工夫を行う・協議会の内容をプレスリリースや地域広報で発信を積極的に行う。</li> </ul>
Millary   Millary   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100   100	(1)この取組がどうして必要なのか ・現在表面化している問題はなにか ・昭和25年ごろの最盛期3500名いた人口が、現在では1500名を割る状況。地域の様々な機能が失われている。 ・昭和30年代盛んだった林業の衰退の影響で荒廃した森林も広がっている。 ・現在地域内で利用されているエネルギー(重油・灯油)を貨幣換算すると地域外に約1億円が流出している。 ・放置した場合にどのような問題が生じるか ・放置した場合にどのような問題が生じるか 15年後には人口800名前後に試算もあり、地域の活力、利便性の低下が懸念される。荒廃した森林はさらに荒れ、手入れの出来ない状況に陥る。	(4)事業開始時のステークホルダーとの関係性はどの ようなものか 日本能率協会	⑦この取組を進める上での課題は何か ・ステークホルダー内部で木質バイオマスに対する理解に差がある。木質バイオマス利用について不信感もある。 ある。 ・協働主体以外の一般住民に対する木質バイオマス への興味の醸成。

鶴岡市三瀬地区自治会 ( H 28 協働カレンダー)

記入フォーム②事業スケジュール	10月 11月 12月 1月	地域連絡会 第2回連絡会 地域連絡会 報告会		栽培漁業セン ・豊浦小学校 デイサービス はちもり はちもり		三瀬木質 バイオマス名 (仮)	9/下旬 第2回全体会議	<ul> <li>裁培漁業セン</li> <li>・豊浦小学校</li> <li>・豊浦中学校</li> <li>デイサービス</li> <li>・保育園</li> <li>はちもり</li> <li>コミセン</li> </ul>	調査・打ち合わせ 調査・打ち合わせ	部会セミナー実施 打ち合わせ 打ち合わせ 打ち合わせ
		фи					搬			— 実施 - 1- 2- 2- 2- 2- 2- 2- 2- 2- 2- 2- 2- 2- 2-
	11月	第2回連絡						10.1 10.1		部会セミナ 打ち合わせ
	10月			·豐浦小学校 ·豐浦中学校 ·保育園				·····································		施
- ル	日6	地域連絡会					9/下旬 第2回全体会議		調査・打ち合わ	部会セミナー実   打ち合わせ   115合わせ
業スケジュ-				・栽培漁業セン ター ・デイサービス ・はちもり ・コミセン				・栽培漁業セン ター ・デイサービス ・デオサービス ・よちもり	部会打ち合わせ	
、フォーム②事	月7	第1回連絡会(キックオフ)					7/20 第1回全体会議			
	旨9	地域連絡会								
協働取組カレンダー		協働取組加速化事業の連絡会・勉強会・報告会の開催 (予定)	全体会議	木質バイオマス検討部会	資源供給検討 部会	一般啓蒙検討 部会	全体会議	木質バイオマス検討部会	資源供給検討 部会	一般啓蒙検討 部余
笳働	/	品 業 の ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		<b>友外的</b>		1 -		女氏名:		

### (1)事業の全体構成 中期計画シート(概要版)

## 記入者:石塚慶(鶴岡市三瀬地区自治会 事務局長) 記入日:2017年2月6日 鶴岡市三瀬地区木質バイオマスで地域のエネルギーを自給自足 事業名:

# この取組がどうして必要なのか

- ・現在表面化している問題はなにか
- 名を割る状況。地域の様々な機能が失われている。昭和30年代盛んだった林業の衰退の影響で荒廃した森林も広がって 昭和25年ごろの最盛期3500名いた人口が、現在では1500
- ・現在地域内で利用されているエネルギー(重油・灯油)を貨
  - ・放置した場合にどのような問題が生じるか
- 15年後には人口800名前後に試算もあり、地域の活力、利便性の低下が懸念される。荒廃した森林はさらに荒れ、手入れ の出来ない状況に陥る。

4)今年度末時点のステークホルダーとの関係性はど

のようなものか -等級入調查協力施設 脚衛坯簇川

# 幣換算すると地域外に約1億円が流出している。

# ②この取組でどのような状況の達成を目指すか

- -2017年度時点 協議会の設立
- 2018年度時点
- 大型施設での木質バイオマス利用についての具体的進捗。 一般住民への木質バイオマス利用の啓蒙・関心増加 協議会体制による継続協議。
  - -2019年度時点
- 協議会体制での継続協議

一般住民への木質バイオマス利用の啓蒙イベント勉強会実施

大型施設木質バイオマス利用の拡大

協議会体制での継続協議

•2019年度時点

大型施設木質バイオマス利用の具体的な導入の推進

-2018年<u>度時</u> 協議会体制の継続協議

・2017年<u>度時点</u> ステークホルダーとの課題内容の共有。協議会体制の確立。 専門家による木質バイオマス利用の可能性の調査・実験

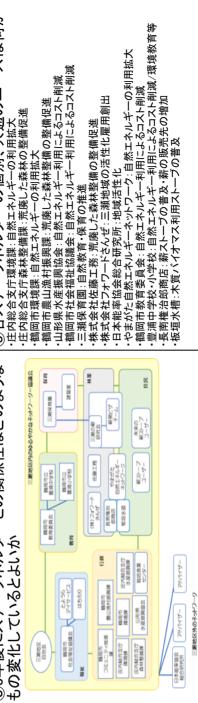
一般住民への木質バイオマス利用の啓蒙イベントの実施

③この取組で具体的に何をどのように行うのか

- 木質バイオマス大型利用施設の拡大
- 一般住民の木質バイオマスへの関心・具体的導入の拡大 自治体施設での地域産木質バイオマス利用の協定締結

# ⑤各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か 一般住民の木質バイオマスへの関心拡大。導入家庭の増加。

### ⑤3年後にステークホルダーとの関係性はどのような もの変化しているとよいか



推掘旅

國征送業三

佐藤工務

職団活力扱業等 機工流力扱業等

質激供給検討部会

この取組を進める上で課題にどのように対応するか (②この取組をどのように継続させるか

7)この取組を進める上での課題は何か

- ・協働全体会で木質バイオマス利用についての勉強 解に差がある。木質バイオマス利用について不信感も ・ステークホルダー内部で木質バイオマスに対する理
  - きさバランスをとる。 ・最終的に得られる成果の大きさがステークホルダ てよって違うため、取組度合のバランスが悪い。
    - ・ステークホルダー以外の一般住民に対する木質バイ オマスへの興味の醸成。
- 会や、森林を実際に歩いてみるなど会議のみならず現場目線での体験を取り込み理解を図る。 ・協議会を立ち上げ、ある程度時間をかけてステーク **ホルダーとの継続協議の中でそれがたのメリットの大**
- ・ステークホルダー以外の一般住民にもセミナー企画 のお手伝いを依頼するなど、広がりを作る工夫を行
- ・協議会の内容をプレスリリースや地域広報で発信を 積極的に行う。

# 板垣水槽:木質バイオマス利用ストーブの普及

・継続的な地域内木質バイオマス利用を考える協議会 を設置することで、それぞれが個別のメリットを求めな がらも最終的には地域の活性化・人口減対策につな がるような組織にしていく。

体公

三菱基区田泊州

	2017年度の重点目標・事業内容	3標·事業内容			2018年度の重点	点目標 事業内容			2019年	2019年度の重点目標・事業内容	5業内容	
【重点目標】 ステークホルグ 立。	目標】  -クホルダーとの課題内容の共有。協議会体制の確	3の共有。協	議会体制の確	【重点 ステー 悪施。	「一発のバイオ	「目標】 ロボルダー発のバイオマス利用の積極的な提案・ のでは、	極的な提案・	【重点目標】 継続的な地区 「大型施設への	内木質バイオン り設備更新によ	7ス利用のた& 3いて地域算出	<ul><li>【重点目標】</li><li>継続的な地区内木質バイオマス利用のための協定締結</li><li>大型施設への設備更新において地域算出木質バイオマスと利用</li></ul>	7と利用!」
「事業内容」・専門家による。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	【事業内容】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	利用の可能 算出。 受での利用コ 確認。 確認。 林計画と、2 林計画等を記 計画等を係る 計画等を係る	性の調査 スト、数値では 016年度算出 ご、実際に使 正していく。 ぎイベントの実	「事業内容」 ・協議会の定期的な実施と 有。 ・具体的な地域内大型施設 導入プロジェクトの運営。ス、 にて力を発揮し、スムーズが 回を策定し、可能な部分から 森林資源のポテンシャルを た今後10年の産出量・使用 された量との差異を確認し、 ・一般住民への木質バイオー 一般住民への木質バイオー	# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	「事業内容」 ・協議会の定期的な実施とステークホルダー内情報共有。 有。 ・具体的な地域内大型施設に木質バイオマス利用設備の 導入プロジェクトの運営。ステークホルダーが各ポジション にて力を発揮し、スムーズかつ適正な導入を目指す。計 画を策定し、可能な部分から実行。 ・森林資源のポテンシャルを森林計画と、2016年度算出し た今後10年の産出量・使用量見込みを元に、実際に使用 された量との差異を確認し、計画等を修正していく。 ・一般住民への木質バイオマス利用の啓蒙イベントの実施。一般な民への木質バイオマス利用の啓蒙イベントの実施。一般住民への木質バイオマス利用の啓蒙イベントの実施。一般な配	「事業内容」 ・協議会の定期的な実施とステークホルダー内情報共有。 有。 ・具体的な地域内大型施設に本質バイオマス利用設備の 導入プロジェクトの運営。ステークホルダーが各ポジション にて力を発揮し、スムーズかつ適正な導入を目指す。計 回を策定し、可能な部分から実行。 ・森林資源のポテンシャルを森林計画と、2016年度算出した今後10年の産出量・使用量見込みを元に、実際に使用された量との差異を確認し、計画等を修正していく。 ・一般住民への木質バイオマス利用の啓蒙イベントの実施。一般な民への木質バイオマス利用の啓蒙イベントの実施。一般な民民への木質バイオマス利用の啓蒙イベントの実施。一般な庭への木質バイオマスエネルギー使用設備の普及確認。	「事業内容」 ・協議会の定す ・協議会の定す ・の運営。スプ ・プ國正な導入・計画を元に、 める。 ・森林資源の・ 森林資源の・ ・静田等を修正 ・一般住民へく の木質バイオ	明的な実施とス がカ大型施設に ・一クホルダーオ を目指す。計画 各施設保特団・ パナンシャルを にていく。 の木質バイオマ マスエネルギー	ナークホルダ- : 木質 バイオマ : 木質 バイオマ : 体名 ポジション   存	【事業内容】 ・協議会の定期的な実施とステークホルダー内情報共有。 ・協議会の定期的な実施とステークホルダー内情報共有。 ・具体的な地域内大型施設に木質バイオマス利用設備の導入プロジェケトの運営。ステークホルダーが各ポジションにて力を発揮し、スムーズかつ適正な導入を目指す。計画を策定し、可能な部分から実行。・計画を元に、各施設保持団体との協定締結に向けての確認事項を詰める。 ・森林資源のポテンシャルを森林計画と、2016年度算出した今後10年の産出量・使用量見込みを元に、実際に使用された量との差異を確認し、計画等を修正していく。 ・一般住民への木質バイオマス利用の啓蒙イベントの実施。一般家庭への木質バイオマスエネルギー使用設備の普及確認。	算入プロジェク 、スムーズか 行。 記事項を詰 に今後10年の 異を確認し、 ・一般家庭へ
							ł				ļ	
回 本	4 目 ~   1		2017年度  10月~	—————————————————————————————————————	4 目 ~	2018  7 B ~	2018年度  10月~	—————————————————————————————————————	~ 目 7	2018 7 B ~	2019年度  10目∼	—————————————————————————————————————
			協議会設立									協定締結
全体会議					ステークホリ	レダーによる全体会	-クホルダーによる全体会(=協議会)の実施	; 年3回				
			大型施設保有ステ	i i	クホルダーとの導入可能性の確認	:の確認 各施設年1回	ボイラ-	等の進捗可能施設	- 更新等の進捗可能施設との導入計画作成・実施	·実施		
大型施設での利 用の継続検討		4	木質バイオマス導入施設コスト制減状況の確認	ス導入施設 そ況の確認		,	木質バイオマス導入施設 コスト削減状況の確認	導入施設の確認			木質バイオマス導入施設コスト削減状況の確認	導入施設 3の確認
資源供給部分の 継続可能性判断	森林計画実施確認見込みとの差異の確認	を確認 その 確認			森林計画部	実施確認			森林計画実施確認	施確認		
ー般市民への啓 蒙 イベント・勉強会		計画・実施	実施	アンケート普及進捗確認		計画・実施	1	アンケート普及進捗確認		計画・実施	1	アンケート普及進捗確認

中期計画シート(概要版) ②事業スケジュール

### 記入フォーム①事業の全体構成 協働取組カレンダー

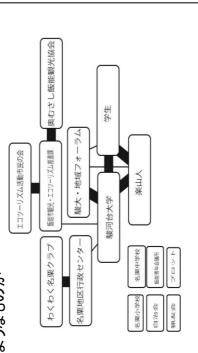
記入日:2016.6.24 名栗の環境問題と地域課題を考える里山型自然学校の構築と地域連携プロジェクト 業名

この取組がどうして必要なのか

現在表面化している問題はなにか

少子高齢化の進行と若年層の流出による高齢化の進 行、限界集落化に直面しており、地域活力の低下が危惧されている地区となっている。空き家や放棄農地、手入れの行き届かない森林が増加し、有害獣が頻繁に出没するなど、悪循環が起こっている状態。 過疎化の更なる進行、里山としての生態系の喪失、 落消滅の危機 ・放置した場合にどのような問題が生じるか

④事業開始時のステークホルダーとの関係性はどのようなものか



この取組を進める上での課題は何か

「里山型自然学校」に関係する人たちとのビジョンの構築や共有 「里山型自然学校」というものへの理解の醸成

空き家の確保 自立的運営のための経済基盤の構築 地域の組織と外部の組織との認識の差

②この取組でどのような状況の達成を目指すか

・山間地域での小さな拠点としての「名栗式里山型自

·「名栗式里山型自然学校設立準備会(仮)」を設置、

3)この取組で具体的に何をどのように行うのか

平井純子

記入者:

有効に活用すべく、飯能市が取り組むエコツーリズム の概念に基づいたインタープリテーション実施計画づく 関係者との協議、ブレストを行う ・地域資源を発掘・把握するための調査、その資源を 然学校」の構築 ・里山型自然学校を回していくための仕組みづくりと周

本取組周知のための講演会とイベントの実施

・駿河台大学・学生・学生の社会人基礎力の育成、地 ⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か ⑤事業終了時にステークホルダーとの関係性はどのようなもの変化しているとよいか

・楽山人:放棄農地、山林の有効利用

※日人 学生

駿大・地域フォーラム

・飯能市各部署・観光協会・わくわく名栗クラブ・JC・自治会・観光振興、地域振興、地域活性化、交流人口の増加、ひいては消滅可能性都市からの脱却・猟友会・プロット・有害鳥獣駆除への理解醸成、周知

自然学校応援団

里山型自然学校

名栗式

エコツーリズム活動市民の会 駿河台大学

飯能市観光・エコツーリズム推進課 自治会

わくわく名栗クラブ 名栗地区行政センタ 名栗小学校 名栗中学校

> 飯能青年会議所 猟友会 プロット

> > 奥むさし飯能観光協会

小中学校・地域理解、環境教育の場の確保

・駿大・地域フォーラム、活動市民の会:地域貢献、居 場所づくり、自己実現

8この取組を進める上で課題にどのように対応するか | 9この取組をどのように継続させるか ・対画での丁寧な説明と対応

まわせる仕組みの確立し、里山型自然学校として継続させる。⇒稼ぐプログラムの実施、組織のあり方、人材育成、地域内外の協力体制の構築

	□ 38 日 1 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日			(2) (2) (2) (2) (4) (4) (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7) (7	7	日6		§源調査(9~ 1日)・エコツ 7一試行⑥⑦ 3日、4日)	無無		5民家、畑、森   古民 14の手入れ   林の	
<b>た</b>   。				10月 時 9日) 9日) かの来 なのキスカ、海、森		8月		ッアー試行 <u>資源</u> (4)(5) (11日) アー試 (3日、	ント実施(6		<b>長家、畑、森   古民》</b> 9手入れ   林のヨ	
エコップー社(2)事業スク       エコップー試行 エコップ (2)3(4) (2)3(4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)			ール 9月 11日)・エコツ アー試行⑥⑦ (3日、4日) (3日、4日) (4の手入れ、森	10月       11日)・エコツ アー試行⑥⑦       3日、4日)       (3日、4日)       (3日、4日)       (3日、4月)       (3日、春日)       (3日、春日)       (3日、春日)	事業スケ			ンアー試行 エコソフ (234)	<u> </u>	説明会開 一個活用七三	5家、畑、森 古民家 5手入れ 林の手	
6月       第1回連絡会 (キックオン)       日程調整と参 山岩検討 加岩検討 が 森 カ民 林の手入れ 林の手入れ 林の手入れ 林の手入れ 林の手入れ 林の手入れ 林の手入れ 林の手入れ 村の手	7日 第 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8		ール 9月 11日)・エコツ アー試行⑥⑦ (3日、4日) (3日、4日) (4の手入れ、森	10月       11日)・エコツ アー試行⑥⑦       3日、4日)       (3日、4日)       (3日、4日)       (3日、4月)       (3日、春日)       (3日、春日)       (3日、春日)	-42		1	\$)	1	™ <sup>™</sup> <del>™</del>	III. O	
AK   AK   AK   AK   AK   AK   AK   AK	7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 8 9 8 9	業 スケジュー 8月 1コツアー試行 23346 日) オペント実施(6 日) 特の手入れ、森 林の手入れ	1	10月       1 資源調査(9~       11日)・エコツ アー試行⑥⑦       3日、4日)       (3日、4日)       (3日、4日)       (3日、4月)       (3日、春日)       (3日、7九、森 村の手入れ、林の手入れ、林の手入れ、林の手入れ、林の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入り、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の	-42		•	\$\	1	<del></del>	E	
9月     10月     11月       11日)・エコップ — 試行 (3日、4日)     第2回連絡会 (3日、4日)       7 — 試行 (3日、4日)     (3日、4日)       6     講演会実施(2 (3日、4日)       6     対象 方民家、畑、森 方民家、畑、森 方民家、畑、森 方民家、畑、森 村の手入れ、林の手入れ、林の手入れ、林の手入れ、林の手入れ、林の手入れ、林の手入れ、林の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、村の手入れ、	10月   11月   第2回連絡会   第2回連絡会   第3回連絡会   第30回連絡会   第30回連絡会   第30回連絡会   第30回連絡会   第30回連絡会   第30回連絡会   第30回連絡会   第30回連絡会   第30日)   第44プレスト   44の手入れ   44の手入れ	第2回連絡会 Tコツアー試行 8 カースト 林ブレスト 林の エスカ、 林 か エスカ、 本 本 カ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・ 本 か ・	第2回連絡会 エコップー試行 8 カラミングーは がの手入か なの手入か			12月		エコツアー試行 ③			<b>古民家、畑、森林の手入れ</b>	
9月     10月     11月       11日)・エコップー試行 (3日、4日)     第2回連絡会 (3日、4日)       第1日)・エコップー試行 (3日、4日)     (3日、4日)       第演会実施(2 (3日、4日)     (3日、4日)       6 (3日、4日)     (3日、4日、4日)       6 (3日、4日、4日)     (3日、4日、4日、4日、4日、4日、4日、4日、4日、4日、4日、4日、4日、4日	10月   11月   第2回連絡会   第2回連絡会   第3回連絡会   第300   第300   第300   第300   第300   第300   第400   第	第2回連絡会 Tコツアー試行 参 おの エカンスト 森林ブレスト 林の エスカ、 林の エスカ	第2回連絡会 エコツアー試行 エコツアー試行 8 あみプレスト 森林プレスト 林の手入れ 林の手入れ	12月 12月 エコツアー試行 第 本 本の手入れ、森		1月		エコツアー試行 ⑩			古民家、畑、森 林の手入れ	
9月     10月     11月     12月       「音源調査(9~ 11日)・エコツ 7~試行⑥⑦ (3日、4日)     エコツアー試行 エコツアー試行 (3日、4日)     第次要施(2       6     講演会実施(2       6     5日家、畑、森 古民家、畑、森 古民家、畑、森 古民家、畑、森 古民家、畑、森 村の手入れ、森 かの手入れ、森 かの手入れ、森 かの手入れ、森 かの手入れ、森 かの手入れ、森 かの手入れ、森 かの手入れ、森 かの手入れ、森 かの手入れ、森 かり手入れ、森 かり手入れ、東 かり手入れ もりりを入れるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれるれる	10月   12月   12月   12月   第2回連絡会   第2回連絡会   エコツアー試行 エコツアー試行 エコツアー試行	第2回連絡会 エコヅアー試行 エコヅアー試行 B	12月 12月 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50	12月 12月 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50 50		2月	報告 会	・インターブリ テーション報告 書取りまとめ		組織立ち上げ	: 古民家、畑、森林の手入れ	
9月     10月     11月     12月     1月       6     第2回連絡会     エコツアー試行 エコツアー試行 エコツアー試行 エコツアー試行 エコッアー試行 エコッアー試行 エコッアー試行 エコッアー試行 (31日、4日)     (3日、4日)     (3日、4日)     (4日)     (4日)     (4日)     (5日)     (5	10月   11月   12月   1月   1月   1月   1月   1月	第2回連絡会 第2回連絡会 エコツアー試行 エコツアー試行 エコツアー試行 8 あ林ブレスト おの手入れ 森 <i>古民家、畑、森 古民家、畑、森 林の手入れ 林の手入れ</i>	12月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 1月 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	12月 1月 1月 1月 1月 11日 11日 11日 11日 11日 11日 11							lu.	

### (1)事業の全体構成 計画シート(概要版) 中期

名栗の環境問題と地域課題を考える里山型自然学校の構築と地域連携プロジェクト 記入日:2017年2月 事業名:

## ①この取組がどうして必要なのか

進行および限界集落化に直面しており、地域活力の低下が問題視される。空き家や放棄農地、森林資源の未活用、有害獣の問題など、悪循環に陥っている。 少子高齢化の進行と若年層の流出による高齢化の ・現在表面化している問題はなにか

過疎化の進行と里山生態系の喪失、集落の消滅 ・放置した場合にどのような問題が生じるか

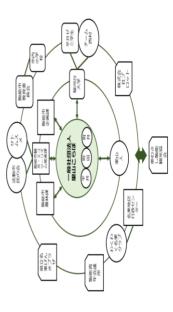
# ②この取組でどのような状況の達成を目指すか

・2017年度時点 4月に一般社団法人里山こらぼの立ち上げ。これを小さな拠点とし、情報発信をしつつ、エコツアープログラムの企画とその実施、事務所兼カフェとなる蔵の片付けと改修、学校教育との連携、ジビエ活用ができるよう話を進める。

事務所兼カフェをオープン。カフェではジビエ活用のランチの提供、多世代間が集えるコミュニティの場をつくる。飯能市エコツーリズム業務の一部委託を請け負う。 -2018年度時点 -2019年度時点

び観光部門業務の委託を請け負う(エコツーリズムDMO構築 ここならではのアフタースクールの提供で、在学児童数を確保。それに必要なサービスの充実。飯能市エコツーリズム及

⑤3年後にステークホルダーとの関係性はどのような もの変化しているとよいか ④今年度末時点のステークホルダーとの関係性はど



この取組を進める上での課題は何か

株式会 仕プロット

- ・なぜこの組織が必要かの共通認識の醸成 ・各ステークホルダーと里山こらぼとの協力体制の構
- ・エコツアーのビジネス展開に対する理解の獲得 (=「稼ぐ」ことへの理解)
  - ・拠点へのアクセス手段の確保 ・ステークホルダーとの情報共有
- - 街中や他地域への認知度アップ
    - 初期資金の調達
- して自主的に活動できる人材の確保

- この取組を進める上で課題にどのように対応するか
  - ・地域の問題解決につながっていると実感される事業 ・地道な説明、誰でも参加しやすい雰囲気づくり ・組織の見える化、定期的に気軽に集まれる場づくり
- ・交通機関、乗り合いなど新たな移動手段の検討
- ・メールマガジン、ウェブサイトでの情報発信、PR・地域の特色を生かした食事や特産品の開発、販売・他地域への視察研修、資格習得など人材の教育
- ・経済的な補償がなければ継続は厳しいので2017年 **よ農水省の農泊関係で予算が確保できるか検討**

3この取組で具体的に何をどのように行うのか

平井結子、町井干波、町田範子

記入者:

- -2017年度時点
- 一般社団法人里山こらぼの総会開催。名栗地区において、資源を有効活用したエコツーリズムの実践と収益事業の展開。 拠点となる場づくり。
  - 飯能市から業務委託を受け、エコツーリズム推進事業の一部 こなる場 こくり。 -2018年度時点
    - を行う。事務所兼カフェのオ -2019年度時点
- 空き家、放棄農地、森林資源を活用したアフタースクール事業および高齢者向け事業の開始.

⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か

・バラバラになっている活動の共有 多世代間コミュニケーションの場

・もの、ひと、ことをつなぐ ・空き家の活用

生業づくり

森林の手入れ

- ・事業を回せる仕組みの構築(資金、人材) ③この取組をどのように継続させるか
- ・傍観している人が関わりたくなるような役割、 ルドの提供・拡大
- ・まず取り組み主体が楽しんで活動できる組織の構築
- ・地域への貢献が見える成果を出し続けること・・・活動に見合う報酬が得られるビジネスモデルの構築
- ステークホルダーや地域の住民との良好な関係維持 ・行政との連携
  - 物販の拡大 •PR活動の継続、
- ・社長がいなくても組織がまわるようスタッフが自立す

おなり

最近世代

版能市職權林課

飯能青年 会議所

のようなものか

中期計画	中期計画シート(概要版) ②事業スケジュール	版)②事業	ミスケジュー	ル								
	2017年度の重点目標・事業内容	[目標·事業内容	ľ/n		2018年度の重点	目標•事業内容			2019年	2019年度の重点目標・事	•事業内容	
重 点 目標:- 事業計画 •エコツアー •関係諸機	重点目標:一般社団法人の設立と拠点づくり 事業計画 ・エコツア―の企画・運営 ・関係諸機関との調整	の設立と拠	点づくり	重点目標:写 ツーリズム ・エコツアー・エコツアー・コール・コール・コール・コール・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・フェー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファー・ファ	重点目標:事務所の開設とカフェの運営開始。エコツーリズム業務の引き受け 事業計画 ・エコツアーの企画・実施 ・カフェにてジビエ活用手法の実践 ・コミュニティカフェの実現 ・エコツーリズム推進事業業務の一部受託	<u>-</u> - - - - - - - - - - - - - - - - - -	H H	重点目標:ア. 開始と運用 事業計画 ・エコツアーの ・カフェの継続 ・カフェの継続 ・アフタースク ・高齢者サーは ・領能市のエ:	重点目標:アフタースケール事業	小事業、高 実施 推進事業及	フタースクール事業、高齢者向けサービス事業の の企画・実施 7-ル事業 ビス事業の実施 コツーリズム推進事業及びDMO業務の委託事業	ビス事業のの委託事業
ď			2017年度				2018年度				2019年度	
w 行36	4月~	7月~	10月~	1月~	4月~ 7	7月~	10月~	1月~	4月~	7月~	10月~	1月~
フキーカボニ												1
ダーニードイング			-	ステーク	-クホルダーミーティンク	グの開催(コアメンバー1回	一一	広範囲2回/年程度)			_	
		載の改修	 改修									
拠点整備												4
					-	-		コミュニティカフェ	71			
												_
エコツアーの企					一	業となるエコツアー	企画の試行					î
<b>堀</b> ■ ■												
敗能ホエコツー リズム推進業務							軟	将来的にはDMOの拠	点として機能			
請負												
アフタースクール事業・自然を向												1
けん げサーバス事業 の展開												

华
華
体構成
争
ALI ALI
事業の
粣
卌
⊕ <b>1</b>
4
+
7
記入7
띪
Ź
1
力
쯼
働取組
朔
控

事業名: 荒廃した地域資源の回復と未利用地の利用による環境保全、経済資源の形成による辻又集落の記入日:2016 再生事業 (1) 二の取組がどうして必要だのか	***	
の砂組 ボブンニ ア 必要なのか		記入者: 足立 和彦
ンなどはい、しくし、必、女、やいと、		③この取組で具体的に何をどのように行うのか・・田畑、山林の現状の聞き取りと調査を進め、今後の活動に適したエリ
・ <u>現在表面化している問題</u> はなにか ・高齢化による担い手不足で耕作放棄地の増加や山林の荒廃が進んで いるため、地域が本来持っている資源を活用できていない。 ・になる。また、其の結果として新たな定住者の確保に繋げる。		アの選定、所有者との交渉を行い、活動計画を作成する。 ·田畑、山林整備後の利活用として環境教育・自然体験ツアーを企画、 実施する。
・地域おこし協力隊、NPO、大学が地域住民と協働し主体的に動く事に よって、集落の持続を可能にする体制の基盤が出来る。 <u>・放置した場合にどのような問題が生じるか</u>		・専修大学森本ゼミ、東京エ科大学、長岡技術科学大学などと協働して、若者による新しい目線からの地域活性化策を検討する。
・高齢化による担い手不足から耕作放棄地、山林の荒廃が進み、集落と しての維持が困難になる。 ・田畑、山林の保水力が低下し、自然災害等の危険が増す。	. 0	・定期的に協議会を開催し、メンバー間での進捗状況の確認をし、対策の見直しを行っていく。
・里山環境としての生態系が失われる。	• 1,744	・田畑、山林の改修作業を通じて利用方法の検討を行い、整備後の地域 資源活用計画づくりを行う。
①事業開始時のステークホルダーとの関係性はどのようなも ⑤事業終了時にステークホルダーとののか。	ークホルダーとの関係性はどの 3 と といか	⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か
A JA DO JA JUD A	PR企画 (自然体験ツアー)	·南魚沼市地方創生推進室 総合的な人口減少対策、地域自治活動支援·推進、シニアライフ施策の推進·調整
大学   大学   大学   大学   大学   大学   大学   大学	情報 <b>発信</b>	・辻又行政区 集落の維持、発展
·	事像大学 (株本 七三) (株本 七三) 東京工場大学 東京工場大学 原国政院出学大	<ul><li>・魚沼伝習館 地域資源を活用した持続可能な仕組みを構築し、それを波及する</li></ul>
展覧 (2014年 大大大田東京部域 中海域が1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	All And Control of Land	・地域おこし協力隊 地域の活性化と地域力の維持・強化を促進する
作品本 (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国人) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中) (中) (中) (中) (中) (中) (中) (中	江大山場師談江 (自治) 第一 (自治) 语称 (自治) 语言 (自治)	・専修大学、森本ゼミ 経営活動・社会活動で生じる様々な問題について、『情報』の視点で解決する。
上文布政区		・ろうきん森の学校 労働金庫連合会のCSRとして全国5地区で取り組む里山 再生事業
⑦この取組を進める上での課題は何か ⑧この取組を進める上で課題にどのよ	で課題にどのように対応するか	⑨この取組をどのように継続させるか
・地域住民の高齢化もLくは兼業のため、改修作業等にあたり、担い手と 対力を入材が不足している。		・整備した田畑、山林を青少年教育の一環としての環境教育の場としても活用していく事で、収入源を多様化させ将来的な経済基盤の一助にす 2
・地域住民に集落を持続させたいという思いはあるが、若手世代のほと ムゲが事業で集落外へ働きにHているよか、他にはあるが、若手世代のほと し、地域住民が主体となって行動できるような体制作りを行う。	<b>当で共有</b>	る。 ・集落内に新たな生業の場を生み出す事で新たな定住者を確保する。
化へ向けた行動に結びついていない。	. 10	・活用計画を住民が主体的に進める事で、取り組みに関する意欲を持続 させる。
	. 4	・市の地域活性化のモデルケースになる事で、来年度以降の予算を確保できるようにする。

辻又地域協議会 (H28協働カレンダー)

	2月 3月	報告会				第4回協議会		
	1月					·	報告会の開催	
	12月							
	11月	第2回連絡会	1			第3回協議会	ワークショップ の開催 の開催	
	10月			ツアーの開催				
-ル	日6					第2回協議会		
業スケジュー	8月			募集開始				
記入フォーム②事業スケジュール	7月			自然体験ツアーの企画	初回打ち合わせ	第一回協議会 の開催	ワークショップ の開催 (ワークショップ は協力隊の報 告会と併せて 行う)	
	畄9	第1回連絡会 (キックオフ)	森林整備・田畑 の改修は随時 行う					
協働取組カレンダー		   協働取組加速化   事業の連絡会・勉   強会・報告会の開   催(予定)	山林・田畑の改参	自然体験ツ アーの開催	大学生の目 線からの地 域活性化	協議会の開 催	地域住民の巻き込み	活動⑥
協倕	/	战事強 衝業会		対外的な活動			対内的な活動	

### (1)事業の全体構成 中期計画シート(概要版)

事業名:荒廃した地域資源の回復と未利用地の活用による環境保全、経済資源の形 辻又集落の再生事業	<b>覧保全、経済資源の形成による   記入日:平成29年2月6日</b>	記入者: 足立 知彦
①この取組がどうして必要なのか	②この取組でどのような状況の達成を目指すか	③この取組で具体的に何をどのように行うのか ・2017年度時点
・現在表面化している問題はなにか ・高齢化による担い手不足で耕作放棄地の増加や山林の荒廃が進んで いるモが、神味がままはっている姿態を活用できていた。	<u>5時点</u> わる住民を増やす事で、集落全体として関われ	・田畑の改修、山林整備を進める・協議会、口一クショップを定期的に開催する事で、協議会に関わる地区は、おる地区住民を増やす。
。ことにことととは、これのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	۵۴.۲۱-۶ ۵.	

# ・放置した場合にどのような問題が生じるか

- 高齢化による担い手不足から耕作放棄地、山林の荒廃が進み、集落と しての維持が困難になる。

  - 田畑、山林の保水力が低下し、自然災害等の危険が増す 里山環境としての生態系が失われる。

·2018年度時点 ・法人化に向けて具体的な話し合いを続け、団体としての形を 半めたいく

・地区の自然を活かしたイベント等の実施を通して交流人口を

・田畑の改修、山林整備を進める。

-2018年度時

増加させる。

・団体の形についての話し合いを進める。

増加させる。

-2019年度時点

- ·2019年度時点 集落の今後の農業・林業・観光等を担える形での団体を立ち

もの変化しているとよいか

域資源の保全・活用

南無沼市 貴林課

専修大学 (森本 ゼミ) 東京工科大学 長岡技術科学大

魚沼伝 習館

計算

向けた取組み

辻又地域協議会

にステークホルダ

53年後1

今年度末時点のステークホルダーとの関係性はど

4今年度不埒 のようなものか

## ⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か ーとの関係性はどのような

ち上げる団体を中心に集落の農業・林業・観光を担ってい

総合的な人口減少対策、地域自治活動 支援・推進、シニアライフ施策の推進・調整・ ・辻又行政区 集落の維持、発展 ・魚沼伝習館 地域資源を活用した持続す 南魚沼市地方創生推進室

地域資源を活用した持続可能な仕組みを構築し、それ

を波及する

・地域おこし協力隊 地域の活性化と地域力の維持・強化を促進する・・地域お市女子力観光プロモーションテーム 女性の視点から全く新しい切り口で南魚沼市の観光を考え、イベント企画や観光関連事業への提案を行う

、「森づくり」から始まる「人づくり・地域づくり」にしな ・専修大学、森本ゼミ 経営活動・社会活動で生じる様々な問題につい て、『情報』の視点で解決する。 ・ろうきん森の学校 、「森づくり げる環境教育事業

## この取組を進める上での課題は何か

- ・地域住民の高齢化もしくは兼業のため、改修作業等にあたり、担い手と なれる人材が不足している。
- ・地域住民に集落を持続させたいという思いはあるが、若手世代のほとんどが兼業で集落外へ働きに出ているため、忙しさもあり具体的な活性化へ向けた行動に結びついていけない。
- ・協議会として話し合いを進めているが、参加するのが一部の住民にとどまっていて、地区全体の取り組みにまで広がっていない。

### にどのように対応するか この取組を進める上で課題

無 占 智 智 智

K

- ・ワークショップ等を通じて集落の目指す未来像を住民、関係者で共有し、地域住民が主体となって行動できるような体制作りを行う。

### 予算の確保

# ・整備した田畑、山林を青少年教育の一環としての環境教育の場としても活用していく事で、収入源を多様化させ将来的な経済基盤の一助にす ・大学等と連携したボランティア募集や、経済基盤を確立する事での新規就農者等、担い手となれる人材候補を確保する。

ゆこの取組をどのように継続させるか

- ・集落内に新たな生業の場を生み出す事で新たな定住者を確保する。
- ・活用計画づくりを住民が主体的に進める事で、取り組みに関する意欲を持続させる。
- ·市の地域活性化のモデルケースになる事で、来年度以降の予算を確保できるようにする。

新潟県 労働金庫

茶林研 究所

新鴻県 岩域被 興局

中期計画シート(概要版)②事業スケジュール	1/-	
2017年度の重点目標・事業内容	2018年度の重点目標・事業内容	2019年度の重点目標・事業内容
・ワークショップの開催等を通じて、協議会に関わる地区住民を増やし、 やし、 地区としてより主体的に関われるようにする。	<ul><li>・定期的な協議会の開催を通じて、今後の法人化のあり方を検討していく。</li></ul>	・集落の今後の農業・林業・観光の分野を担えるような団体を立ち上げる。
(事業内容) 協議会、定例会の定期的な開催 田畑の改修・山林整備 地域の資源を活かしたイベントの実施 ワーケンョップの開催	(事業内容) 協議会、定例会の定期的な開催 田畑の改修・山林整備 地域の資源を活かしたイベントの実施	(事業内容) 協議会、定例会の定期的な開催 田畑の改修・山林整備 地域の資源を活かしたイベントの実施
		2019年度
(T製計画 4月~   7月~   10月~	1月~ 4月~ 7月~ 10月~	1月~   4月~   7月~   10月~   11月~
<b>                                    </b>	定期的な協議会の開催	
₩ 264 (70) H-J-I-2-		
田畑の改修計画・実施	計画・実施	計画・実施
山林の整備	計画・実施	計画・実施
地域資源を活か したイベント等の 実施	1	1
ワーケンョップの		

### 記入フォーム①事業の全体構成 協働取組カレンダ

### 伊勢竹鶏物語~3Rプロジェクト~Part2 佑

## この取組がどうして必要なのか

## ・現在表面化している問題はなにか

- ・四日市市内の里山の竹林の多くが荒廃し、一部、里山保全 団体で竹林整備はしているものの伐採した竹の大部分は野 積み状態にある。
- ・圃場の転作作物の影響等により土壌の地力は低下しており、地元農産物の生産野菜等は、栄養価の低下や収穫量に
  - 影響を受けている状況下にある
- ・里山や自然が荒廃し、生態系や生物多様性の劣化、二酸化 ・放置した場合にどのような問題が生じるか
  - ・農産物の品質低下につながり、収穫量の減産と成り得る。 炭素の放出につながる。

### ②この取組でどのような状況の達成を目指すか 記入日:28年7月4日

# ・竹林を整備し、里山の復元と竹を資源として活用。

- ・竹林の管理者による竹粉供給安定化と地元農業者の竹粉活用により、地域環境を整えることを目指し、仕組みづくりを目指す。
- 究者により竹粉の効果が本年度末には、一部、明らかにされ、四日市市を中心にその成果を啓発する準備に取り掛かる。 ・専門家の指導下のニューファーマーズ倶楽部や研

### 他団体か個人の竹粉供給者が(A)(B) 事業協同の本格化 (2名事業協同会議参画) 他にも需要者が(A)(B)(C)と ②下野地区里山整備委員会 (③は、事業協同会議参画) ニューファーマーズ倶楽部 各地場産業で増えている ③四日市里山クラブ (C)と増えている ①PPK四日市 三重県農林事務所 ・無コーストメイト ・(A) 需要者 増えている 経済学専門家 土壌研究者 増えている ·(A) 供給者 ・(B)(C)(D)供給・需要者 増えている 北勢地区里山保全 連絡会 ·四日市市役所 ・主要メンバー会議 事業協同会議 $\Omega$ ーとの関係性はどの ・四日市里山クラ 里山整備 委員会 PPK四日市

·NPO法人

北勢地区里山保全 連絡会

苯コーストメイト 洪:

・ニューファーマーズ 俱楽部

·三重県農林事務 所

下野地区

主要メンバー会議

環境省:ステークホルダー間

•事業協同会議

④事業開始時のステークホルダようなものか

8この取組を進める上で課題にどのように対応する

①竹粉整備に竹粉を資源として活用する体制にある

団体は少なく、交流も少ない。

**⑦この取組を進める上での課題は何か** 

- ①この事業の趣旨・目的の理解を丁寧に説明しながら、利用拡大の協力体制を築いていく。
  - いて新規の方法や方策が生まれる。 ②竹粉による研究や実証が一義的な成果だけでは、効果として見なされない。継続してデータ化など行なう とで、年数がかかること。
- ③リサイクルセンターの維持費、メンテナンス費用、借用代などコストがかかり、持続的にこの事業を維持で きるのか

- 4
- 5 ②効果・検証のデータの蓄積により、竹粉利用
- ③ステークホルダーで事業内容を共有しながら、最適な供給と需要の方法の再検討や、機械類の維持運営そして産業振興についても、「仕組みづくり」の中で、課題改善として検討していく。

### 記入者:矢口芳枝(一社)四日市大学エネルギー環境教育研究会 事務局長 3この取組で具体的に何をどのように行うのか

### ・竹粉の安定的供給には、北勢地区里山連絡会にお いて検討し、新規参加団体への呼び掛けと参加を促

- ・竹粉を活用する需要者についても、地域のナシ園、 マコモお茶など新たな掘り起こしを行うため、試作生 産用の竹粉を用意し提供する。
  - ・竹粉を利用した堆肥など農作物の生産などの具体 的な実証効果のために竹粉の提供、情報交換を行
- 情報交換会や里山保全指導員養成講座を開催し、 地域の理解者や協力者を増やす
- ⑤各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か
- ・三重県農林事務所とニュ─ファ─マ─ズ倶楽部:竹
- 粉活用で元肥えや追肥などの農業者へ活用指導と竹粉の安定供給および購入の際には安価など。 ・四日市市役所:事業協同会議における成果期待の日市車山クラブ: 竹粉づくり(高齢者)を持続的に 行う、労働に見合う賃金とやりがいづくりの仕組みづく
- ・(株)コーストメイト: 竹粉需要側や供給側にて販売・流通な ・大学土壌学研究者: 竹粉研究で地域連携の役割・経済学専門家: 地域の経済と環境の調和 ど産業ビジネス化
- 竹を核とした取組みは発展し、四日市の地域特性と位 置付けとなる。 ⑨この取組をどのように継続させるか・事業協同会議で確立された仕組みづくりによって
  - ・竹粉効果により、栄養価の高い高品質な農産物に付加価値がつく。よって、四日市の産業活性化により持続する。
    - ・里山保全指導員育成講座の開催で里山に関する知 識習得と作業の安全管理などの人づくりは毎年実施
- しながら協力者を増やしていく。 また、情報交換会では、大学教授らや三重県で竹林 をフィールドとする団体などの紹介講師を招き、多くの 市民や連携団体との新たな協働が生まれていく。

土壌学研究者 ·四日市大学

·四日市大学 経済学専門家

·四日市市役所

一般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会 ( H 28協働カレンダー)

	3月							月2回開催
	2月	報告会	1, 000kg			第4回会議		月2回開催
	1月			情報交換会振り返り・アンケート集計			第4回会議	月2回開催
	12月		1, 000kg	情報交換会	・振り返り・アンケート集計	第4回会議		月2回開催
	11月	第2回連絡会	1, 000kg	企画会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	里山保全指導員育成講座の開催をの開催		第3回会議	月2回開催
	10月		1, 000kg	企画会議・アンケート作成・センタート作成・担当割振り	・フイールドの確認・安全性確認・連備物確認	第2回会議		月2回開催
71	9月				・チラン作成・配布		第2回会議	月2回開催
業スケジュー	8月				・講師依頼 ・フィールド選定	第1回会議		月2回開催
記入フォーム②事業スケジュール	7月	第1回連絡会 (キックオフ)		主要メンバー会議で企画会議				月2回開催
	6月							
協働取組カレンダー	/	協働取組加速化事業の 連絡会・勉強会・報告会 の開催(予定)	竹粉づくり・四日市里山クラブ・一下野地区里山	情報交換会	里山保全指導員 養成講座	事業協同会議	北勢地区里山保全連絡会	主要メンバー会議
協働	/	協 連 網 一〇		対外的な活動			対内的な活動	

### (1)事業の全体構成 中期計画シート(概要版)

### 伊勢竹鶏物語~3Rプロジェクト~Part2 事業名:

## 1)この取組がどうして必要なのか

- ・現在表面化している問題はなにか
- 里山保全 団体で竹林整備はしているものの伐採した竹の大部分は野 ・四日市市内の里山の竹林の多くが荒廃し、一部、 積み状態にある。
- ・圃場の転作作物の影響等により土壌の地力は低下しており、地元農産物の生産野菜等は、栄養価の低下や収穫量に 影響を受けている状況下にある
- 二酸1 ・里山や自然が荒廃し、生態系や生物多様性の劣化、・ ・放置した場合にどのような問題が生じるか
  - ・農産物の品質低下につながり、収穫量の減産となり得る。 炭素の放出につながる。

今年度末時点のステークホルダーとの関係性はど

•四日市市役所

のようなものか

**4**)

·四日市大学土壌研究

# ②この取組でどのような状況の達成を目指すか

記入日:平成29年2月6日

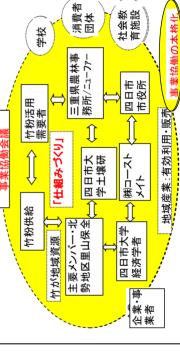
### •2017年度時点

事業協同会議で作られた「仕組みづくり」が動き始めている。 専門家や研究者の一定の成果が広く地域社会拡大していく。

・2018年度時点・2土壌改善や農産物の品質向上につながっている。一方、竹が地域特性(宝)となり、ESDの人材育成も行なわれている。

・2019年<u>度時点</u> ・循環型社会都市と産業振興と、ESD人材育成により、市民の 意識を醸成し、持続的な取組みとなっている。

### ーとの関係性はどのような 53年後にステークホルダ もの変化しているとよいか



消費者

四日市大学経済学者

(株)コーストメイト

事業協働会議

## ⑦この取組を進める上での課題は何か

- ・地域の荒廃竹林は民有地が多いことが課題となる。竹林管理者が、竹林の手入れには民有地問題があり 勝手に竹粉などに活用できない。
- ・竹を四日市市の地域資源と位置付けることが必要。 棄の禁止を位置づけなければ、持続可能な取組みと 放棄竹林が多い中、自然環境にも悪影響を及ぼして ハるので、「四日市市環境基本条例」の中で、竹林放 **はならない。**

# 8この取組を進める上で課題にどのように対応するか

- ・地域にある竹は地域の資源(宝)であることを、地域住民に認識してもらうために、ESD人材育成を行なう。
- ・事業協同会議で作り上げた「仕組みづくり」が、持続 的に人的ネットワークや産業振興や環境保全のため のシステムとして動いていく。
- ・民有地の荒廃竹林を持続的に手入れをすることを、 条例の記載により、四日市市の環境保全と地域資源 として活用できる。

### ③この取組で具体的に何をどのように行うのか 記入者:矢口芳枝(一社)四日市大学エネルギー環境教育研究会

### •2017年度時点

・主要メンバーらが、常に課題の進捗状況などに対応する。・ 専門家や研究者らが成果を事業協同会議に報告し、ステーク ホルダーが市民啓発を促す。

### •2018年度時点

環境基本条例(一部改定)に組み込む。ESD人材育成に取組 ・荒廃竹林の改善化するために、四日市市の

### -2019年度時点

- ・環境保全や竹粉活用の安全な農産物や人材育成により、市 民に周知されることによって誇りや愛着が育まれる。
- 四日市里山クラブ他里山保全団体:高齢者の待遇改善とやりがい 三重県農林事務所 &ニューファーマーズ俱楽部: 竹粉需要者で、購入価格と、地力の維持、農産物の栄養価、 収量増産などで農業分野が改善に進む。 ⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か

四日市大学工像研究者:研究成果、地域社会への発信四日市大学経済学者:地域循環型における経済と地域づくり四日市市役所:①地域特性の竹の資源化を共有

株コーストメイト:企業の立場での経済効果の検証および農産物生 ②民有地問題の条例改定へ検討が始まる。

消費者団体および消費者:安全·安心な生産物 学校および社会教育施設:ESDの充実

里山保全と竹を資源に、土壌改良材として圃場の健全化と食の地産地 地域循環型社会づくり=伊勢竹鶏物語~3Rプロジェクト~Part2

## ③この取組をどのように継続させるか

- 風に この事業に関わるステークホルダーは勿論のこと、 竹粉利用の拡大や農業生産および経済システムのプ ロセスは、行政あるいは、企業らが関わることで、 持続していく。
- ・事業協同会議が、改善のためのふりかえりをしなが 2
  - 事業の改善を加えていきながら、継続をしていく。
- ESDの人づくりを行いながら継続させる。

主要メンバー会議 北勢地区里山

ニューファーマーズ倶楽部

\$

·三重県農林

②下野地区里山整備委 ①NPO法人PPK四日市

414

د	
②事業スケジュー、	
1期計画シート(概要版)	

2017年	2017年度の重点目標・事業内容	2018年度の重点	目標·事業内容	2019年度の重点目	目標·事業内容
(重点目標) ・竹粉供給団体、竹粉需: ・地域および関わる全て(	(重点目標) ・竹粉供給団体、竹粉需要団体を増やして行く ・地域および関わる全ての人が報われる「仕組みづくり」を行う	(重点目標) ・2017年の課題改善と共に、専門5 ていく。「仕組みづくり」を動かしなが いく。	専門家や研究成果を広く社会へ発信しいしながら、問題点を抽出して改善して	(重点目標) 竹を核とした地域の環境問題と経済問題を解決しながら、竹林の民有地 における放棄しないよう条例改定し、循環型社会都市として、市民に意識醸成し 持続的な取組みの確立を行う。・	¥決しながら、竹林の民有地 社会都市として、市民に意識醸成し
(事業内容) [ 対外的な活動】 ・竹粉づくり: ①四日市里山クラブ② ③A面体 (AB団体の増加(個人社) ・情報交換会の開催 ・里山保全指導員育成講座の開催 【体内的な活動】 ・事業協同会議 ・北勢地区里山保全連絡会 ・北勢地区里山保全連絡会 ・1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、1、	7ラブ②下野地区里山整備委員会 (個人も含む) の開催 地区里山整備委員会③NPO法人PPK	(事業内容) [ 対外的な活動] ・竹粉づくり: ①四日市里山クラブ②下野山 ③C団体 ④D団体の増加(個人も含む) ・情報交換会の開催 ・里山保全指導員育成講座の開催 【体内的な活動】 ・事業協同会議に関係のある団体や行政 ・北勢地区里山保全連絡会 ①四日市里山クラブ②下野地区里山整備 四日市 ④C団体 ⑤D団体の増加 ・主要メンバー会議(月2回)	)下野地区里山整備委員会 も含む) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(事業内容) ・竹粉づくり:(項四目市里山クラブ②下野地区里山整備委員会が当初より拡大している。 ・「全国里山保全甘亭ット」の開催 ・里山保全指導員育成講座の開催 ・里山保全指導員育成講座の開催 ・「体内的な活動】 ・事業協同会議に関係のある団体や行政担当部署が更に増えている・議員参加も有り得る。 ・北勢地区里山保全連絡会も当初の団体から増えている。 ・主要メンバー会議(月2回)	5里山整備委員会が当初より拡大して 当部署が更に増えている ら増えている。
	ļ				
行動計画 4目~	201/年度		2018年度 7月~ 10月~	18~ 78~	2019年度   10日~   11日~
①連絡協議会 ②北勢地区里山		\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \			
保全連絡会 ③主要シバー会 議	①2年4回開催 ③	③月2回開催			
①情報交換会の 開催 27年度・28年度 ②全国里山保全 サミットの開催	企画・チラン配布・実施・アンケート分		企画・チラン配布・実施・アンケート分	- 子三 ■・子三	企画・チラン配布・実施・アンケート分
里山保全指導員 養成講座	<u>企画・チラシ配布・実施・アンケート分</u>		企画・チラシ配布・実施・アンケート分	<u>企画・チラン</u>	企画・チラン配布・実施・アンケート分
た 数 り く シ 団 谷	28年度:約7トン 29年度:	29年度: 供給量の増加および品質の高度化	30年度:供給量増加および品質の高度化	高度化	

般社団法人四日市大学エネルギー環境教育研究会

( H 28中期計画)

付44

### 記入フォーム①事業の全体構成 協働取組カレンダー

## 記入日: 平成28年7月4日 筑北村東条地区における里山交流促進計画 業名

## この取組がどうして必要なのか

猟師以外に山林に入る人はなく、集落の裏山に位置する里山 確定できないまま進み、森林整備が遅れる原因となっている。 は荒廃の一途をたどっている。山林についての相続も境界を 現在表面化している問題はなにか

ないでいる。 また人の関与によって保たれていた日本における生物多様性も乏しいものとなっていく。地上部の成長に伴っ このような里山の荒廃は地域の過疎化高齢化を加速させるこ とにもつながっており、農業が主体の村は未来の展望を描け て倒木も発生しており、山地崩壊の恐れもある。 放置した場合にどのような問題が生じるか

協働団体での理念とビジョンの共有、® それぞれの役割の明確化、® 協働体制の構築と関係者の積極 的な交流、◎ 地域へのレスパイト事業の周知と支援への理解を得ること、◎ 農林福連携事業の今後への ②この取組でどのような状況の達成を目指すか 展望が開ける可能性を見出すこと

● 年に5回以上の定例会の開催、● 里山の現況調査と目標林型の提示、● 簡易路網の整備とバイオトイ

3この取組で具体的に何をどのよう

原 薫(株式会社 柳沢林業)

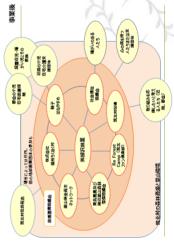
記入者:

レ・水回り環境の調査、◎ 心身障がい児受け入れに

向けた最低限の空間整備と専門家による方針の提案、 心身障がい児向け木製遊具の試作、 里山フォーラムの開催、 家族レスパイト旅行を行う団体

のイベントに参画し、周知広報のためのリーレフットを

⑤事業後にステークホルダーとの関係性はどのようなものに変化しているとよいか



④事業開始時のステークホルダーとの関係性はどのようなものか **事業開始時** 対金属社 知れの特殊民 氣御沢林淵 数线触触及(2) 因对到日候禁 到宿職器(4) 筑北村の森林資源と里山環境 Re Forest Camp (State 777/####85)

社協の参画により、主体的な地域の関わりが強くなった点はクリアできるが、山林所有者を中心とする、山林の位置する地域の参画者が高齢者のみであるた め、様々な点において世代間ギャップが生じやすい。 この取組を進める上での課題は何か

る豊かな風景(景色としての風景と暮らしの風景)を創造すること。 ●地域住民・山林所有者 :魅力ある地域すること。 ●地域住民・山林所有者 :魅力ある地域を創造しつつ、里山との関わりを取り戻すこと。 ■里山保全再生ネットワーク :里山に新たな社会的価値を付加すること。 親子はねやすめ :障害があっても心豊かに暮らせる社会や、障がい者とその家族を受け入れてくれる空間や人のネットワーク構築。 ● 社 本事業は全協働メンバーとそのステークホルダーの ニーズにかなうものである。 ® 柳沢林業 理念であ 会福祉協議会(社協)障がい者の活躍の場としての農 林業の新たなる可能性を見出すこと。◎ 筑北村 : 村 の資源を大いこ活用した産業づくりに貢献すること。 ⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か

家族の対象に対応できるメニューを用意し事業化を進める一方、負担を軽減できるような助成の要請もし投資も促す。森林資源の活用については、薪の加工販売、バイオマス事業につなげる市場調査や基盤整備 も進めながら、障がい者も取り組みやすい、かつ高付 ⑨この取組をどのように継続させるか 家族レスパイト旅行については、さまざまな障がいや 加価値化できる商品開発を行う。 ⑧この取組を進める上で課題にどのように対応するか地域住民との交流を深め、新しい取り組みに対する理解を促す。地域に対する敬意を忘れない。

8月 8月	第1回連絡会 (キックオフ)	打合せ会議、現地下見			仕様書の周知、理念とピー 進捗状況報告、課題提 ジョンの共有、各団体の 起、スケジュール調整、 役割の明確化、年間ス フォーラム開催へ向けて ケジュールの確認 打合せ	植生現況調査、バイオト 簡易路網開設 イレ設置調査、水脈調査	木工製品の試作 医療施設での試用
日6 日		現地下見 里山フォーラムの開催				ex .	の試用
10月	qui	フォーラムを受けての今 後の検討会	打合せ会議		フォーラムの振り返り、 進捗状況報告、課題提 起、スケジュール調整	植生調査および目標林型とその誘導の検討	医療施設からのフィード にパックを受けて製作着手
11月	第2回連絡会		<b>                                      </b>				医療施設への納品
12月			ほっとくらぶとの振り返り や今後の検討会	リーフレットの作成			使用状況報告の共有
1月				リーフレットの配布			
2月	報告 公						
3月							

# 中期計画シート(概要版) ①事業の全体構成

### 福祉職員、教育関係者向けワークショップ開催。保育園・小学生向 け森林体験プログラム実施。里山に手を入れるための簡易作業 2018年度時点: 森林保健活動の誘導役育成の継続。体系 てた森林が、カルトレーナー制度(案)の構築。行政へ施策提言 な<u>2019年度時点</u>: 森林保健活動の誘導役育成の継続。筑北村版森林メディカルトレーナー事業計画(案)の行政へ施策提言。本事業に係る新規活動主体の発足。 →新規の試 ☆2017年度時点: 先進地(長野県信濃町)の視察。保健師、 一の個別、共通のニーズは何か みは成立しにくい傾向あり。既存枠組みと上手くMIX 最初は対象者を絞る . . . ができる体制づくり。本事業に係る主体の確立を検討。 な3. 活動の小まめな評価 ⇒ 分析、データ化 ⇒状況に合わせた、柔軟な計画の軌道修正。 3)この取組で具体的に何をどのように行うのか 見直し な【個別ニーズ】 1. 健康づくり、予防医療 2. 障害の療育・リハビリ・メンタルヘルス 3. 雇用の創出、就労支援 4. 製品づくり&販売=地域の経済活動 5. 森林整備=村木伐採・搬出の促進 ※第三者や、後から参加する人を念頭| 【活動の評価⇒軌道修正⇒継続調査】 【留意点】地域内の人間関係 "村社会" ≠ 主催者の計画 1. 筑北村(地域全体)と、里山の価値J 2. 里山空間・森林資源の活用推進 3. 森林の多面的機能の改善・向上 <u>®この取組を進める上で課題にどのように対応するか |®この取組をどのように継続させるか</u> (担当:原、藤澤 、やりくり、折り合い、褶合せ) ⇑ ☆2. 少人数から開始 ⑥各ステークホルダ ☆【共通のニーズ】 記入者:株式会社柳沢林業 41. 地域のニーズ 道作り指導講習など。 ი დ なな (2)施策低減の「たたき台(Draft)」の段階で、意見交換の場を設け、役場サイドのニーズ・視点を傾聴する。 (2)現地ワークショップなどへの参加要請(核となる人材を先行・優先的にする点、留意。) ⑤3年後にステークホルダーとの関係性はどのような (新設·林業事業体?) 筑北村 社会福祉協議会 移住者 な1. 地域住民の参画可能なキッカケ&場の設置 新規活動主体 ②この取組でどのような状況の達成を目指すか (1)地域住民向け説明会&意見交換会の実施 5/13-/8 1. 筑北村版森林ゲカルトーナー(案)の可能性検討 住民を主体とした新規活動主体の立上げを検討 記入日:平成29年1月31日 1. 森林メディカルトレーナー計画の策定・滑り出し 新規活動主体の自立運営体制の発足・滑り出し 筑北村役場 ☆2. 筑北村役場との意見交換の場を設置 (1)最初は、協働メンバー等を中心に議論 地域住民 **替沢林業** --事業計画(案)の作成 新規活動主体の準備委員会の発力 もの変化しているとよいか 学校教育関係者 福祉関係者 筑北村森林メディカルトレーナ (3) 広報活動の継続 里山森林整備協議会 推進協議会 <u>☆2018年度時点</u> 1. 森林ゲ゙イカルトレーナ 東条高畑及び周辺 &行政へ提案 か2017年度時点 ☆2019年度時点 医療関係者 圄 山林所有者 における里山交流促進計 保健師 αi αi αi ④今年度末時点のステークホルダーとの関係性はど のようなものか 地域社会の機能低下 森林の多面的機能の著しい低下(里への被害) 地域の生産機能の著しい低下 障害者自立支援センター「ちくほっくる」 産業課 総務課 独北村 山林の荒廃(材木価値低下、物理的な危険) 生活者の山林離れ(意識的・物理的) 地域の里山活用の担い手不在(≒過疎化) 社会福祉協議会 (1)住民・行政間の対話、中間支援の仕組み (2)核となる人材の理解促進 な1. 地域住民のさらなる理解・参画(1)地域住民との対話(要望引き出し)(2)活動運営上の協力者、キーマンの確保。(3)継続実施のための仕組みづくり 柳沢林業 42. 筑北村役場から(への)支援(双方向) 事務局 (3)村全体のメリットの検討、施策提言化 **☆放置した場合にどのような問題が生じるか ⑦この取組を進める上での課題は何か** 再生木小 里山保全 筑北村 1)この取組がどうして必要なのか 筑北村東条地区| **公現在表面化している問題はなにか** 親子はねやすめ 交流促進計画 筑北村里山 里山森林整備協議会 東条高畑及び周辺 寒命点れ会社 Re Forest Camp 事業名:

50.	2017年度の重点目標・引	目標,事業内容	20	2018年度の重点	点目標·事業内容	内容		2019年度(	2019年度の重点目標・事業内容	業内容	
<ul> <li>(車点目標】</li> <li>1. 筑北村版森林メ2. 住民を主体とし、</li> <li>(事業内容】</li> <li>1. 先進地(長野県ワーケッヨップ開催。フーケッヨップ開催。フーケッヨップ開催。3. 保育園・小学生・</li> <li>4. 簡易作業道作り</li> <li>5. 新規活動主体の現地域に関連でレッカップを</li> </ul>	. 点目標】 . 筑北村版森林/ディルルレーナー(案)の可能性検討 . 住民を主体とした新規活動主体の立上げを検討 業内容】 . 先進地(長野県信濃町)の視察。 . 保健師、福祉職員、教育関係者向け ワーヴュップ開催。 . 留局・小学生向け森林体験プロゲム実施。 . 簡易作業道作り指導講習 . 新規活動主体の設立検討(かたちの模索) 一ル】地域住民向け説明会・役場との意見交換会現地ワーク、現地調査など。	()の可能性検討 の立上げを検討 向け がう4実施。 ちの模索) との意見交換会	[重点目標] 1. 森林メディ 2. 新規活動 2. 新規活動 1. 筑光柱版 2. 森林保健 3. 行政特保 4. 新規活動 (ツール) 講座 (ツール) 講座	点目標】 森林メディカルトレーナー計画(案)の作成 新規活動主体の自立運営体制(案)の作成 業内容】 筑北村版森林メディカルトレーナー計画の協議 森林保健活動ワークショップの継続 行政等へ施策提言ができる体制(案)の作成 新規活動主体の発足 ール】講座&ワークショップの継続、準備委員	ーナー計画(案)の作成  立運営体制(案)の作成  イカルトレーナー計画の協議  イカルトレーナー計画の協議	票】 メディカルトレーナー計画(案)の作成 活動主体の自立運営体制(案)の作成 活動主体の自立運営体制(案)の作成 村版森林メディカルトレーナー計画の協議 特価活動ワークショップの継続 等へ施策提言ができる体制(案)の作成 活動主体の発足 講座&ワークショップの継続、準備委員会の発足 講座&ワークショップの継続、準備委員会の発足 先進地の事例を再度視察、検討。	画型   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日   1 日	重点目標】 1. 筑北村版 森林メディカルトレープ2. 新規活動主体の自立運営体制の事業内容】 1. 筑北村版森林メディカルトレーナ2. 森林保健活動ワークショップの総3. 行政等へ施策提言ができる体制4. 新規活動主体の確立&継続ツール】講座&ワークショップの総約・プルル】	点目標】 筑北村版 森林メディカルトレーナー計画の始動 新規活動主体の自立運営体制の始動 業内容】 筑北村版森林メディカルトレーナー事業の開始 森林保健活動ワークショップの継続 行政等へ施策提言ができる体制 発足 新規活動主体の確立 &継続 ール】 講座 &ワークショップの継続、先進事例を再視察、 全体の仕組み = 体制 &活動内容の改善、軌道修正。	の始動 )開始 事例を再視察 攻善、軌道修]	«," Ц
行動計画	7 目 ∽   1   2   2   2   2   2   2   2   2   2	2017年度  10目~	~	4 ₩	20 20 20 20	2018年度  10目~	~	~ □ 7	2019年度7月8年	2	——————————————————————————————————————
筑北村版森林/ デガルトナー事 業可能性の検討	画品							圖点	視察	<u> </u>	即温
関係者向け、森林保健活動ワー クショップの開催		- たいヨンケーロ			•				ý0-0	- プッコップ	
簡易作業道 作U指導講習	画	アーケショップ	野虚	国	1	- ゲッヨップ	型 型 型			しつショップ	計価
新規事業主体の 確立に向けた検 討	案作成	即温	具体策	制除	湿	発足		業店			計価
[対話の場] 住民説明会 行政意見交換会	説明会			意見交換会							

中期計画シート(概要版) ②事業スケジュール

## 記入日:2016/7/28 近江八幡円山地域の自然と文化の保全と継承の活動 業名:

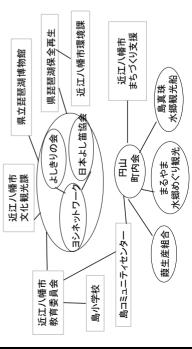
## 1)この取組がどうして必要なのか

## ・現在表面化している問題はなにか

し、水郷に囲まれた豊かな自然が失われる心配がある。そのため、行政、住民、市民ボランティア等による、保全活動が進められているが、個別の活動に終始しており、将来を見据えた ヨシ産業が衰退化するなかで、それに係わる人たちが老齢化 連携した活動にはなっていない

・<u>放置した場合どのような問題が生じるか</u>この豊かな景観が奪われることは、地域の人にとって伝統的な暮らしや文化を損なうだけでなく、当地域は「近江八幡の水郷」として重要文化的景観第1号に選定されており、国民的な損失となる。また「環境学習」、「環境ツアー」としての価値も低

④事業開始時のステークホルダーとの関係性はどのようなものなのか



⑦この取組を進める上での課題は何か・行政内部において、関係する部署が多く、それぞれの係わりのある活動を進めているが、総合的な施策に はなっていない。

・地域の人たちの高齢化が進み、産業としての展望が持てないため、次の世代への移行が難しい状況である。(若い世代の取り込みが必要)

・当活動に参加する団体(個人)の特性や技術を生かした取組が必要であるが、それぞれの組織の事情や 識の違いがある。

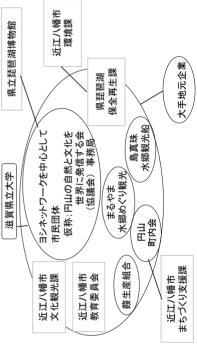
# ②この取組でどのような状況の達成を目指すか

・地域に暮らす人たちが、自分たちの地域の良さを再発見し地

域ぐるみで、守り発展させる気運を高める。 ・ヨシ保全活動に係わって様々な活動をしている団体や個人と 連携して、当地の宝を生かした、魅力的な「環境学習」、「環境 ツアー」を創出する。

・国、県が推進している「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」に基づく施策や近江八幡市が進めている景観づくり計画と連携させ、行政、住民、ボランティア団体が一体となった協議会を作る。

⑤事業終了時にステークホルダーとの関係性はどの ようなもの変化しているとよいか



8この取組を進める上で課題にどのように対応するか をはかるため、必要に応じ、検討会や協議会等を開催 し、協議するとともに、個別にも打合せや相談をし、ス ・各事業を進めるにあたっては、関係者の意識の統 ムーズな運営が出来るよう配慮する。

・環境学習や環境ツアーの実施にあたっては、出来る だけ、地域の人たちを前面に出し、各団体はそれをサ ポートするような対応をし、地域の人たちが主人公と なって活動を進めるような形態とする。

・若い世代に活動に参加してもらえるように大学との協 力体制を確立する

3この取組で具体的に何をどのように行うのか

( ヨンネットワーク事務局長)

和夫 鳥飼

記入者:

・地域に存在する多くのステークホルダーが円山地域の自然と文化の価値を再認識し、それを生かした「環境学習」や「環境ツアー」を創出するため活動の中心となる会を結成。「シンポジウム」を開催し地域の関心を高める。

・会で試行しながら、具体的な「環境学習」、「環境ツアー」のマニュアルを作る

・実際に地域の小学校、コミュニティーセンターの協力を得て小学生を対象とした「環境学習」を実施する。 ・大人(親子)を対象とした「環境学習」を実施する。

上記実践結果を基に改善、県内外に発信する。

滋賀県琵琶湖保全再生課:琵琶湖保全再生計画に ⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か 基づくエコツーリズム推進との連携

民の認知度向上。ヨシ・水郷風景での観光振興。 ・近江八幡市教育委員会:安心・安全な野外での環境 ・近江八幡市文化観光課:水郷風景計画に対する市

教育の場の確保

・地元業者:地域活性、県内外へ市のシンボルの発 信 ・町内会:地域活性、住民の地域の宝の認識向上

田山地域のヨシの自然・文化の保全・継承

の授業の一環としてこの「環境学習」を実施する。また 同市文化観光課の賛同を受け、県内の大人(親子)を 来年度には、近江八幡市教育委員会と連携し、学校 ⑨この取組をどのように継続させるか・本年度この円山をフィールドとした魅力的な「環境学習」、「環境ツアー」マニュアルを試行しながら作成 対象とした「環境ツアー」を実施、その成果を発信

アー」を開催し資金確保をする。また近隣の事業所に当事業について資金的にも協力を得られるよう働きか ・将来的には、ツアー会社と連携し有料の「環境ツ 当事業にける。

ヨシネットワーク ( H 28協働カレンダー)

	F 25 0				な活動			I			对内的な活			
/	協働取組加速化事業の 連絡会・勉強会・報告会 の開催(予定)	協働取組構築の ためのヒアリング	環境学習・環境 ツアーの試行	シンポジウム 無	環境学習の実施	環境ツアーの実施	ボランティアのヨッとという	各検討会・協議 会の開催	環境学習・環境 ツアーの試行	シンポジウム開催	環境学習の実施	環境ツアーの実施	ボランティア のヨ シ刈り実施	とりまとめ・中期計画作成
6月	第1回連絡会(6/23)													
7月		ヒアリング (1 箇所)						第1回検討会	企画・打合せ会議					
8月		ヒアリング(7箇所)	8/2円山地域で環境学習(環境・アー) マニュア ルづくりの試行					第2回検討会 環境学習・環境ツアーの 試行の振り返り	環境学習・環境ツアーの 日程調整	企画、打合せ会議				
9月		ヒアリング (2箇所)		9/11シンポジウムの 開催				第3回検討会	環境学習の核証	シンポジウムの振り返り	企画、打合せ会議	企画、打合せ会議		
10月					小学生を対象とした環境 学習の実施				環境シアーの核証					
11月	第2回連絡会					大人(親子)を対象とした環境ツアーの実施		第4回検討会			環境学習の振り返り	環境ツアーの振り返り	企画、打合せ	
12月	協働取組促進のための 対話の場							第5回検討会			学習の手引き作成	ンアーのマニュアル作成		中期計画
1月	勉強会						ボランティア によるヨシ刈 リ体験イベント、ツアー・ 学習の試行				学習の手引き作成	ンアーのマニュアル作成		とりまとめ・中期計画
2月	報告会(2/18)												ヨシ刈りの振り返り	とりまとめ・中期計画
														とりまとめ

### ①事業の全体構成 中期計画シート(概要版)

### 近江八幡円山地域の自然と文化の保全と継承の活動 事業名:

## この取組がどうして必要なのか

・現在表面化している問題はなにか

・ヨシの需要が減ったことに伴い、ヨシ産業が衰退、事業に係わる人も老齢化が進み、後継者がいないこともあり、廃業するところも多く出てきて、存続の危機に陥っている。そのため、管理不十分のヨシ地が増加している。また、かつて当地の人たちは、農業とヨシ産業で生活を支えてきたが、時代の流れにより、2次、3次産業に就労が変化するとともに、若者の転出もあり、地域の歴史的な行事が失われかけている。

・放置した場合にどのような問題が生じるか

・「ヨシ地」の管理が不十分になり、ヨシと水郷に囲まれた、豊かな自然環境が損なわれる。また、過疎化等により、ヨシに関連した、歴史的建設物の維持管理が出来なくなるとともに、長年続いていた文化的な行事 を継承できない恐れがある。

### 今年度末時点のステークホルダーとの関係性はど のようなものか 4

滋賀県琵琶湖保全再生課 ■ 県立琵琶湖博物館 近江八幡市観光協会 近江八幡市環境課 近江八幡市まちづくり支援課 まるやまヨン生産組合 日記(株) ヨンネットワーク 西川嘉右衛門商店 滋賀県内の大学 和船組合 まるやま水郷めぐり観光 近江八幡市立八幡小学校 近江八幡市文化観光課 島コミニュティセンター 事業終了時の協働体制 円山町自治会 よしきりの会

この取組を進める上での課題は何か

「エコツアー」は単なる観光ではなく、その地域の人たちの生活や文化を他の人が触れることになるので、地域の人たちの理解と協力がなければ成り立たない。(そのためには、受け入れる側が精神的にも経済的にも、ある程度プラスになることが必要) 現在、ボランティア団体の活動が主体となり、地域住民の一部の人た

・「環境学習」については、依頼のあった小学校については、我々のいま までの蓄積した活動を活かし、ほぼ満足していただけるような内容で実施しているが、個別熱心な先生からの依頼であり、近江八幡市教育委員会との連携は出来ていない。 た、エコツアーの内容についても、各種ボランティア団体の思いが強す ぎ、ツアーに参加される人たちのニーズに合致していないところがある には少しづつ理解を得られてきているが、まだ浸透していない。

# ②この取組でどのような状況の達成を目指すか

記入日:2017.1.27

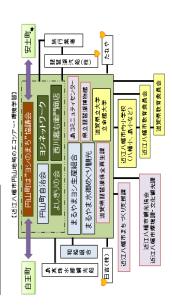
### •2017年度時点

・地域の人たち、行政、環境ボランティア団体で協議会を結成する。 ·2018年度時点 ・国等行政からの補助金に頼らず経済的に自立出来るような、協議会の 活動形態を整える。

との関連性から「琵琶湖保全再生法」と関わる「エコツアー」の先進例とし 当活動を持続的に発展、継続させながら、他の地域との連携や琵琶湖 -2019年度時点 て注目される。

### ーとの関係性はどのような <u>⑤3年後にステ</u>ークホルダ もの変化しているとよいか

3年後の協働体制(想像図)



・地域の人たちが中心となり、まちづくりを進めて行き、それを環境ポラントィア団体や行政がサポートや支援・協力をしていくようなスタイルになる ・観光気分で当地を訪れた人たちの目線にあった「エコツアー」を実施し、 楽しみながら、円山の自然や環境・文化に触れ、琵琶湖やヨン保全、循環社会形成の大切さを学ぶ場とする。 ・近江八幡市教育委員会と連携し、計画的に各小学校の出前授業として「環境学習」をするシステムをつくる。 8この取組を進める上で課題にどのように対応するか 協議会づくりをしていく。

### 3この取組で具体的に何をどのように行うのか 記入者:

ヨシネットワーク事務局長

### -2017年度時点

・経済的に自立出来るような、多彩な「エコツアー」を実施し、収益を上げる。そのため、旅行社、観光業者等との連携を深める。また地域のCSRに ・前年度作成した「エコツアー」、「環境学習」マニュアルに基づく実践活動 ・地域の人たちを教師として、当地の自然・歴史・文化について係わる人たち(団体)が共通の認識を高めるような勉強会や懇親会を開催。 を実施し、更に顧客・地域のニーズにあったものに改善する。 •2018年度時点

熱意のある事業所と連携する。 -2019年度時点 当地域と共通する自然・文化を持つ、西の湖周辺の安土、白王地域と連

・琵琶湖へ繋いだ「エコツアー」づくりと実践。

⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か・ ・滋賀県琵琶湖保全再生課:琵琶湖保全再生計画に基づくエコツーリズム

・近江八幡市文化観光課:水郷風景計画に対する市民の理解や認知度の

向上 近江八幡市教育委員会:安心・安全な野外での環境教育の場の確保・自治会(町内会):地域活性、地域の文化行事の継続・ヨシ間屋、ヨシ製品製作所、水郷巡り観光:経済的価値の上昇・地域の大手企業:CSR活動の広報や、職員の活動や研修の場・立命館大学、滋賀県立大学:フィールドワーク実施場所確保、学生のイ

③この取組をどのように継続させるか ・経済的に成り立つ「エコッアー」をつくり、観光協会や旅行社等の協力を 得て参加者を確保する。

・地域の自治会役員は毎年選挙等によって人が変わるので、自治会のなかに「エコツアー・環境学習」の専門部会を設立してもらうよう働きかける。 ・地域・行政・ボランティアの3者で構成された協議会を定期的に開催し、 意識の統一をはかるとともに、懇親に努める。

・近隣のCRSに熱心な企業から、人的、資金的な協力を何ぐ。

ヨシネットワーク (H28 中期計画)

中期計画シ	中期計画シート(概要版)②事業	②事業スケジュール									
	2017年度の重点目標・事業内容	松		2018年度の重点	目標·事業内容			2019年)	2019年度の重点目標・事	目標・事業内容	
(重点目標) ・地域の人たち、( (事業内容)	(重点目標) ・地域の人たち、行政、環境ボランティア団体で協議会を結成する。 (事業内容)	議会を結成する。	(重点目標) ・国等行政からの補助金に頼 会の活動形態を整える。 (事業内容)	補助金に頼らず絲 をえる。	らず経済的に自立できるような、協議		(重点目標) ・当活動を持続的 から「琵琶湖保全 (事業内容)	312発展、継続させ :再生法」に基づく	±ながら、他の地 「エコツアー」の5	(重点目標) ・当活動を持続的に発展、継続させながら、他の地域との連携や、琵琶湖との関連性から「琵琶湖保全再生法」に基づく「エコツアー」の先進例として注目される。 (事業内容)	言湖との関連性 れる。
・地域の人たちをる人たち(団体)か催。 を人たち(団体)が催。 前年度作成した 活動を実施し、更	・地域の人たちを教師として、当地の自然・歴史・文化について関わる人たち(団体)が共通の認識を高めるような勉強会や懇親会を開催。 催。 ・前年度作成した「エコツアー」、「環境学習」マニュアルに基づく実践活動を実施し、更に顧客・地域のニーズにあったものに改善する。	文化について関わ も全や懇親会を開 ュアルに基づく実践 ものに改善する。	・経済的に自立できるような、多彩な「エコツアー」を実施し、収益を上げる。そのため、旅行社、観光業者等との連携を深める。また、地域のCSRに熱意のある事業所と連携する。	きるような、多彩/ 、旅行社、観光業 意のある事業所と	な「エコツアー」を3: :者等との連携を3: :連携する。		当地域と共通す 暗湖を繋いだ「エ	る自然・文化を持コップー」づくりと	5つ、西の湖周辺実践。	・当地域と共通する自然・文化を持つ、西の湖周辺の安土、白王地域と連携する、琵琶湖を繋いだ「エコツアー」づくりと実践。	5連携する、 琵
上   - 1 - 1 - 7	20	2017年度			2018年度	五			2019	2019年度	
1丁期11111	4月~ 7月~	10月~	1月~	7 ~ 6 4 €	7月~	<b>?</b>	1月~	4月~	7月~	2	1月~
連絡協議会					連絡協議会の	連絡協議会の運営(年4回)					1
ナコンアー	; <del>   </del>	計画・実施		<del></del>	画・実施			計画・実施		計画・実施	
ヨンベンド		94	ョ·実施			国	実施			••••••••••••••••••••••••••••••••••••••	計画・実施
環境学習		計画・実施				計画・実施				計画・実施	
企業・事業所への 協力要請					図	监					1
3者による地域の 勉強会	実施				実施				実施		

### 記入フォーム①事業の全体構成 協働取組カレンダ

# 業名:次世代に引き継ぐ茨木のための環境教育の推進

# )この取組がどうして必要なのか

現在表面化している問題はな

1) 茨木市役所内の部課で環境教育に対する温度差がある。 2) 小学校における環境教育の実施状況が出職できていない。 3) 環境教育は必要だと言われるが、実際の優先度は低い。 4) 仮に、市域の小学校を体で環境教育を実施すると考えた場合、人材が圧倒的に足りない。 5) 協働で環境教育を実施すると考えた場合、人材が圧倒的に足りない。 5) 協働で環境教育を実施できる体制ができていない。

6)環境教育の推進がまちづくり・観光等の地域活性化に繋がるような取組になっていない。

7)地域資源を生かした環境教育を行っている学校が少ない。

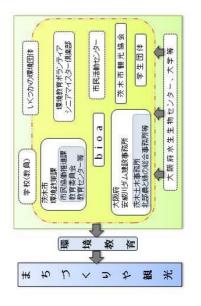
・<u>い間によ場合にどのような問題が生じるか</u>)自然、ごみ・リサイクル、大気・水環境、農山村等の取組みが一元化ができず、情報の共有もで

2) 各学校の取組みがそれぞれの学校内だけ、特に単年度の取組みになり、水平展開ができな きない

5)環境の分野とまちづくりや観光等の他分野の人々が(教育分野での)連携できない。 6)子どもたちが地域・茨木への愛着を持たないまま成長するため、茨木へ回帰し、将来この地域 3)環境教育を実施した学校と実施しなかった学校で環境意識・行動での差が広がる。
4)多様な主体が各自のスキルで実施しており、実施した内容や情報の共有がない。子どもたちが何を学んだのか検証されないままである。

# ④事業開始時のステークホルダーとの関係性はどのようなものか

を担う人材とならない。



環境教育が各学校でどのように行われているのかが把握できておらず、その実施も各 この取組を進める上での課題は何か

学校の独自の取組みで行わており、管理職や担任の力量に委ねている。・茨木市内の各部課でも環境政策課が環境教育推進の担当課であるが、環境教育の推進を校長会での啓発で学校からの要請を受けて実施しているにとどまっている。教育委員会も各学校と直接的な交渉を求めている。

教育委員会も各学校と直接的な交渉を求めている。 農林課は環境教育に資する多くのフィールドを有しているが、今まで具体的な連携は

教育が推進出来る体制を整える。

の構築を目指す

なかった

・環境教育を行っているNPOはそれぞれの得意分野での取組みを行っている。教科・学習指導要領とのリンクがなく、単発的な取組みになりがちになっている。また、小学校32校で行うための人材や人数が大幅に不足している。 ・環境教育を受けた児童・生徒が茨木の将来を担う人材になり、観光やまちづくりなどの地域活性化、防災・福祉など地域の持続させることに繋がるという理論の構築が足

・学校の状況や教員が求める資源、環境NPのなど外部から提供できる学習内容、里山・福祉など環境分野以外の多様な主体と学校の連携状況、環境教育の必要性についての理論や意見。これらを交流する場がない。

て共有していく。

# 況の達成を

1)ワークショップや人材育成を通して、環境教育に関わる人材の裾野を広げる。 環境教育ボランティアの授業遂行のスキルアップ、大学生や企業の人材の掘り起こ

、まながたに、イング、福祉の分野のガタとの連携を目指す。 2)地域資源の掘り起こし、教材化 北部農山村地域の地域資源を掘り起こし教材化することにより、またまちなかに住

ワークショップや人材育成事業を通

・加い子を増やし、授業ができる人材を育成する。ワークショップや人材育成事業を通して、環境教育の必要性を明確化し、共有化を行う。 ・環境政策課と検討を進めながら行政部局・教育関係者等との関係を構築しながら、環境教育推進の基盤を支えるプラットフォームでの協議を進める。

2)多様な主体との連携・関係構築 ・昨年度事業の成果と課題をコアメンバー・関係者で共有し、環境教育を推進する本 事業の目的について意見交換する。

環境教育の推進ラ人材の育成ラまちづくり・観光など地域活性化及び福祉・防災など 持続可能な社会、というストーリーの中で、 1)環境教育の推進

杉山綾子

瀬口和矩

記入者:

記入曰:平成28年7月28日

3) 基盤と推進の2つのプラットボームを形作る環境教育の基盤を支えるプラットフォームを環境教育を推進するプラットフォームと環境教育を推進するプラットフォームを構築する。各プラットホームの役割が明確に市民に伝えられ、市民のプラットホームとして受け入れられている。 む多くの市民が茨木の資源を知る。

4)環境教育を推進する先に、観光等による地域活性化も目指す 環境教育というキーワードがさまざまなセクターを結びつけて、多様な主体による連携 が生まれやすくなる。また、人材の育成や教育の結果として、他地域から訪れた人々に 茨木の良さを伝えることができ、訪れる人が増加。それらの結果、地域活性化に結び付

する。 おの3場として公共化の高いブラットホームを構築するためには、特に、行政(表本 市)の各部課(環境教育に関わる及びフィールドを持つ)との連携が不可欠である。環境 政策課と検討を進めながら行政部局のコアメンバーとの関係を構築する。 ・環境教育の推進が、観光振興等の地域活性化、まって クターに伝え、共有し、親工、まちづくり、福祉等の主体が参画できる素地をつくる。 3) 茨木市の環境教育推進のために個人・主体を外部から巻き込む。 たとえば、環境教育学会関西支部とのワークショップの共催など専門家との連携を深

め、茨木のモデルプログラムをブラッシュアップする。

# ⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か 個別ニーズ ⑤事業終了時にステークホルダーとの関係性はどのようなもの変化して

·環境政策課…茨木市を担う人材づくりのための環境教育の推進 ·教育委員会…学校教育の現場に適合した環境教育の提供。それによる子どもたちの 環境意識の育成

…具体的に協働を実践し、その意義を市民へ伝える。また、多様な主体に よるプラットホームは、環境のみならず他分野の恊働も促す・安威川ダム建設事務所 •市民協働推進課

岩旗

環境教育ボランティア

NPO、市民団体など 企業 マイスター(具楽部 茨木市観光協会

プラ・オフォーム
事権教育の指達

学校(教員)

境教育

哪

116 10 n

いるとよいか

ム周辺の地域振興とダム周辺環境が環境教育の場になる。 …観光等の地域活性化。

…市民団体の交流の場が増えて、活動が活性化する。 観光協会 …観・市民活動センター

> 学生団体 「市民活動センター

bioa

市民協働推進課 教育委員会 教育センター等

3 2 噩 米

福社

環境政策課

ブラ・オフオーム 環境免済の起動協権

安威川岁ム建設事務所 北部農と緑の総合事務所 茨木土木事務所等

・防災・農業

行政・大学・企業等の研究機関等

…ミツバチプロジェクトの活性化、ブランド化。大学による地域連携。大学 追手門学院大学

教育の場としての活用。 ・びおぷろ …学生団体としての事業の明確化(環境教育の推進)。 ・環境NPO …活動の場、NPOのオリジナルメニューの創出。

2共通ニーズ ・環境教育⇒人材の育成(自身及び将来の担い手)⇒観光・まちづくり等の地域活性化

# ⑨この取組をどのように継続させるか

こ対応するか

⑧この取組を進める上で課題にどのように対応する学校で行われている環境教育の実情を把握した上で、

フォームの形成は不可欠である。観光やまちづくりなどの地域活性化、福祉・防災も含めた持続可能な茨木に向けたそれぞれの役割を明確にする。 ・昨年度の取組みを通して、環境政策課と協働できる体制ができた、 他地域で行われている先進事例を参考にするなど茨木市の地域性を生かしたシステム ワークショップや人材育成で プラットフォーム形成を行う過程の中で、市役所内の各部課の役割を明確にし、環境

そのためには、ヒト・モノ・カネの観点で、

ヒト…行政の人材の巻き込み。サークル的なNPO活動ではなく、事業型 NPOの意義を共有した担い手の育成(スタッフ及び担い手) ・環境教育を受けた児童・生徒が茨木の将来を担う人材になり、観光やまちづくりなどの地域活性化、防災・福祉など地域を持続させることに繋がるという理論を本事業を通し ・人材育成事業やワークショップを通して、現在、環境教育を推進しているセクターや個人に環境教育を取りまく環境を共有し、その中から、推進するコアな人材を発掘する。また、新たな人材もこの取組みを通して発掘する。

モノ…安威川ダム周辺などの豊かな自然環境を有した北部に環境教育 ①市の施策としての 算化、②この分野への企業の参画による寄付、③基金設立により経 の拠点を設置し、学校教育と連携した環境教育の推進を行う。 カネ…環境省事業終了後に取組を継続できるよう、①市の施9 予算化、②この分野への企業の参画に費・費・費用を賄う体制づくり、を実施する。

学校の状況や教員が求める資源、環境NPOなど外部から提供できる学習内容、 里山・福祉など環境分野以外の多様な主体と学校の連携状況、環境教育の 必要性についての理論や意見。これらについて交流・対話する場をつくる。

付53

دِ
1
アジス
業入
2)事業
7-
イギノ
記入
グダ
留カレ
加利
協働

6月 7月 8月	協働取組加速化事業の 連絡会・勉強会・報告会・ を討会の開催(予定) フ)	トアリング 10団体以上	ワーケンョップの 第1回ワーケショップの 第2回ワー 開催 開催	人材育成事業の 第2回人材育成事業の 第2回人 開催 開催	プラットホームでの交流	第1回検討会 第2回検討会 第3回検討 第3回検討	トアリング	第1回ワーケショップの 第2回ワークショップの 第3回ワーケショップの 第3回ワーケショップの 類1回ワーケショップの 第3回ワー関催 第1回ワー	第1回人材育成事業の 第2回人材育成事業の 第3回人 検討 検討 検討 機制 機制 機制 機制 機制 機制 機制 機制 機能 無利	プラットホームで の交流(準備・振 り返り)	中期計画・とりま
9月 10月			ークショップの 第3回ワークショップの 開催	第2回人材育成事業の 第3回人材育成事業の 開催 開催		第4回検討会	トアリングとりまとめ	ークショップの 第2回ワークショップの 振り返り	第3回人材育成事業の 検討 第1回人材育成事業の 振り返り		
月11	第2回連絡会 外外					第5回検討会		第3回ワークショップの 振り返り	第3回人材育成事業の振り返り		中期計画
12月	協働取組促進のための 対話の場への出席					第6回検討会					中期計画
1月	勉強会への出席		シンポジウムの開催			第7回検討会					とりまとめ・中期計画
2月	報告会 (2/18)					第8回検討会		シンポジウムの振り返り			とりまとめ
3月	報告書締切 (3/10)										

### 全体構成 (1)事業の 中期計画シート(概要版)

### トのための環境教育の推進 ず総へ茨と 次世代に引 事業名:

# て必要なのか

)この取組がどうして必要なの ・現在表面化している問題はなにか

・茨木市北部は過疎化が進んでいるが(清溪小学校児童数 昭和63年度112人⇒平成28年度15人)、まちなかには6大学、11高校、14中学校、32小学校があります。多くの企業や商業施設もあり、教育水準も高く、活性化している。北部では安威川ダム、新名神高速道路、彩都の大型のハード整備は粛々と行われている。地域資源の宝庫である北部の現状がまちに住む人々や茨木を訪れる人々に伝わっていない。まちなかでは賑やかなイベントが頻繁に開かれているが、地道な環境 教育の取組み(地域を知る取組み)が少ない。

・ ・ ・ まちなかの利便性や住みやすさばかりに目を向けられ、北部に目が向 かない状況が続き、過疎化が進む。⇒茨木全体の地域活性につながら

・環境に対する啓発が進まず、環境教育ができていない状況が続く。

# すか 2)この取組でどのような状況の達成を目指

# -2017年度時点

・環境(教育)に関わる市の部課、NPO、企業、農林業従事者、地域 が環境(教育)の必要性を認識する。

・各セクターが参加する合同会議が実施され、プラットフォームの原 •2018年度時

型が形成されている。 -2019年度時点

・市の環境基本計画に沿った取組みができている。・北部が環境教育の拠点として位置づけられている。・『わたしたちの茨木』、『やってみよう環境学習』を活用した環境教育を推進する体制(基盤を支える、実行するプラットフォーム)ができている。

・各セクターとのワークショップや人材育成事業の実施。

3この取組で具体的に何をどのように行うのか

事務局杉山 綾子

瀬口 和矩

bioa代表

記入者:

2019/1/31

記入日:

- ・北部の活性化団体と地域資源の掘り起こしと教材化。 ・学生との協働によるカリキュラムづくりと授業の実施。 ・市の各部課への啓発と各部課の政策の中での環境教育の実施。
  - ・企業、地域団体、環境NPOと地域資源の掘り起こしと教材化。 (北部活性化団体は継続) ・各部課の合同会議と学習会の実施。 ・プラットフォームの原型づくりと事務局体制の確立。 •2018年度時点

・2019年度時点・北部地域での環境教育拠点づくりの取組みの加速化。・市の各部課、環境NPO、企業、地域団体、学生、などによるプラット -2019年度時

ムの形成。

# <u> ⑤各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か</u>

- 茨木市環境政策課:環境教育の推進、市民への環境の啓発 ・茨木市教育委員会:学校教育の推進、児童の健全育成 ・茨木市市民協働推進課:協働の浸透、市民活動の活性化 ・茨木市農林課:里山の保全と農林業の振興 ・茨木市農林課:里山の保全と農林業の振興 ・茨木市危機管理課:市民への防災の啓発 ・学生団体:団体活動の活性化、授業の推進 ・企業:環境活動の溶発と市民への事業の告知 ・地域:地域活動の活性化、地域資源についての啓発 ・玻域:地域活動の活性化、地域資源についての啓発 ・環境NPO:団体活動の活性化、環境の啓発 ・環境NPO:団体活動の活性化、環境の啓発

他の自治体との協働

ークホルダーとの関係性

53年後のステ

3年後 ステークホルダーマップ

年度末時点の ークホルダーとの関係性

(4) √√√

里山サポートネル茂木

茨木市 農林課

平成17年3月 ステークホルダーマップ

新名神ビオ

茨木市 市民協働推進課

茨木市 北部整備推進課 (安處川/分、新名神事業 彩都事業)

茨木市 教育委員会

液木市 教育センター

カリキュラム作成、

# 8この取組を進める上で課題にどのように対応するか

教育学部3ど の大学

・まず、茨木市の各部課における環境分野の取組みを整理し、その 器の中での環境教育を進める。次に、各部課で行う環境教育の情 報を整理し、本事業の事務局に集約する。さらに、プラットフォーム を形成・システム化し、環境教育の推進を行う。 ・北部の活性化をミッションとする茨木ほくちの会などとカリキュラム づくりや授業の推進で深く連携し、まちへの情報発信を行う。

・公的な環境の研究機関や大学の教育学部と連携し、カリキュラムづくりや授業の進め方等についての協働を行う。

・地域活性化には地道な環境教育が必要なことについて、特に、観 光協会や企業への継続的な啓発を行う

③この取組をどのように継続させるか

北部地域の活性化は環境教育が必要不可欠という認識を地域団体と共有し、継続した地域資源の教材化や人材育成を行う。 ・環境教育に関わる学生団体との連携と人材育成の継続

・上記は茨木市の各部課と連携しながら行う。

多様な自主事 ・資金については、基金の立ち上げ、行政の委託、 業の推進などをバランスよく行いながら進める。

・北部地域での環境教育の拠点形成に向けて、ステークホルダ と連携する。 ・安威川ダムなどが環境教育の拠点になるよう、行政との連携を継

### 追手門学院大学 立命館大学 広報 | 茨木市 まち魅力発信課 沛危機管理課 奈良学園0B会 関西国際大学 関西大学KUMC 茨木 大阪府 茨木土木事務所 大阪府 WREGOMES 安威川ダム建設事務所 bioa 地域活性化に繋げる環境教育 表本ほくちの会 安威地区地域 ミッパチ、馬 神経器の松化 原料地 茨木市観光協会 協議会 茨木市 環境政策課 (環境教育ポランティア) 安威小学校 ユニクル側 リサイクル企業 - 1 キイクル 配接地 拡架 茨木市 市会議員 政策へ の反戦

# **⑦この取組を進める上での課題は何か**

まちの住民に農山間地の地域課題(過疎化など)が認識されてい

学校(教員)の中で、環境教育の優先順位が低

のNPOが少ない。

カリキュラムづくりや授業を推進する人材が少ない。

茨木市の各部課が環境教育でつながっていない。

の解決がミッツ 市民活動はサークル的な活動が多く、地域課題

清溪小学校

د
і П
沿
2事業スケジ
無冊
(Q)
(概要版)
1
中期計画が
ш

(重点目標) ・環境(教育)に関わる市の部課、NPO、企業、農林業従事者、地域が環境(教育)の必要性を認識する。 ・プラットフォーム形成に向けた取組みを加速化する。 ・オラットフォーム形成に向けた取組みを加速化する)・小学校4年生・5年生の年間を通したカリキュラムを作成する。場本課の環境分野のカリキュラム化と授業の推進農林課→農林業の教材化、公園緑地課→まちなかの環境の教材化・北部資源の教材化・投業の体制づくり(北部団体との協働)フーケショッグ総統・自然環境・水環境・メダカとミッパチを指標にしたカリキュラムの作成と廃棄物・リサイクルのカリキュラムの作成・学生団体との協働によるカリキュラムの作成・学生団体との協働によるカリキュラムの作成・学生団体との協働によるカリキュラムの作成・学生団体との協働によるカリキュラムの作成・学生団体との協働によるカリキュラムの作成・学生団体との協働によるカリキュラムの作成・学生団体との協働によるカリキュラムの作成・プラットフォームづくりのために各セクターとの協議を進める。	(目標・事業内容 NPO、企業、農林 る。 組みを加速化する 組みを加速化する。 は、キー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー・ニー	_	,	2018年度の重点	目標•事業内容			70,000	単口	1 1	
(重点目標) ・環境(教育)に関わる市の部課、1 が環境(教育)の必要性を認識する、プラットフォーム形成に向けた取場 ・プラットフォーム形成に向けた取場では ・パ学校4年生・5年生の年間を通りを設立ち上げへの検討・協議 ・各部課の環境分野のカリキュラム 農林課一農林業の教材化、公園 大化 た機管理課一防災教育の教材(公園 は、北部資源の教材化・対策を フーケンョップの継続 ・北部資源の教材化・投業の教材( ・北部資源の教材化・対策を が、対した。 ・大部位をの地域に ・大村を成を地行して行う) ・プラットフォームづくりのために各	NPO、企業、農林等 る。 組みを加速化する ・協働を加速化す・	_		1	I			2019年度の重点	吳の里屈ロ係・事	- 事 果 囚 谷	
(事業内容) ・各部課の環境分野のカリキュラム農林課一農林業の教材化、公園材化 危機管理課一防災教育の教材( ・北部資源の教材化一特業の体制 ・北部資源の教材化一特業の体制 ・北部資源の教材化一特業の体制 ・北部資源の教材化一時業の体制 ・北部資源の教材化一時業の体制 ・北部資源の教材化一時業の体制 ・北部資源の教材化一時 ・北部資源の教材化一時 ・北部資源の教材化一時 ・北部資源の教材化一時 ・北部資源の教材化一時 ・北部資源の教材化一時 ・北部資源の教育の教材( ・大村を成立をいたのが制によるカリキュ ・プラットフォームづくりのために各	コンドン・マーン・マーン・ローン・ローン・ローン・ローン・ローン・ローン・ローン・ローン・ローン・ロ	業従事者、地域・2°。 148. 158. 158. 158. 158. 158. 158. 158. 15	(重点目標) ・オール茨木で環境教育を推進する体制づくり ・オール茨木で環境教育を推進する体制づくり (議会・・議員からの啓発)⇒各部課での環境分野の情報の一元化 ・北部の地域団体との連携の深化⇒北部の活性化をまちにつなげる取組みにおける環境教育の活用 ・基金立ち上げへ具体的な計画づくり	境教育を推進する 5の啓発)⇒各部[ との連携の深化= 環境教育の活用 具体的な計画づく	5体制づくり 課での環境分野。 ⇒北部の活性化? リ		(重点目標) ・北部資源の教材 ・各学年の年間を ・北部の環境教育・プラットフォーム( ・基金の立ち上げ	(重点目標) ・北部資源の教材化の仕上げ ・北部資源の教材化の仕上げ ・各学年の年間を通したカリキュラムの完成とモデル校での実施・北部の環境教育の拠点化に向けた検討・協議 ・プラットフォームの形成 ・基金の立ち上げ	<b>り完成とモデル校</b> で後討・協議	での実施	
	ム化と授業の推進 18線地課→まちなえ L L ゴづくり(北部団体、 デを指標にしたカ ラムの作成 ラムづくりと授業の ・セクターとの協議		(事業内容) ・市の政策に位置づける取組み⇒各部課が行っている環境の取組みの情報ー元化 ・人材育成とワークショップ(北部活性NPO、学生、環境NPO、企業等)の継続 ・モデル校による環境教育の実施(各学年の年間を通したカリキュラムの模索的な実施) ・ブラットフォームの事務局体制づくり	づける取組み⇒各計 7ショップ(北部活性 3.境教育の実施(各 3.1版) 0事務局体制づくり	⇒各部課が行っている環境の取組 I活性NPO、学生、環境NPO、企業 施(各学年の年間を通したカリキュ づくり	vる環境の取組 B境NPO、企業 画したカリキュ	(事業内容) ・プラットフォーム6 ・プラットフォーム6 ・プリキュラムの進・茨木環境基金(復・環境教育の拠点・環境教育の拠点	(事業内容) ・プラットフォームの体制づくり ・人村育成とワークショップの継続 ・カリキュラムの進化と事業体制の確立 ・茨木環境基金(仮称)の立ち上げ事業 ・環境教育の拠点のコンセプトの明確化	<b>冶業</b>		
	2017年度	丰度			2018年度	<b>车</b> 度			2019年度	年度	
. 4月~	7月~	10月~	1月~ 4	4月~	月~	10月~	1月~	4月~	7月~	10月~	月~
道絡協議会					連絡協議会の運営(年4回	(年4回)					1
②				张	1	寒				张	
③ (②との連動) カリキュラム・副 読本の作成とそ れらを活用した 環境教育の実施	· · · ·	與	1		塩	実施			垣	実施	
(4) モデル校での環 境教育の実施と 検証							・	実施			1
⑤ 連絡協議会からプ ラットフォームへ進 化	計画・実施	(模索)			計画・実施	(模索)			・■揺	実施	1
<ul><li>⑥ワーケショップ</li><li>と人材育成事業</li></ul>					各年2回	各年2回以上実施					

# 記入フォーム⑴事業の全体構成 協働取組カレンダー

## 育による活力ある地域づくり事業 薬場再生と環境数 事業名:

# この取組がどうして必要なのか

・現在表面化している問題はなにか

岐の島も例外ではない。近年の磯焼け調査(環境省中国四国地方環境事務所 2015年、隠岐の島町 2015年)では、薬場の表しては、薬場のでいる箇所が確認され、薬場の減少に伴い、サザエ、アフビ等の重要な水産資源の減少、魚介類の生息場の減少などの影響が見られ、海域資質は低下しつつある状態であ 島根県沿岸では藻場の衰退が進行しつつあり、隠岐郡、隠

・放置した場合にどのような問題が生じるか

藻場の衰退が進行すると、磯焼けとなる。沿岸の海域環境 の悪化は、磯根資源の減少、漁獲の減少、担い手の減少に 直結することから、地域の重要産業である水産業の衰退、延 いては地域の衰退につながることが懸念される状態である。 ①事業開始時のステークホルダーとの関係性はどの ようなものか

### 島根県水 教育委員 惡 解 高 校 海中景 観研究 法に連携 )開始 過去に協働 1 1 漁業者 日本シジョ中発売 书 隠岐ジオパーク ツアーデスク 事業による協働の開始 隠岐の島町 農林水産課 島根大

⑦この取組を進める上での課題は何か

組織体制の確立 7-1

協議会として発足したばかりであり、隠岐の藻場再生と環境 教育を協働で取り組む体制が十分には構築できていない。 7-2 環境教育プログラムの確立 協働取組という事業の特色、構成団体の特色を反映した環

**境教育プログラムの作成が求められている。** 

# ②この取組でどのような状況の達成を目指すか

3この取組で具体的に何をどのように行うのか

测证

組澤

記入者:

記入日: 平成28年6月24日

効率的・効果的に藻場再生を試みる

・海域資質の向上に向けて、隠岐の島の藻場が衰退した状態 が顕在化している海域を試験地とし、衰退した海藻藻場を回 復させることを目指す

・薬場の衰退原因はとなる要素の除去 (ウニやニナの駆除、岩盤清掃) ・地域や場所に適した薬場再生技術の選択 -効果の検証 育を通じ将来の地域の担い手を育て、地域づくりへ貢献するこ ・この取り組みの内容を環境教育プログラムにまとめ、環境教 とを目指す。

# 環境教育による人材育成

·藻場再生の必要性と地域活性化 ・薬場再生の技術(効率的・効果的な手法)

体験学習

# ークホルダーの個別、共通のニーズは何か 6各ステ ⑤事業終了時にステークホルダーとの関係性はどのようなもの変化しているとよいか

協働の輪

祖 漢 紀 報

地元協議会

島根県水

世

島根大

・国や県とも連携して藻場の保全に取り組む

・地域の特色を生かした社会教育を実施するフィールドを確保

・産業基盤の環境維持管理に取り組む

水産庁

海中景観 研究所

海域の保全 環境教育

隠岐の島 臣 個別

環境省

水産高校 隠岐

日本シジョ中発売

ク推進協議会 隠岐ジオパー

教育委員会

阿岐ジャパー

・薬場の保全に関する業務に従事する(シジミ研、海中研)

# 8この取組を進める上で課題にどのように対応するか | ⑨この取組をどのように継続させるか

会議において恊働して取り組む内容を共通認識として持つ。 将来目標についても協働で考えていく。 8-1 組織体制

8-2 環境教育

本協議会には、教育機関である隠岐水産高校が参加している。学校教育の内容も参考に、環境教育プログラムの内容を検討する。

・次年度以降の協議会継続に向けた予算の担保が一番の課題。本事業を通じて、国、県、町など地域の活動を支援する体 制を確保し、資金調達を模索する。 ・薬場再生は地域の磯根資源の保全に有効であること、社会 教育の一環としてその取り組みを地域へ還元できるため、持 続的に薬場再生と環境教育が実施できるような体制を話し合

付57

有限会社日本シジミ研究所 ( H 28 協働カレンダー)

	3月							
	2月	報告会				第3回 協議会		
	目1		実証実験(モニタ)			結果整理		
	12月			アンケート配布				アンケート配布
	11月	第2回連絡会11/24	藻場再生実証実験	環境教育 (隠岐水産高校学生対象)			<b>挙だし</b>	アンケート作成
	月01		岩盤清掃・ウニ、ニ ナの駆除	環境教育 (隠岐水産高校学生対象)		第2回協議会 第3回事業部会 環境教育プログラ ムの完成 アドバイザーヒアリ ング	海藻種苗の生産 培養 アラメ母藻採取	アンケート作成
-ル	日6		事前調查9/16			環境教育プログラム ム アドバイザーヒアリング	海藻種苗の生産 培養 ワカメ種苗生産9下 旬	
業スケジュー	8月					第2回事業部会環境教育プログラ 環境教育プログラム作成事業部会	海藻種苗の生産 培養, 母藻採取等	
記入フォーム②事業スケジュール	月7					環境教育プログラ ム 素案の作成		
	目9	第1回連絡会 (キックオフ) 6/14				6/7事前協議 第一回協議会 6/30 第一回事業部会 6/30		
協働取組カレンダー		協働取組加速化事業 の連絡会・勉強会・報 告会の開催(予定)	藻場再生	環境教育	活動③	祝	海藻ネット	事業効果の確 認 アンケート
協働		協働取の の連絡。 告会の		対外的な活動	l		対内的な活動	1 . "

# 中期計画シート(概要版) ①事業の全体構成

教育による活力ある地域づくり:	事業 記入日:2016/1/19		記入者:細澤 豪志
(1)この取組がどうして必要なのか ・・現在表面化している問題はなにか ・・現在表面化している問題はなにか ・・関位諸島では、漢場の衰退が確認され、海域資質は低下しつつあり、 ・ 沿岸漁業に接退傾向にある。また、島の主要産業である水産業では担い手不足が問題化している。一方、ユネスコ世界ジオパークに登録され ・ る隠岐諸島は、自然環境の保護・保全は地域の義務的課題であり、それ ・ ならには、個々の活発な活動を有機的に結び付けることが課題である。 ・ ・	②この取組でどのような状況の達成を目指すか ・2017年度時点 ・脈下のでの活動を継続。環境教育と薬場再生を進める。 ・服職年の活動を継続。環境教育と薬場再生を進める。 ・服職年の活動を継続。途中成果の報告会を催し、薬場の再生・保全が地域課題であることを広報する。 ・農林水産業・環境保全・観光資源といった島の社会環境を総合的に学ぶことのできる環境教育を協働取組により実験的に実践 ・地域資源を活かした環境学習プログラムの作成。 ・地域資源を活かした環境学習プログラムの作成。 ・活動の持続性を持たせるための仕組みや目標を設定する。		③この取組で具体的に何をどのように行うのか・2017年度時点 2016年の取り組みを継続する 関連のあるステークホルダーを可能な限り広範囲に包摂 する 個々の活動をどのように組み合わせるべきか共通の認識 を得る ・2018年度時点 モデル地区、学区等で島の農林水産業・環境保全・観光資 源といった島の社会環境に関する教育を総合的に実践 課題・問題点の抽出 ・2019年度時点 活動の持続性を持たせるための仕組みや目標の設定 「例えば、一連の学習課程卒業者に対する資格認定制度の 立ち上げなど)
(4) 今年度末時点のステークホルダーとの関係性はどのようなものか。         事業による協働の開始 過去に協働 に関して、地元 にはの島町 地元 農林水産課 機が水産課 機が水産課 は、漁業者 制の場所 通常者 にはない。       第中景 観研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(5)3年後にステークホルダーとの関係性はどのようなもの変化しているとよいか、	(のような	<ul> <li>⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か</li> <li>全体</li> <li>・活動の継続性</li> <li>・担い手の確保</li> <li>水産関連のステークホルダー</li> <li>・海域資質の向上(藻場の再生、磯根資源の保全)</li> <li>環境保全関連のステークホルダー</li> <li>・学習の場、機会の公平性(年齢等も)</li> <li>・ジオ、エコの保全</li> </ul>
⑦この取組を進める上での課題は何か ・各団体のパワーバランスをいかに取るか。 ・目標、取り組み方法、利点、欠点などについて、すべてのス デークホルダーが共通の理解を持つこと・活動の牽引役、中間支援役を明確化	<ul> <li>③この取組を進める上で課題にどのように対応するか・非公式会議を数多く行い、コミュニケーションをとり、相手の考え方をお互いに理解する。</li> <li>・自分の利益、全体の利益のバランスを把握し、パワーバランスの偏りに構成員全員が配慮する。</li> <li>・活動の牽引役は、強いリーダーシップを発揮するタイプではなく、裏方(事務局)として各活動の円滑な実施に努める(誰がやりたい活動かではなく、みんなで目指すという趣旨を明確に)。</li> </ul>	4 , %	<ul><li>⑨この取組をどのように継続させるか</li><li>ヒ、モノ、カネの関係は課題活動内容、活動資金の調達活動の持続性には、活動から得られる収益の一部を還元する仕組みとする。</li></ul>

_
=
Ĥ
"/
業スケジ
Ķ
₩,
小小
(2)
$\widehat{\alpha}$
监
民
HS ITP
(概要版)
$\sim$
<del>+</del>
Ţ
ν)
中期評画
Ŧ
ıliıπ
渖
Д
ц

2017年度の重点目標・事業内容	2018年度の重点 まち日極	i点目標·事業内容	114	野田七黒	2019年	2019年度の重点目標・事業内容	事業内容	
- 2016年の活動を継続し、環境教育による人材育成と藻場再生を進める。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	り活動を継続し、環境 中成果の報告会を催し に報する。 (報する。 (報する。 (報する。 (報する) とのできる環境教育を (成教育について、途中 道教育について、途中 道教育について、途中 当日、学区等を設けて といった島の社会環制 動取組により実験的 言えば、隠岐のジオ、 言えば、隠岐のジオ、 同語のカイタの課題 動取組により実験的 であることから、その、 をあることから、その、 る。	教育による人材育成と藻場再生を進 、薬場の再生・保全が地域課題であ 、薬場の再生・保全が地域課題であ 資源といった島の社会環境を総合的 ・協働取組により実験的に実践 かの協議会では、2016年からの藻場 n成果の報告会を催し、地域住民の n再生・保全が地域課題であること、 遺解決につながることを広報する。 環域の島の農林水産業・環境保全・ 煮を総合的に学ぶことのできる環境 に実践する(総合的には、ジオパー エコにつながる内容を指し、できるだ をいう)。 パグラムを効率的に運用するうえで カイラムを効率的に運用するうえで ができるがあるが地域活性化につながる 資源を活用した環境教育プログラム		単位目係 ・地域資源を活み ・地域資源を活み ・地域課題の構装 にとができる。また にとができる。また にとができる。また にいく。 ・活動の特殊性を 一部の持続性を 一部のの環境学習 でなった、一学校・ でなった、一学校・ でなった、一学校・ でなった、一学校・ でなった、一学校・ である。 は、一般では 一個をの環境や 一個を のでは、 一個を のでは、 一個を のでは、 一個を のでは、 一個を のでは、 一個を のでは、 一個を のでは、 一個を のでは、 一個を のでは、 一個を のでは、 一個を のでは、 一位を でいた。 一位を 一位を 一位を 一位を 一位を 一位を 一位を 一位を 一位を 一位を	した環境学習力 特たせるための現り総 いのための取り総分 と、既に取り組み を習の材料である を目指したESD 持たせるための 持たせるための 持たせるが は一次うんを講 でして、資格認定 でして、資格認定 でして、資格認定 でして、資格認定 でして、資格認定 でして、資格認定 でして、資格認定 でして、資格認定 は一次うした は一次 は一次 は一次 は一次 は一次 は一次 は一次 は一次 は一次 は一次	・地域資源を活かした環境学習プログラムの作成。 ・地域資源を活かした環境学習プログラムの作成。 ・活動の持続性を持たせるための仕組みや目標を設定する。・ ・活動の持続性を持たせるための仕組みや目標を設定する・ ・地域課題の解決のための取り組みが始まっている地域の取りによができる。また、既に取り組みが始まっている地域の取りにとができる。また、既に取り組みが始まっている地域の取りによい、環境可能な隠岐を目指したESD教育の要素を含む学習プロでいく。 ・活動の持続性を持たせるための仕組みや目標の設定についる。 者を課程卒業者として、資格認定を行う制度を立ち上げる。 対たちとし、小学校・中学校・高校それぞれの段階ごとに内容を存ととし、小学校・中学校・高校それぞれの段階ごとに内容を技をとし、小学校・中学校・高校それの日標では「高校を与える対策、高岐の島の成り立ちから生態系、人々の暮ら、ブオパークの要素全般に一定の知識・経験を与える内容とす、ブオパークの要素を般に一定の知識・経験を与える内容とす、ブオパークの要素を脱に一定の知識・経験を与える内容とす。 資格認定制度を導入目的は、地域理解度の高い有能な人、将来のジオパークの要素を配に一定の知識・経験を与える内容とすですが、一クに動の相い手、地域理解度の高い有様なん。 の活性化に貢献することのできる人材を地域社会の手で育で、地域活性化と持続可能な社会づくりに貢献することを目的で、地域活性化と持続可能な社会づくりに貢献することを目的	まかり 当かは資源を活かした環境学習プログラムの作成。 ・地域資源を活かした環境学習プログラムの作成。 ・地域資源を活かした環境学習づけ組みや目標を設定する。 ・地域課題の解決のための取り組みが始まっている地域の取り組み(ジオパーク活動 等)もまた、環境学習の材料である。これら地域資源を活かした環境学習プログラム にいく。 に取り組みが始まっている地域の取り組み(ジオパーク活動 等)もまた、環境学習の材料である。これら地域資源を活かした環境学習プログラム (持続可能な隠岐を目指したESD教育の要素を含む学習プログラム)について議論していく。 ・活動の持続性を持たせるための仕組みや目標の設定について(例えば) 個々の環境学習プログラムを課程を了、単位を付与し、一定の学習単位を取得した 者を課程卒業者として、資格認定を行う制度を立ち上げる。対象は、隠岐で育つ子供 たちとし、小学校・学校・高校それぞれの段階ごとに内容をステップアップさせ、高 な卒業と同時に、環境教育の課程修了者には資格を与えるものとする。 環境教育は、隠岐の島の成り立ちから生態系、人々の暮らし、経済活動まで隠岐 ジオパークの要素を般に一定の知識・経験を与える内容とする。 資格認定制度を導入目的は、地域理解度の高い・精度なんることを証明し、 資格認定制度を導入目的は、地域理解度の高い・精度なんることを証明し、 の活性化に貢献することのできる人材を地域社会の手で育て社会に送り出すこと の活性化に貢献することのできる人材を地域社会の手で育て社会に送り出すこと の活性化と持続可能な社会づく切に貢献することを目的とする。	ま成り ・地域資源を活かした環境学習プログラムの作成。 であ・活動の持続性を持たせるための仕組みや目標を設定する。 ・活動の持続性を持たせるための仕組みや目標を設定する。 ・地域課題の解決のための取り組みが始まっている地域の取り組み(ジオパーク活動 等)もまた、環境学習の材料である。これら地域資源を活かした環境学習プログラム にい。 に動の持続性を持たせるための仕組みや目標の設定について(例えば) でしい。 ・活動の持続性を持たせるための仕組みや目標の設定について(例えば) でしい。 ・活動の持続性を持たせるための仕組みや目標の設定について(例えば) をしい、中学校・中学校・高校名れぞれの段階ごとに内容をステップアップさせ、高 たちとし、小学校・中学校・高校名れぞれの段階ごとに内容をステップアップさせ、高 たちとし、小学校・中学校・高校名れぞれの段階に、上にる。対象は、隠岐で育つ子供 たちとし、小学校・中学校・高校をもでものをする。 まで葉を同時に、環境教育の課程修了者には資格を与えるものとする。 まで、対しているのの最近の成り立ちから生態系、人々の暮らし、経済活動まで隠岐 ジオパークの要素全般に一定の知識・経験を与える内容とする。 資格認定制度を導入目的は、地域理解度の高い有能な人材であることを証明し、 資格認定制度を主会人目が、地域の相い手、教育や行政の担い手として、隠岐 の活性化に貢献することのできる人材を地域社会の手で育て社会に送り出すこと の活性化に貢献することのできる人材を地域社会の手で育て社会に送り出すこと の活性化に貢献することのできる人材を地域社会の手で育て社会に送り出すこと の活性化に貢献することのできる人材を地域社会の手で育て社会に送り出すこと で、地域活性化と持続可能な社会づくりに貢献することを目的とする。
2017年度						201	2019年度	
7月 8月 9月 10月 11月 12月	1月 2月 3月 4月 5月 6月	7月 8月 9月	10月 11月 12月	1月 2月 3月	4月 5月 6月	7月 8月 9月	10月 11月 12月	1月 2月 3月
•	•				•			ı
2016年事業の継続 広報(町民レベルまで興味・関心を喚起)	<b>效起</b> )	2016年中間成果を報告に、	年事業の継続、地域課題であることを広報	-とを広報				
島内の広範囲のステークホルダ十に参加してもらう「協議の場を設定) 「環境保全+学びの場としての環境活用」という考え方を、島全体を対象として展開する柱めの準備	協議の場を設定) 方を、島全体を対象として展開する	ための準備						
環境教育プログラムの有機的な結び付けを検討 教育機関との連携、ジオパーク関連団体との連携(地域学の視座)	島の社会環境 教育を試験的	を総合的に学ぶことのできる環境 にモデル地区等で実践		問題点・課題の抽出と修正		地域資源を活かした環境学習プログラムへと 改良したプログラムをモデル地区等で実践	ログラムへと (等で実践	
	持続可能な仕約 する他の分野と	持続可能な仕組みづくりに向け観光をはじめと する他の分野との連携展開を模索		源を活かした環境 続性のための仕	5学習プログラム2 狙みや目標を共通	地域資源を活かした環境学習プログラム者議論すると共に、 動の持続性のための仕組みや目標を共通のものとする	- 拍	仕組み づくり

## (1)事業の全体構成 協働取組カレンダー

### 田姓 記入日:平成28年7月1日 但 る力を育むための地域教 ども達の生

この取組がどうして必要なのか

・現在表面化している問題はなにか

あり、総じて学校を支援する環境学習指導者が不足している。こ 展開されていない。地域によって学校と地域の連携に温度差が 環境学習の現場でESDの視点からの教育プログラムが十分に のことが教員の負担増にも繋がっている。

子どもの環境学習の質の不均衡が拡大し、地域ぐるみの教育力の衰退、ESD指導者の人材育成の停滞が生じると考えられる。 ・放置した場合にどのような問題が生じるか

②この取組でどのような状況の達成を目指すか

ESDICよる環境学習・人材育成の促進と、環境学習施設の拠点化を目指す。更に、地域コミュニティーと学校との良好な関係の確立を促進し、「民」の相対的なパワーアップを実現するとともに、環境教育における産官学民の協働による新たな「宇 ESDの教育推進体制の充実を目指す。即ち、環境学習プログラムや環境学習指導者のレベルアップを実現して、環境学習施設への支援・連携体制(仕組みづくりを含む)を通じて、 部方式」が展開される状況を目指す。

・宇部地域の環境学習拠点における環境学習の問題点を洗い に行うのか 出し、子どもたち全体に行き届く、基本的な環境学習の内容の ③この取組で具体的に何をどのよう 改善を行う。

(NPO法人うべ環境コミュニティー理事長)

・環境学習拠点で活躍できる環境学習指導者等の人材育成を 推進する。

・宇部地域における新たな環境学習拠点の候補について、検

・宇部地域の環境学習に関するニーズを踏まえ、本事業で育成した環境学習指導者等の人材の活用を促進する。 討する。

K | |

⑤各ステークホルダーの個別、共通の二

⑤事業終了時にステークホルダーとの関係性はどのようなもの変化しているとよいか

①事業開始時のステークホルダーとの関係性はどのようなものか

宇部市市民環境部

宇部市教育委員会

宇部市市民環境部

-->リサイクルプラザ< 校区出前授業

全生徒の 環境学習

放課後見守り授業

宇部市内小学校

-->| コキイクルプルず|||

校区出前授業

放課後見守り授業

宇部市内小学校

連携 支援

全生徒の 環境学習

宇部市教育委員会

(環境教育の強化)

本事業の連携八団体

- V F V F F アンシンボの 不 宇部市まちなか環境学習館

(個別の環境教育)

宇部市内中学校

環境教育に対する 重集強化)

宇部市内中学校

・宇部市市民環境部; 市民の環境共生に関する認知度向上 ・宇部市教育委員会、小中学校; こども達の生きる力の向上 ・宇部市の高等教育機関; 環境教育の充実に資する連携体

制の確立

宇部市における環境保全について、 自ら学び、考え、行動する人づくりを通じて、コミュニティパワ-を高め、「民」の相対的な力量を高めること。 民間の環境関連団体:

本事業の連携八団体

; 環境学習の充実に寄与することにより、自らの環境対 策の強化を図る。 · 分業;

共通ニーズ;子どもたち全体に行き届く、基本的な環境学習の機会を充実させること。

+ 地域ロミュニティ

宇部市まちなか環境学習館

アクトビレッジおの

対する連携

強化)

環境学習3拠点 消糖公園

宇部市内大学,高専

(環境教育の強化)

(温度差のある個別地域活動)

個別の環境対策) 宇部市内企業

宇部市内大学・高専

(個別の環境教育)

地域コミュニティ

環境学習3拠点

常盤公園

(個別の環境教育

宇部市内高等学校

宇部市内企業

宇部市内高等学校

# ⑦この取組を進める上での課題は何か

よ、多様な環境教育指導者のネットワークを構築することが課題 である。ネットワーク構築においては環境学習指導者のリスト作成を行い、この作業の中から多様な人材発掘と適材適所の配置 ESDの視点による子ども達の教育環境を充実させるため

・具体的な環境学習の試行、得られた結果の評価・改善などを 実施することにより、人材育成と教材開発を如何に行うかが課題 を実現することが課題である。

上記の課題達成のために協働体制を有効に機能させることが

この取組を進める上で課題にどのように対応する (環境教育に対する連携強化)  $\infty$ 

ターに適した人物も発掘して、環境教育を継続して行える体制 を整える。 ・環境教育指導者のネットワーク構築は、候補者に対して環 境教育の専門、経験、スキルなどを調査して、多様な人材を 発掘するとともに、環境教育のマネージャーやコーディネー

・環境教育の各拠点において、環境学習の試行を含むPDCA サイクルの実施により、子供たちの環境学習の質の向上を念 頭に、環境学習指導者レベルアップと教材開発を行う。 ・本事業の参画団体の横の繋がりを強化するとともに、産官 民の協働体制を強化する。

本事業への参画団体は以下のアクションを継続する。 ⑨この取組をどのように継続させるか

・本事業で得られた環境学習に関する教材開発、人材発掘、人 材育成の成果を教育現場で活用できるように、本事業の連携団 ・持続可能な社会を実現するための教育を発展させるために、 体が協働体制を維持していく

本事業の成果をPDCAサイクルに乗せて、環境学習システムの 更なるスパイラルアップを継続検討する。

・地域コミュニティーの活力を向上させる取り組みを、活力のあ る先進地域のみでなく多くの地域に拡大する努力を続ける。

・本事業の協働体制を強化して、環境に対する全市的な取り組 みのレベルアップを図る。

### 付61

協働取組カレンダー ②事業スケジュール

3月						第5回連絡調整会 議 (3月上旬~中旬) 事業全体の振り返 リ 今後の事業展開 に対する意見交換
2月	報告会 2月16日 東 京	第9回WG 検討会 WGの成果のまとめ	第9回WG 検討会 WGの成果のまとめ	第9回MG 検討会 MGの成果のまとめ	第9回術括幹事会 月次報告のとりまと め、 最終報告書のまとめ リーフレットの印刷と配 市 成果報告会を兼ねたセ ごナーの開催	
1月		第8回WG 検討会 環境学習の教材開発 N 雲境学習の教材開発 N 実行結果を評価し、実 行した対策の有効性を 評価する(1回を予定)	第8回MG 検討会環境学習の教材開発	第8回WG 検討会環境学習の教材開発	第8回統括幹事会 各WGへの検討事項指 示、 一般を 一般を のか。 最終報告書のまとめ 最終報告書のまとめ	第4回連絡調整会議 (1月下旬) 最終報告書案のとりま とめ
12月		第7回WG 検討会環境学習の教材開発	第7回WG 核討会 環境学習指導者研修 会を実施	第7回WG 検討会 企業の環境教育現場 における環境教育新 拠点の検討(1回)	第7回統括幹事会 各WGへの検討事項 指示、 相次報告のとりまと の、 環境学習指導者リスト の構築作業のまとめ	
11月	第2回連絡会(広島)	第5回WG 検討会 アクトビレッジオ시こお ドろ環境学習の実行 計画を実践する(1回 を予定)	第6回WG 検討会 リサイクルブラザにお ける環境学習の実施 (1回を予定)		第6回統括幹事会 各WGへの検討事項 指示、 日次報告のとりまと め、 環境学習指導者研修 会を実施 環境学習指導者リス の構築作業続行	第3回連絡調整会議 (11月下旬) 成果に対する中間評価 価 外部有識者の招聘
10月		第5回WG 検討会 アクトピレッジオ/にお げる視察内容に対し、 持続との親氏で考え、 問題を見抜き、問題を 明確にする(1回を予 定)	第5回WG 検討会 リサイクルプラザにお ける環境学習の実施 (1回を予定)	第5回WG 検討会検 計会校区コミュニティ センターと連携した小 学生対象の授業 (1 回を予定) 通復学習指導者研修 会を実施	第5回統括幹事会 各WGへの検討事項指示、 示、 目次報告のとりまと め、 環境学習指導者リスト の構築作業開始	
日6		第4回WG 検討会 アクトビレッジオノにお ける環境学習の実施 (1回を予定)	第4回WG 検討会 リサイクルプラザにお ける環境学習の実施 (1回を予定)	第4回WG 検討会検 討会校区コミュニティ センターと連携した中 学生対象の授業 (1 回を予定)		第2回連絡調整会議 (9月下句) 事業実施状況の中間 とりまとめと、今後の 見通し、修正すべき点 などの審議
日8		第3回MG 核討会 環境学習指導者研修 会を実施	第3回WG 検討会リサイクルブラザにおける 環境学習の実施(1回 を予定)	第3回WG 検討会検討 会校区コミュニティセン ター、小中学校と連携 した出前授業 (1回を 予定)	第3回統括幹事会 各WGへの検討事項指 デ、 所、報告のとりまとめ、 環境学習指導者の データベース構築準備	
7月		第2回WG 検討会 アクトピレッジオ/ICお ける環境学習の実施 計画の検討	(0 15)	第2回WG 検討会 校区コミュニティセン ターと連携した出前授 業の実施計画の検討	第2回統括幹事会 各WGへの検討事項指 示、 同次報告のとりまと め、 環境学習指導者の データベース構築準備	第1回連絡調整会議 (7月下旬) 事業推進の全体枠の 検討と方針の決定
日9	第1回連絡会(キック オフ)6月14日(広島)	第1回WG 検討会	第1回MG 検討会		第1回統括幹事会各 WGへの検討事項指 示、 目次報告のとりまと め、 日程調整 日程調整	メール連絡によるプロ ジェケトの進め方の意 思疎通を図る
	協働取組加速化事業の連絡 会・勉強会・報告会の開催(予 定)	①アクトビレッジ WG活動	②リサイクルプラ ザ WG活動	③地域ふれあい センターWG活動	統括幹事会主導 の活動	連絡調整会議
	協働取組7 会·勉強会		対外的な活動	ī	衣氏名女	

### (1)事業の全体構成 中期計画シート(概要版)

事業名:こども達の生きる力を育むための地域教育向上プロジェクト~新たな宇部方式の構築

環境学習の現場でESDの視点からの教育プログラムが十分に展開さ いていない。地域によって学校と地域の連携に温度差があり、総じて学 を支援する環境学習指導者が不足している。このことが教員の負担 能にも繋がっている。 ・現在表面化している問題はなにか

・放置した場合にどのような問題が生じるか 子どもの環境学習の質の不均衡が拡大し、地域ぐるみの教育力の衰 退、ESD指導者の人材育成の停滞が生じると考えられる。

でどのような状況の達成を目指すか ·2017年度時点 2この取組

うべ環境コミュニティー理事長)

正未 (NPO法人

田

記入者:

記入日:平成29年1月20日

で具体的に何をどのように行うのか

-2017年度時点

2016年度の取り組みで明らかになった本事業の活動継続に重要 と考えられるプログラムを展開するとともに、不足していると思われるプログラムの提案を目指す。

-2018年度時

2016年度の事業展開において不足していたと思われる、ときわ公園の各施設を活用した環境教育プログラムを協働取組の下で開発する。その他の各環境学習拠点における事業は、前年度のプログラム提案を受けて、更に精緻な環境教育支援活動を実施する。一方、環境学習指導者リストを活用して、宇部市の環境教育・学習ビジョンの実現のための人材開発と人材育成を実施する。 Ш 地域教育力の向上を目指す持続的な協働取組体制の確立を

·2018年度時点

教育委員会・各小中学校との協働の下、校区の歴史・環境を取り入れたそれぞれの校区に特有の環境教育のための教材の開発を行うと共に、民間の環境学習指導者が協力できる体制を確実なものとする。また、産官学民の協働取組体制を確実なものとするために、これまでの緩やかな環境団体連合体である「連絡調整会議」を、行政と民間団体・小中学校・企業が密接な連携体制を取れる組織(環境教育うべ協議会(仮称))に改編することを検討し、その設立の準備を行う。 9。 産官学民の協働取組体制を確実なものとするために、初年度~2 年次における組織の緩やかな連合体である「連絡調整会議」を、行 政と民間団体・小中学校・企業が密接な連携体制を取れる組織(環 遺教育うべ協議会(仮称))に改編し、その活動を推進することを目 指す。 ₽

-2019年度時点

持続可能な協議会運営体制の下で、地域教育力の向上のための 持続的な協働取組の実施と成果の蓄積を目指す。

・2019年度時点 持続可能な環境学習推進体制の下で、各環境学習拠点における持続可能な子 供たちの環境教育を充実させる。これまでの環境学習プログラム展開の有効性を 検証しつつ、有効な方策を政策に反映させる。

各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か ⑤3年後にステークホルダーとの関係性はどのようなもの変化しているとよい。 か

一方、行政は宇部市の環境教育・学習ビジョンの具体的な施策の提案と実施を |指している。 民間の環境団体はそれぞれの分野の活動を活性化しようとしている。 四指

教育委員会・小中学校は、環境教育・アクティブラーニングの充実などに関して 民間活力との恊働を目指している。

地域の企業は、環境教育を通して子供たちが将来、地元の企業に就職して活躍 ノてくれることを期待している。

共通ニーズとして、環境教育の協働取組を推進する必要性を各ステークホル ダーが認識し、実行することで、環境教育に関する全体の活力を向上させると期

宇部市環境学習三拠点 女 ときわ公園 女 アクトビレッジおの 女 宇部市まちなか 環境学習館 環境関連団体 3年後のステークホルダーとの関係 民間 参画団体 宇部市 環境教育 区ふれあいセンター 小中学校 宇部地区環境 保全協議会 宇部地区 企業

放課後 こども教室など

小中学校

教育委員会

中部中

校区ふれあい センターWG A.C.H.I.K

154 リサイクルナ WG A.D.E.H

アクトビレッジおの 

77.7. #18

環境字習館

なようどう中雅存

G 宇部市地球温暖化対策ネットワーク E 手線を上の形式学 機構学部の会会 G 生物を植物に接回 F 摩地に 職職後金織指令 K 上字部の れあい だンター

⑦この取組を進める上での課題は何か ・ ESDに関する優れたプログラムを提案し、このプログラムを展開する ことが第1の課題である。

上記の展開において必要不可欠な環境学習指導者の確保とレベル

アップが第2の課題である。 ・地域教育力の向上を目指す持続的な協働取組体制を確立すること が、第3の課題である。

(8)この取組を進める上で課題にどのように対応するか ・ 第1の課題については、2016年度の協働取組においても種々のプログラ ム提案と展開が実施されているところであるが、更に精緻なプログラム提案 と展開を実現する。

第3の課題については、現状の緩やかな結合による連絡調整会議の活動 影績を基にして、産官学民がより密接・強固な環境教育の活動を可能とする 環境教育うべ協議会(仮称)」を設立することが、持続的な環境教育の実践 を継続するためのポイントである。 実績を基

③この取組をどのように継続させるか 「環境教育うぐ協議会(仮称)」の事務局体制を確立する。構成メンバーは、現在 の統括幹事会メンバー程度とする。 この協議会が中校となって、環境教育プログラムの展開を実現するが、具体的な現場でのプログラムの実行は、各参画団体が担当する。行政からのメンバーを含む約10名程度の協議会はステアリングコミッティーの役割を分担し、現場でのプログラム実施は約40名の環境教育指導者(各環境関連団体からの委員)が分 担する方式とする。 ・第2の課題については、2016年度に取りまとめた環境学習指導者リストを基にして、指導者層の拡大を図るとともに、研修などにより常に人材のレベルアップを目指す。

付63

**統括幹事会** 宇部市 + 教育委員会

④今年度末時点のステークホルダーとの関係性はどのようなものか

本プロジェクトにおける協働取組の現状

	2017年度の重点目標・事業内容			2018年度の重点	目標 事業内容		201	2019年度の重点目標・事業内容	内容	
(本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)	(重点目標) 事業実績を蓄積するとともに、協働取組の体制を強化 し、今後の持続的な活動の基盤を作るための組織の検 討を行う。 (事業内容) な、ときわ公園の各施設(ときわミュージアム、動物園、モ れ ンスタ、次世代エネルギーパークなどの施設)を活用した 環境教育プログラムを協働取組の下で開発する。 なアケトビレッジおの・リサイクルプラザにおける環境教育な なアケトビレッジおの・リサイクルプラザにおける環境教育な 支援活動を実施し、教材開発・協働取組の成果に基づく 教育プログラムを提案する。 な企業サイトにおける産官学民の協力体制を確立して、 教育プログラムを提案する。 な企業サイトにおける産官学民の協力体制を確立して、 教育場場を対して表する。 なった業サイトにおける産官学民の協力体制を確立して、 なった業サイトにおける産官学民の協力体制を確立して、 なった業サイトにおける産官学民の協力体制を確立して、 なった業サイトにおけるを自体の協議を を見会、各学校に提案する。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままが、まます。 は数の新規教材、工場見学プログラムを試行の上、教育 をは、当時である。 なって、ままする。 なって、ままする。 ないまする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なった。ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 はって、ままする。 はって、ままする。 なって、ままする。 は、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 はって、ままする。 なって、ままする。 はって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままする。 なって、ままなな。 なった。 なって、まななななななななななななななななななななななななななななななななななな	本制を強化 の組織の検 ム、動物園、モ は7を活用した 5する。 は1・る環境教育 成果に基づく 1を確立して、 行の上、教育 5の上、教育 5の上、教育 1にするととも の組織の検	(重点目標) 持続可能な環境教育体制の の設置と運営) 各環境教育拠点における環 (事業内容)な ときわ公園 れあいセンター リサイクルフ における子供たちの環境教育 況にする。 な 教育委員会・各小中学材 環境を取り入れたそれぞれの ための教材の開発を行う。 な アクティブラーニングの算者が協力できる体制を確実れ	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(重点目標) 持続可能な環境教育体制の確立(環境教育宇部協議会 の設置と運営) 各環境教育拠点における環境教育の協働取組の深化 (事業内容)な ときわ公園 アクトビレッジおの 校区ふ れあいセンター リサイクルプラザ 企業の教育拠点など における子供たちの環境教育を充実させ、持続可能な状 況にする。 な 教育委員会・各小中学校との協働の下、校区の歴史 環境を取り入れたそれぞれの校区に特有の環境教育の ための教材の開発を行う。 な アクティブラーニングの実施に民間の環境学習指導 者が協力できる体制を確実なものとする。		(重点目標) 持続可能な環境教育体制の運営と、事業実績の蓄積 (事業内容) な各環境学習拠点における持続可能な子供たちの環境教育を充実させる。 な地域の特色を取り入れた多様な環境教育のための教材の開発を行う と共に、アクティブラーニングの実施を推進する。また、提案・実施した教育システムの検証を行う。	1の運営と、事業実績 ・る持続可能な子供た た多様な環境教育の ・グの実施を推進する	<ul><li> の蓄積</li><li> とちの環境教育</li><li> ひための教材の</li><li> る。また、提案</li></ul>	が
行動計画	2017.     4月~   7月~	2017年度  10月~	1月~	. 4月~	2018年) 7月~   10	年度 10月~	1月~ 4月~	2019年度  7月~ 2019年	度 月~ 1	~ 世
連絡調整会議 (2018年度から				 連絡調整会議(2018年	  年度からは環境教育うべ協議会)の運営(年4回	ラベ協議会)の運	営(年4回)			1
は環境教育うべ 協議会)										
環境教育拠点における環境教育		ときわ公園 アクト	ドアッツおの 核	区ふれあいセンター	リサイクルプラザ	企業の教育拠点	企業の教育拠点などにおける子供たちの環境教育	育(年12回)		1
各環境教育拠点 におけるシンポ ジウム・セミナー	各拠点でのセミナー	-など計画 ・ 実施(年10回)	年10	各拠	!点でのセミナーなど   回)	など計画 ・ 実施(年10回)		各拠点でのセミナーなど計画 回)	画・実施(年10	
環境学習指導研	田田の場合の計画・	・実施(年5回)			研修会の計画・	実施(年5回)		・ 単一の参奏の計画・ 美	実施(年5回)	
1		<b>&gt;</b>						<b> </b>	}	
教育プログラム の提言		教育プログ	ラムの提言		茶	教育プログラムの提言と検証	言と検証		教育プログラムの提言。	と検証
							H 28 中期計画)	ニティー(	NFC 法人うべ 環境コミュ	NTO 法人s
							8	· - ·		

# 記入フォーム①事業の全体構成 協働取組カレンダ

# 記入日: 平成28年8月12日 松山市北条地域の生物多様性を支える~人材の育成と農地保全・交流 計口

この取組が

現在表面化している問題はなにか

・絶滅が心配される生き物を掲載する愛媛県レッドデータブック2014年版において、里地の劣化が要因とされる身近な動植物のリストアップが顕著となり、松山市においては、豊かな里地が維持されている北条地域の生物多様性の保全が急務である。

・平成27年9月に松山市北条地域生物多様性地域連携保全活動計画が 発効したが、住民への周知はこれからであり、同地域の生物多様性の豊 た産物・郷土料理、里地の景観が引き継がれているが、その魅力があま リ知られておらず、発信力に課題がある。 北条地域は人と自然との関わりが豊かで、生物多様性の恵みをいかし かさへのさらなる認知度の向上と保全の機運醸成が必要である。

②この取組でどのような状況の達成を目指すか 「人の暮らしと自然との関わりが豊か」という北条地域の魅力の発信1 でどのような状況の達成を目指す

が維持され、生物多様性が保全される。 ●北条地域が松山市民にとって、豊穣の地・実りの地であるイメージが

よって、交流人口の増加や産業振興が促され、そのことが里地・農地の保全につながり、生物多様性が保全される。そのことがさらに北条地域の魅力を増加させるという、プラスのスパイラルをつくる。スパイラルが機能することによって、次の状態を実現する。 ●北条地域における、人と自然との豊かな関わりが残る多様な自然環境

①「風早生きもんDAYS」の実施 北条地域の小学生をはじめとする住民が身近な生きものに興味を持つことを目的に、夏休みの3日間開催。立岩川の生き物観察、トンボの観察会、セミの抜け殻探しなど野外の活動、セミ、トンボ、里地の生きものについての講座を行う。市地域連携保全活動計画、地元の自然観察

黑河由住

記入者: NPO 森からつづく道 事務局長

をどのように行うの

1)トコロジストの育成

や保全の活動を行う団体の活動紹介の展示、ゲームや生き物に関する質問受付を併催。

 ○生き物一斉調査(秋~冬)の実施 地元の小学生に参加してもらい、里地の指標的な生き物5~6件の初見日や見つけた場所を報告してもらい、生き物マップを作成して、ふるさと館などに展示。
 ③ふるメアの自発を問むとの表現のできます。 醸成され、日常的に同地域の生産物を購入したり、自然に親しむための 来訪者が増える。

●将来的に新規就農・農業従事者が増え、離農が食い止められる。

③ふるさとの自然観察金を立岩、浅海、正岡地区で各1回実施。(2)北条の魅力体感エコツアーの実施 鹿島の自然観察十北条地区のまちあるきツアーおよび、一茶の道やチリメン工場などを訪問するバスツアーを企画・実

循環型農業見学ッア<u>一の実施</u> 昨年の見学ッアーを、主に農業大学校や農 業高校から参加者を募って2回実施する。 (4)情報発信拠点の具体化、ふるさと館などで、北条地域の生き物や生物多様性の恵みの常設展示ができないか具体的に検討する。

⑤事業終了時にステークホルダーとの関係性はどのようなもの変化しているとよいか

į

| | |

Ī

4)事業開始時のステークホルダーとの関係性はどのようなものか

坂の上の雲まちづく

環境モデル都 市推進課

松山市農林水産課

リチーム

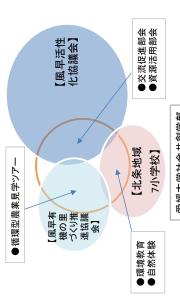
北条地区まちづくり協議会

コンソーシアム

機調

森からつづく 道

校



(4)(株)ロイヤルアイゼン:循環型農業の推進、認知度の向上 (5)北条ふるさと館:館におけるにぎわいの創造 (6)風早活性化協議会:北条地域の魅力の発信、交流人口の増加、産

(1) 愛媛大学社会共創学部:学生のフィールドワークの場の確保

(2) 松山市環境モデル都市推進課:地域連携保全活動計画の推進

⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か 共通のニーズ:北条地域の魅力の発信、訪問者の増加 個別のニーズ:

(3) 北条地区まちづくり協議会:北条地区への訪問者の増加 (1) 森からつづく道:北条地域の里地の生物多様性の保全

愛媛大学社会共創学部

٦

【風早活性化協議会】

愛媛大学社 会共創学部

北条ふるさと 館

(株)ロイケブ アイガン

·OCファームなど 北条地域農家

・(株)レジ

【風早有機の里づくり推進 議会】

⑦この取組を進める上での課題は何か (1)各事業の企画運営において、地元の人・組織の役割を増やしていく

(3)各事業の参加者の募集とともに、実施した内容や成果に関する情報 こと。 (2) 北条地域の7つの小学校との連携をどのように進めていくとよいか。 の発信が難しい

(1)(3)北条地域の企業人やまちづくり協議会が構成員であり、松山市坂 の上の雲まちづくりチーム(坂雲チーム)が事務局を担っている「風早活 ユン・・・・・ コンベラ・ーム)が事務局を担っている「風早活」性化協議会」との連携を視野に、情報の共有を図る。イベント告知の情報発信については、協議会のHPでの発信が可能との回答を告書ま 8この取組を進める上で課題にどのように対応するか

(1) 監視コンソーシアムの連絡会では、当事業全体の企画および進捗の共有、実施報告を行うが、各事業ごとに部会を設け、関係者が役割分担と企画の詳細について提案したり意見交換できる体制をつくる。(2)特にトコロジスト育成の事業においては、小学生に多数参加してもらうために、市教育委員会の理科主任のアドバイスを得る。また、北条地域の元小学校校長の協力を得て、各小学校の自然や環境への取組や担当の先生に関する情報を収集した上で、担当の先生を訪問して企画を検討する。

報発信については、協議会のHPでの発信が可能との回答を切雲チーム 風早活性化協議会との協議の材料とする。 から得ている。実施後の報告を協議会のメンバーと共有することを検討 ・風早活性化協議会の活動状況を聴収し、当事業との接点を確認する。する。また坂雲チームの職員がイベント実施のサポート・参加に積極的で重なる部分については、当事業の実施内容を今後の活動計画に反映しある。また坂雲チームの職員がイベント実施のサポート・参加に積極的で重なる部分については、当事業の実施内容を今後の活動計画に反映しある。 ・森からつづく道が継続して提供できる、自然観察や調査、環境教育に

この取組をどのように継続させるか

・各事業の関係者には、参加者のアンケート集計を提供し、今後の企画 関する内容を、風早活性化協議会に提案し、恊働加速化事業終了後 に、協議会が実施する事業との連携を図る。 や情報発信の参考にしてもらう。

事業について知ってもらい、本年度が同部の初年度であるが、将来的に ・愛媛大学社会共創学部(特に地域資源マネジメント学科)の教員に当 北条地域が学生のフィールドワークの地域になるように、情報を提供し て働きかけを行う

NPO森からつづく道(H 28協働カレンダー)

`
=
I,
ĬΤ
<i>"</i> /
1
K
挑
빠
(N)
<u>J</u>
ľ
╁
Ü
人
낊
1111111
X
Y
7
力
緃
紐
重
驾
<del>+-`</del>

/	協働軍 海絡多		衣术名	な活動				対内的な活動	ì	
	協働取組加速化事業の 連絡会・勉強会・報告会 の開催(予定)	活動(1)トコロジ スト育成	活動(2)エコツ アーの実施	活動(3)循環型 農業見学ツアー の実施	活動(4)情報発 信拠点の検討	豊穣コンソーシアム連絡会の開催	活動(1)トコロジ スト育成	活動(2)エコツ アーの実施	活動(3)循環型 農業見学ッアー の実施	活動(4)情報発 信拠点の検討
旨9	24日第1回連絡会(高 松)						①生きもんDAYS 会場確保、講演体類 確保、講演体類 団体/組織への参加呼 びかけ、協力依額			
НZ						12日or13日第1回/事業 内容説明、進め方確認	③ふるさとの自然観察会 /立岩地区下見 	- エコッアーのルード(実 施内容)、時期、広報手 段について検討	・循環型農業見学ップー における農業体験の検 討、時期、広報手段につ いて検討	
日8		①19~21日鳳早生きも ADAYS ③19日ふるさとの自然観 察会/立岩地区			<b>意見交換会</b>		①生きもんDAYS当日役 ③ふるさとの目 割分担の検討 / 浅海地区下手 - 斉調査学校と協議、調査ツール作成			意見交換会で出された 内容を、風早活性化協 議会と環境モデル都市 推進課へ報告
旨6	第2回連絡会?						<b>紫</b> 灬	・第1回エコツア一詳細確定		
10月		③ふるさとの自然観察会 /浅海地区 ▲					③ふるさとの自然観察会/正岡地区下見	- 第1回エコンアー参加者 募集		
11月		<ul><li>③ふるさとの自然観察会 / 正岡地区</li><li>②生き物一斉調査</li></ul>	第1回北条の魅力体感エコッアー			第2回/進捗共有、進め方改善		矬	・第1・2回見学ツアー詳細確定	
12月	第3回連絡会?	1						TMT	・第1回見学ツアー参加者募集	
1月			第2回北条の魅力体感エコツアー	第1回循環型農業見学ツアー			②生き物一斉調査結果 より生き物マップ作製	- 第2回エコツアーアン ケート集計、共有、関係 者振り返り	・第1回見学ツアーアン ケート集計、共有、関係 者振り返り ・第2回見学ツアー参加 者募集	
2月	ギャザリング	← ②生き物一斉調		第2回循環型農業見学ツアー アー					<ul><li>第2回見学ツアーアンケード集計、共有、関係者振り返り</li></ul>	
旨8		————————————————————————————————————				第3回/実施報告、成果・改善・公果・改善・公産品共有、今後の展開検討				<b>鳳早活性化協議会と環境モデル都市推進課と協議</b> 協議

# (1)事業の全体構成 中期計画シート(概要版)

# 記入者: NPO 森からつづく道 事務局長 Ш 記入日:平成29年2月6 松山市北条地域の生物多様性を支える~人材の育成と農地保全・交流人口拡大プロ 事業名:

黒河由佳

在表面化している問題はなにか

な動植物のリストアップが顕著となっている。松山市北条地域には、オオキトンボ(環境省絶滅危惧1B類)をはじめとする、豊かな生物多様性が残存しているが、農業従事者の減少・耕作放棄の増加・農地の改修などにより、里地の環境 愛媛県レッドデータブック2014年版において、里地の劣化が要因とされる身近

の劣化が懸念される。 ・平成27年9月に松山市北条地域生物多様性地域連携保全活動計画が発効し たが、市民への周知の機会は限られ、同地域の生物多様性の豊かさへの認知

度が地域内外でまだまだ低い。 ・北条地域は人と自然との関わりが豊かで、生物多様性の恵みをいかした産 物・郷土料理、里地の景観が引き継がれているが、その魅力が地域外に知られ ておらず、発信力に課題がある。

<u>放置した場合にどのような問題が生じるか</u> ・北条地域の住民が豊かな生物多様性に誇りを持つことなく、在来生物相・生 物多様性が衰退し、それに伴って伝統的産物や食文化が衰退してしまう。

④今年度末時点のステークホルダーとの関係性はどのようなもの

風早生きもんDAYS

# 2017年度時点

が生育する環境の維持に農業が寄与していることを説明する勉強会を開催。 ・風早活性化協議会の構成員となり、里山の保全を行っている地元の団体などと協働して、里山の目標観察会、食文化を含めたエコップー、循環型農業見学ツアーを企画検討し、実施する。 +128年度に実施した「風生さもんDAVS」(生き物の生態を学う物強会、観察会、自然素材のウラフトづくりなど)を北条児童館において地元の団体の参画を得て継続実施する。 「オナキトンボの里づくリプロジェクト」(オオキトンボPJ)を立ち上げ、オオキトンボの生態と里地の生き物の生息に寄与する環境を調査する体制と、地元農業従事者の関係が構築される。 地名地域の「人の華らレビ自然との関わりが豊か」であることを体配でも高機会「自然観察会・エコッテー・循環型農業見学ツアーなど)づくりが総続され、地域内外の参加者を得る。 同地域の子供が生き物に関心を持つためのイベンド「風早いきもんDAYS」(H28年度に第1回を実施) の開催を児童館と企画・実施する。

2018年度時点 ・オオキトンボPJの推進によって、北条地域の里地の生物多様性の豊かさが地域内外に認知され、PJ ・自然に記って、このでは、自身を主もんDAYS」の運営において、地元の担い手が定着し、親子連れるにひとする参加者層が広がる。
・同地域の循環型農業への関心が高まり、高校・大学との連携が生まれる。 の関係者が増加する。

2018年度時点

・オオキトンボPuを推進し、調査データの蓄積を図る。オオキトンボのモニタリングを担う地元住民 を確保するために、観察そや調査手法の勉強を舒催する。 ・里山の自然観察会・エコップーの実施については、地域のまちづくり協議会にも働きかけ、実施 の定着化と地域における運営の担い手を拡充を図る。循環型農業の発信については、愛大農学

・オオキトンボPJを継続。保全活動計画検討委員会を組織し、保全計画を策定する。 ・里山の自然観察会・エコツアー・「風早生きもんDYAS」を定着させ、認知度を上げる。循環型農業の実践に愛大農学部が参加する。

・「風早生きもんDYAS」を継続実施し、認知度を上げる。

部と連携を模索する。

2019年度時点

### 2019年度時点

・オオキレンボの保全に対する機運が高まり、保全活動計画が策定される。 指機競乗やイエコツア、「属年生きんDAYS」が定着し、豊かな自然の恵みを楽しめる地域というイメージが職成され、交流人口が増加する。 ・循環型農業の認知度が高まり、リサイクルループに参加する企業・農家・学校が増える。

# ⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か 共通のニーズ ⑤3年後にステークホルダーとの関係性はどのようなもの変化しているとよい か

北条地域の魅力「人の暮らしと自然との関わりが豊かである」ことの発信、交流 人口の増加

- <u>個別のニーズ</u> (1) NPO森からつづく道:北条地域の里地の生物多様性の保全
- (2)松山市環境モデル都市推進課・地域連携保全活動計画の推進

ため急管理者を地元最業後事者

イオキトンボの 聞づくり broject

**具早生きもん**DAYS

大衆名称の 新聞画件

被山市線の上の職 まちがソテーム 化条格関款も 位置を 位置を

- 10にコ

製造原生物学集 和センケー 関

表に市団体大学

様からしんく道

国界社舗の国ムベッ 名法物語会 具甲活性化物糖金

国際小学校 国際小学校 原典小学校

トンポ王蘭(南万 日本トンポ学会 十市) 日本野島の会長 機 機

は最子学校

権職型職業の推議・学習権会の提供

**4-42**00(**#**) 秦 72

- (3)風早活性化協議会:北条地域の魅力の発信、交流人口の増加、産業振興(4)風早有機の里づくり推進協議会:食品残渣リサイクルループの拡充、認知 度向上

- (5)松山市北条児童館: 子どもへの自然体験の提供(6)地元農業従事者: 安定的な農業経営、後継者の確保(7)愛媛大学昆虫学研究室・生態学研究室: 研究材料・フィールドの確保(8)愛媛県生物多様性センター: 希少生物・里地の在来生物の保全(8)愛媛県農地整備課: 松山市農林水産課: 農地・ため池の適正な整備: 維持
  - (10)愛媛大学農学部・社会共創学部:課題解決・フィールドワークの機会

# ③この取組を進める上で課題にどのように対応するか

(1) 里地はまず農作物生産の場であることを前提に、これまでの農作業が生き物の 生息環境の維持に寄与していることを地元の集まりに参加させてもらう形で説明す る。オオキトンボの産卵や羽化など、興味を高めてもらいやすいタイミングで観察会を・当団体が、「風早活性化協議会」(事務局:松山市坂の上の雲まちづくりチー行う。学校や地元団体に協力を依頼し、子供の参加を促して親に同行してもらうな だいさな機会づくりを重ねて接点を増やしていくよう取り組む。 (2) H27・28年度の活動を通し、北条地区まちづくり協議会や地元の里山保全の団体・「風早生きもんDAYS」については、北条児童館で実施し、同館の行事として と交流できたことを活かし、イベント等の企画段階から相談し、各組織の得意分野で負担感なく活動してもらえるよう、提案を行う。また、振り返りを関係者で行い、次回

代以上に偏るため、フェイスブックなどSNSでの発信を開始する。また、地元の若手 (4)地元新聞社の担当記者にイベント開催時には充分な情報を提供し、取材の件数 (3)市の広報紙に掲載してイベント等の参加者募集を行ってきたが、参加者層が50 経営者などとの関係を深め、その関係者への発信を行ってもら への意欲を高める。

を軸をしていく

## ⑨この取組をどのように継続させるか

授に当事業について知ってもらい、将来的に北条地域が学生のフィールドワー ・愛媛大学社会共創学部(特に地域資源マネジメント学科)および農学部の教 継続を検討する。

クの地域になるように、情報を提供して働きかけを行う。

### **士き物 一斉闘**3 立指小学技术条件 展別小学校 Ö 循環型農業見学ツア 7-4200(11) 校正市職林大學職 (素) なび

# この取組を進める上での課題は何か

- (1)オオキトンポなど里地の生き物に対する地元住民の関心の向上。(2)各事業の企画運営において、地元住民・組織の積極的な参画を促し、役割 を増やしていくこと。
  - (3)各事業の参加者の募集における、広報手段の充実。 (4)実施した内容や成果に関する情報の発信。

生だいこん保存金

\*#+

第日1月(業)

H コップー

大田職(北京館めた)

日本野島の会えびめ

具甲塔在化物整金

版) ②事業スケジュール
·(概要版)
中期半回シート

	人口が増加する。 ・農家・学校が増 ・農家・学校が増 明会(シンポジウ 引。		1月~	4					川実験
票事業内容	【重点目標】 ・オオキトンボの保全活動計画の策定。 ・自然観察会やエコツアー、「風早生きもんDAYS」が定着し、交流人口が増加する。 ・・自然観察会やエコツアー、「風早生きもんDAYS」が定着し、交流人口が増加する。 ・・循環型農業の認知度が高まり、リサイクルループに参加する企業・農家・学校が増える。 【事業内容】 ・オオキトンボアリによる調査の継続。 ・オオキトンボの保全計画検討委員会を組織して計画を策定し、説明会(シンポジウム)を実施。 ・里山の観察会・エコツアー・「風早生きもんDYAS」の継続実施。 ・里山の観察会・エコツアー・「風早生きもんDYAS」の継続実施。 ・要大農学部がリサイクルループで製造された有機肥料を実験使用。	2019年度	10月~			野・		計画・実施	有機肥料の利用
2019年度の重点目標	画の策定。  風早生きもんDAN まり、リサイクルル・ の継続。  計委員会を組織し  風早生きもんDY  一プで製造された!		7月~				委員会組織 計画策定	エコツー・観察会の計画 生きもんDAYS計画・実	
20	票】 ンボの保全活動計 終会やエコツアー、 農業の認知度が高記 ながアンによる調査 ンボアンによる調査 し。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		4月~	計画修			 計画・ ・	生きもんD	
			1月~						
7/-	【重点目標】 ・オオキトンボPJの展開によって、地元関係者が増加する。 ・自然観察会やエコツアー、「風早生きもんDAYS」に親子連れをは じめとする参加者層が広がる。 ・同地域の循環型農業への関心が高まり、高校・大学との連携が生 まれる。 【事業内容】 ・オオキトンボPJIこよる調査の継続。 ・地元住民を対象にした観察会や調査手法の勉強会の開催。 ・や地区のまちづくり協議会などとの連携による里山の観察会・エコッアーの実施。 ・愛大農学部の授業の一環として循環型農業の見学ツアーの実施。 ・優地区のおよびの協議会などの連携による里山の観察会・エコップーの実施。 ・個国具生きもんDYAS」の継続実施。	2018年度	10月~		態•環境調査			回・実施	愛大とツアー」
点目標·事業内容	て、地元関係者が増加する。 早生きもんDAYS」に親子連れを はききもんDAYS」に親子連れを が高まり、高校・大学との連携か を調査手法の勉強会の開催。 で加達携による里山の観察会・コ て循環型農業の見学ツアーの実 実施。	201	7月~		オオキトンボの生態	無 程		1ツー・観察会の計画	
2018年度の重	【重点目標】 ・オオキトンボPJの展開によって、地・自然観察会やエコツアー、「風早生でかとする参加者層が広がる。 ・同地域の循環型農業への関心が高まれる。 ・オオキトンボPJIこよる調査の継続。・サガキトンボPJIこよる調査の継続。・地元住民を対象にした観察会や調子・カアーの実施。・愛大農学部の授業の一環として循致施。・「風早生きもんDYAS」の継続実施。・「風早生きもんDYAS」の継続実施。		4月~	計画修正				エコツ 生きもんDAYS言	
	「重点目標】・オオキンボPJの展開によって・オオキトンボPJの展開によって・自然観察会やエコツアー、「風にめとする参加者層が広がる。 「あとする参加者層が広がる。 ・同地域の循環型農業への関心まれる。 「事業内容】・オオキトンボPJによる調査の編・地元住民を対象にした観察会なジャーの実施・サアーの実施・受力の実施・受力を提供部の授業の一環とし、施。		1月~						
		生睡	10月~				4	実施	農業見学ツアー企
3標·事業内容	物の生息に寄与 でプェクトの目的 り関わりが豊か」 アーなど)づくりが キつためのイベン キっためのイベン はの調査計画を 上が大キドンオ に間の調査計画を は活史の調査を が、単加の保全を が、無額察会、食文 が、無額察会、食文 が、種類をで、食文 に回検討し、実 に回検討し、実	2017年	7月~			東海		察会の計画・	循環型
2017年度の重点目標・事業内容	「重点目標】 ・オオキンボの生態と里地の生き物の生息に寄与する環境について、3年間の調査計画を策定する。 ・地元農業従事者にオオキトンボブロジェクトの目的・概要について理解を求め、関心を高めてもらう。 ・北条地域の「人の暮らしと自然との関わりが豊か」であることを体感できる機会(自然観察会・エコツアーなど)づくりが継続され、地域内外の参加者を得る。 ・同地域の子供が生き物に関心を持つためのイベントを実施する。 「有オキトンボの里づくりプロジェクト」(オオキトンボPU)を立ち上げ、各分野の生き物の専門家と3年間の調査計画を策定。・生息するため池の環境・トンボの生活史の調査を実施。・地元住民に、オオキトンボが生育する環境の維持に農業が寄与していることを説明する勉強会を実施。・地元住民に、オオキトンボが生育する環境の維持に農業が寄与していることを説明する勉強会を実施。・風早活性化協議会の構成員となり、里山の保容を行っている地元の団体などと協働して、里山の自然観察会、食文化を含めたエコツアー、循環型農業見学ツアーを企画検討し、実施する。・「風早生きもんDAYS」(生き物の生態を学ぶ勉強会、観察会、自然素材のクラフトづくりなど)を北条児童館において地元の団体の参画を得て継続実施する。		4月~ 7	調査計画策				エコツー・観察 	
	【重点目標】 ・オオキレボの生態と里対いて、3年間の調査計画をいて、3年間の調査計画を・・地元農業従事者にオオオ理解を求め、関心を高めて・北条地域の「人の事うしと懸できる機会(自然観察会・同地域の子供が生き物に「オキトンボの里づくり」で、イオキトンボの田のに、オオキトンボでも高速を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発を開発して、コンアー、循環型農業見学・「風早生きもんDAYS」(4然素材のクラフトづくりなど参画を得て継続実施する。	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	7. 如計画		オオキトンボの 生態と環境調査	【オオキトンボP リ】 住民説明会 ・勉強会	【オオキトンボP リ】 保全活動計画策 定	自然・文化に触れる機会づくり	循環型農業の推 進

沿
構成
体構
争
_
業の
粣
빠
$\odot$
<u>J</u>
ı'
╁
ņ
Ż
記
шп
1
Ķ
3
3
펀
逆
汉
計
量
玩

ント・記入ノオームシャネ		
事業名: 伊島の宝:ササユリの保全活動からはじめる、自然の恵みを活かした持続域づくりプロジェクト	可能な地 記入日:平成28年6月27日	記入者: KITT事務局 飯山直樹
<u> </u>	②この取組でどのような状況の達成を目指すか	③この取組で具体的に何をどのように行うのか
(1)ササュリ保護活動が停滞することで、関連した産業や保護の歴史が 停滞し、地域の資源と活気が失われる (2)活動が継続できないだけでなく、活動によってつながっている島民と 中学校等のネットワークが切れ地域コミュニティーが崩壊していく 協働が拡加	(1)協働で進めるササュリ保護が、地域の資源としての見直しと活動の継 続につながり、観光や産業の活性化に活用される (2)協働の取り組み、仕組み、ノウハウ、人的なネットワークが維持され、 協働が拡大していく	<ul><li>(1)ササコリだけでなく、伊島の地域資源を生態系サービスとして認識し、 観光や産業に活用するきっかけ作りを行う。具体的には聞き取りや参加 型調査を実施し、プロセスや結果を共有する</li><li>(2)協働を実践することで事務局を中心にノウハウを積み、モデル的活動</li></ul>
国 り	(働の仕組みが継続し、中・長期視点に基づいた目計画が実行される) 計画が実行される され共有されることで協働の取り組みを進める軸にな	として、水平展開し協働を拡大する (3)生態系保全を意識した中・長期目標を設定し、計画を策定する (4)保護方法を確実に記録し、協働の拡大、外部ボランティアの導入を試みて、地域外から保護の担い手を取り込む
(1)協働の参加者および保護活動の担い手が少なく、コミュニケーション (1)協働参加者も少ない (2)保護の目標の共有ができているが、具体的な方法や協働関係者間の (2)ステークホ (2)保護の目標の共有ができているが、具体的な方法や協働関係者間の (2)ステークホ (2)保護の目標の共有ができているが、具体的な方法や協働関係者間の (2)ステークホ (4)金銭 (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4)	にステークホルダーとの関係性はどのようなもの変化して すが、各自の立場で得意な役割を担当する ルダーと目標の共有が実現し、保護活動の組織がネット さり、継続的に自立的に協働を維持できる役割分担ができ 阿南市 会 阿南市 会 阿南市 会 阿南市 会 阿南市 会 阿南市 会 阿南市 会 阿南市	⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か 個別ニーズ (1)ステークホルダーは、夫々が人材とネットワークを必要としている ・伊島町会:地域活性化の担い手の育成 ・伊島中学校・PTA:ササュリ保全活動の発展と生徒の環境学習・伊島を人会・婦人会:地域のきずなづくり、地域活性化 ・阿南高車:伊島の生物多様性保全と協働の仕組みづくりの推進・阿南高車:伊島の生物多様性の保全と協同の仕組みづくりの推進・阿南高車:伊島の生物多様性の保全、阿南市域への拡大・NTT:伊島及び蒲生田、椿、椿泊地区への自然保護活動の拡大・NTT:伊島及び蒲生田、椿、椿泊地区への自然保護活動の拡大・SD協働参加者、保護担い手:技術的なアドバイス、人的経済的支援(3)地域外のステークホルダー:地域内との連絡、広報 共通のニーズ (4)保護活動を継続するしくみ、協働を維持する担い手
①この取組を進める上での課題は何か ⑧この取約	③この取組を進める上で課題にどのように対応するか	⑨この取組をどのように継続させるか
(1)各ステークホルダーが保護意識はあるものの、個別の活動に終始し ている。それぞれの関係者をつなぐネットワークや調整機能が欠落して いることが課題 (2)協働の鍵となる組織の運営や技術的な課題をネットワークを活かした (2)保全活動の技術確立と中長期計画、ビジョンの共有が出来ていない ことが課題 (3)協働を継続拡大するための外部からの参加を受入る体制の未整備が(3)事務局は不足している人的資源やネットワークを外部に積極的に働き 課題		(1)本事業の取組を基盤として、自然再生協議会の設置を目指し、活動で得られた共通ニーズの機能や課題解決の方法、事務局機能や協働の方法をモデルとして記録し、他の地域資源について展開できるように、地域のなかでの協働の取り組みの拡大を行う(2)協働の方法をモデル化し、地域外でササコリ以外の地域資源の保護と活用に拡大する(3)地域内モデルでの発展、地域外モデルの拡大、市域、県域への拡大を目指す

阿南市 KITT 賞賛推進会議 ( H 28 協働カレンダー)

3, フォーラム開催 フォーラム開催 第3回協議会開催 第3回協議会 2月 日程調整・ヒア リングによる課 題抽出 保全マニュアル 作成 フォーラム準 備・広報 豆 フォーラム広報 | 日程調整・ヒア | 第2回協議会 |リング|による課 | 開催 | 題抽出 フォーラム準 備・チラシ作 成・講師依頼 第2回協議会 勉強会準備(資 勉強会準備(情 勉強会実施 材購入) 報収集、資料 作成) 12月 勉強会 フォーラム準 備・会場手配・ チラン作成・講 師依頼 対外講師準備 草刈り大会 資料作成,資材 草刈り大会購入 二月 分布調査 分布調査 ヒアリング調査 10月 (1)受付 勉強会詳細計 画 勉強会講師依 賴 ヒアリング調査 1)広報と募集 第1回協議会 開催 第1回協議会 広報準備 6 (3)ヒアリング先 | 5 アポイント (1)ヒアリング調査の 内容検討、調査方法 検討 日程調整・ヒア リングによる課 題抽出 協議会拡大事 務局会議開催 (3)ヒアリング 先アポイ ント (4)ヒアリング調査実 施 (2)調査用紙作成 8月 (1)ヒアリング先 へのアポイント 調整 (3)日程調整・ヒアリン グによる課題抽出 (2)ヒアリング計画作 成 7月 6月 協働取組加速化事業の 連絡会・勉強会・報告会 の開催(予定) ササユリ保全の ための取り組み (分布調査) ササユリ保全の ための取り組み (分布調査) ササユリ保全の ための取り組み (草刈り大会) ササユリ保全の ための取り組み (勉強会) ササユリ保全の ための取り組み (勉強会) ササユリ保全の ための取り組み (草刈り大会) 市民フォーラム 協議会の開催 市民フォーラム 女外的な活動 **女内的な** 

記入フォーム②事業スケジュール

協働取組カレンダー

### (1)事業の全体構成 期計画シート(概要版)

記入者:飯山直樹 記入日:平成29年2月5日 事業名:伊島の宝ササユリの保全活動からはじめる、自然の恵みを活かした持続可 き 其 グヘリプロシェクト

この取組がどうして必要なのか

ササユリは重要な 漁業や零細な観光が産業の島で、 資源

・現在表面化している問題はなにか

らず、保護活動が発展できない。また、活動者の高齢化が進み、活動の縮小が予想されることから、伊島におけるササユリの激減や絶滅が危惧される。 科学的情報が無いため保護方法が統一されてお 島の宝であるササユリの保護活動がされてきた · 伊

・放置した場合にどのような問題が生じるか

役割を担ってきた中学校と地域とのきずなが失われる -島の宝であり,島の文化と共にあったササユリの絶 滅は地域活性にマイナスであり、保護活動の中心的 とにもつながりかねない。

4)今年度末時点のステークホルダーとの関係性はど

事務局

のような

・ササコリの保護に関心を持つ企業や他団体と共に、保全活動や、ササコリや島の生物多様性の活用活動を実施し、プロ ジェクトごとに協働体制が拡大する -2019年度時点

-2018年度時点

強化する

・伊島が生物多様性保全と活用のモデル地域となるとともに、他地域と連携し、保全と活用のモデルを波及させる。他のホットスポット地域と連携し地域の資源管理と活用をすすめる

②この取組でどのような状況の達成を目指す

-2017年度時点

・保護マニュアルの作成やササユリの里親制度の構築のため の勉強会の実施や,下草刈りボランティア制度の構築を目指 した活動を実施し. 保護活動や伊島に関わる人を増やす -2018年度時点 ·2017年度時点 ・ササコリの保護に関わる団体を中心に、生物多様性の保全の専門的知識を持つ団体、行政などが参画した『協議体制』を

に何をどのように行うのか

3この取組で具体的|

・科学的情報蓄積のため技術者・研究者との関わりを増やすとともに、 ボランティア活動の回数を増やし、 交流人口の増加 につなげる

•2019年度時点

定地域と交流を持ち、その保全と活用について課題を整理し、 行政や市民に情報発信する ・同様な課題をもっている阿南市生物多様性ホットスポット選

⑤各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か 53年後にステークホルダーとの関係性はどのような

個別ニーズ (1)各ステークホルダーは,人材とネットワークを必要としてい

・伊島町会:地域活性化の担い手の育成 ・伊島中学校・PTA:ササユリ保全活動の発展と生徒の環境学 煕

副金長 中学校

阿南高專

阿南市

KITTの会 伊島町会

事務局

阿南市生物多様性 ホットスポット 連絡会

もの変化しているとよいか

里親WG

調查WG

保全活動 スポンサ 企業

ボレンドィア 保全活動

伊島町会

KITTの会

中学校 中学校 PTA **节内企業** 

阿南高專

阿南市

・伊島老人会・婦人会:地域の絆づくり、地域活性化・阿南市:伊島の生物多様性の保全、阿南市全体への波及・阿南工業高等専門学校:伊島の生物多様性保全と協働のし くみづくりの推進

•阿南市内の企業:地域貢献

旅行者

分業

個人

企業

専門家

・自然再生事業 ・事業経験者

・ササユリ・保全生態 専門家

/ アドバイス・外部評価

も域おこし 協力隊

タコ&サザエ

婦人会

**呆全活動ボランティア** 

新館 世 が M M に 対 は M B

椿どまり地区への自然保 ф •KITTの会:伊島および蒲生田, 護活動の拡大

**⑦この取組を進める上での課題は何か** 

(1)各ステークホルダーが保護意識はあるものの,個別の活動に終始している。それぞれの関係者をつなぐネットワークや調整機能が欠落していることが課題

ビジョンの共有がた (2)保全活動の技術確立と中長期計画, きていないことが課題 (3)協働を継続拡大するための外部からの参加を受け入れる 体制が構築されていないこと課題

③この取組をどのように継続させるか この取組を進める上で課題にどのように対応するか  $\infty$ 

(1)本事業の取り組みを基盤として、自然再生協議会の設置を目指し、活動で得られた共通ニーズ、課題解決の方法、企画調整機能や協働の方法をモデルとして記録し、他の地域資源について展開できるように、地域の中での協働の取り組み 源について展 の拡大を行う (2)協働の方法をモデル化し、計画やビジョンを共有していく。また、ササユリ以外の地域資源の保護と活用に適用拡大する

(3)事務局の強化を図り,外部からの受入体制を整備するとともに地域内モデルとしての発展,市内域,県内域へ手法の拡 大を目指す

(1)本事業の取り組みを基盤として,協働の取り組みの拡大を行うとともに事務局機能を強化し、担い手を生み出す体制を 構築していく 域外からの協力者を集め、人的・経済的に自立的な取組へ成長させる

(3)モデル化として他地域へ向けて発信するとともに、ローカルビジネスデザインや生物多様性資源活用モデルを先進地か ら学び, 伊島に適合する形で発展させる

	2017年度の重点	2017年度の重点目標・事業内容			2018年度の重点目標	目標-事業内容			2019年	2019年度の重点目標・事業内容	5業内容	
(重点目標)・ササユリの保護に関が出め知識を持つ団体、心ちる・「ササユリ保護」を核にりを持つ団体を増やすいを持つ団体を増やすい、中サコリ生育保全・「ササユリの国際を発展・ササコリのを派し、「ササコリの国際を表し、「ササコリの国際を表し、「ササコリの主義を表し、「ササコリの国際を表し、「カナーリの国際を表し、「カナーリンを関係するコリへの関心を高めるコリへの関心を高める・ファー・サーコリーの関心を高める・フォーラムを開催するコリーの関心を高める・フォーラーを表し、	(重点目標)・ササユリの保護に関わる団体を中心に、生物多様性の保全の専・ササユリの保護に関わる団体を中心に、生物多様性の保全の専門的知識を持つ団体、行政などが参画した『協議体制』を拡大・強いサコリ保護」を核に、関心を持つ団体に参加を呼び掛け、関わりを持つ団体を増やする・年2回以上協議会を開催する・年2回以上協議会を開催する・年2回以上協議会を開催する・年2回以上協議会を開催する・中サユリ分布調査』や「物強会』を実施・2016年度の目標=島内外にササユリケンを増やすを継続・サナユリの里親制度を構築するための『育苗勉強会』や『育苗方法実験』を実施・ファンを増やすのための教材」(育苗マニュアル)作成・中ナコリエリアンを増やす・ア草刈りが、・ササユリファンを増やす・企業の関わりを増やす・フォーラムを開催する・・活動の取り組みを発信し、伊島やササコリへの関心を高める	中心に、生物多株 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		(重点目標) ・ササ」リの保護に関心を持つ企業や他団体と共に、保全活動や、ササコリの保護に関心を持つ企業や他団体と共に、保全活動や、ササコリや島の生物多様性の活用活動を実施し、プロジェクトごとに様々な協働体制が構築される・生物多様性の保全と活用に関心のある地域との協働を目指す・ササコリ保護」だけでなく、「伊島活性化」に関心を持つ団体に活動を紹介し、関わりを持つ団体を増やす ・ 関わりを持つ団体を増やす ・ の間の上協議会を開催する →小目標=持続的な協議会体制の構築会場を実施 →小目標=専門家の関わりを増やす、効果的な保護方法を発力を実施 →小目標=専門家の関わりを増やす、効果的な保護方法を強調を上が超速をニュアル作成(改訂)のための『運営方法の検討』や『勉強会験を記事が、一・サーコリの里親制度を構築するための『運営方法の検討』や『管苗方法実験の継続』を実施 →小目標=島外の植物を育てる人を取り込む、制度の試運転(課題の抽出と解決案の模案)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・関心を持つ企業状 後性の活用活動を記る る 全と活用に関心のを にけでなく。「伊島活 にけでなく。「伊島活 にはでなく。「伊島活 に成(改訂)のための 標 = 専門家の関木 加度を構築するため がカーンのとが、 サコリファンを増や サイア活動の実施(回 イア活動の実施(回 ディントスポット地域 が働による取り取り でる →活動の取り に参議性の保全と	を持つ企業や他団体と共に、保全活動や、ササの活用活動を実施し、プロジェクトごとに様々な協所用に関いのある地域との協働を目指すなは、「伊島活性化」に関いを持つ団体に活動を終せする、「伊島活性化」に関いを持つ団体に活動を終れて、「伊島活性化」に関いを持つ団体に活動を終れて、「伊島活性化」に関いを持つ団体に活動を終れて、「伊島活性化」に関いを持つ団体に活動を表する、一と解決案の模索) 「動の実施(回数を増やす)→小目標=地域活別の実施(回数を増やす) →小目標=地域活別の実施(回数を増やす) →小目標=地域活別の実施(回数を増やす) →小目標=地域活別の実施(回数を増やす) →小目標=地域活別の実施(回数を増やす) →小目標=地域活別の実施(回数を増やす) →小目標=地域活力が支援を表現い組みの可能性や共通課題の抽出一活動の取り組みの可能性や共通課題の抽出一計活動の取り組みを発信し、伊島やササエリへ・様性の保全と活用への関いを高める		(重点目標)・阿南市の生物多様性戦略が約12ついて、生物多様性保全と活いす、生物多様性不少トスポ・阿南市生物多様性ホットスポ・(事業内容)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	(重点目標) ・阿南市の生物多様性戦略が策定15ついて、生物多様性保全と活用・阿南市生物多様性ホットスポット(事業内容)・43回以上協議会を開催する→・4サカコリの里親制度の実施→リと解決案の模索、 高外の・阿南市生物多様性ホットスポットが目標=協働でのとり〈みにおける通課題を認識する、戦略が策定され出出	Eされる場合は、 「の実践モデル地 に選定された地打 い日標=島外の、 か日標=島外の、 が日標=島外の、 のファンを増やす、 地域と意思交換。 る課題抽出と解診 れる場合は協働 取り組みを発信!	(重点目標) ・阿南市の生物多様性戦略が策定される場合は、伊島におけるササュリ保護と活用について、生物多様性保全と活用の実践モデル地域として記載される ・阿南市生物多様性保全と活用の実践モデル地域と直携し、取り組みを実施する ・阿南市生物多様性ホットスポットに選定された地域と連携し、取り組みを実施する ・等の回以上協議会を開催する →小目標=持続的な協議会体制の構築と維持・ササュリの里親制度の実施 →小目標=持続的な協議会体制の構築と維持・ササュリの里親制度の実施 →小目標=島外のファンを増やす、制度の課題抽出と解決案の模索、島外のファンを増やす、固定の企業を増やす・阿南市生物多様性ホットスポット地域と意見交換会及び協働で活動を維持するための・阿南市生物多様性ホットスポット地域と意見交換会及び協働で活動を実施する →・小目標=協働でのとりくみにおける課題抽出と解決案の模索、交流を深めることで共通課題を認識する、戦略が策定される場合は協働で課題や情報をとりまとめ市に提出  コ ・フォーラムを開催する →活動の取り組みを発信し、活動への参加者増加につなげる。	コリ保護と活用 みを実施する みを実施する 時の課題抽出 を実施するための 54 だ実施する → 深めることで共 リまとめ市に提 当増加につなげ
行動計画			2017年度			2018	年度				2019年度	
	4月~	7月~	10月~	1月~	4月~	7月~	10月~	1月~	4月~	7月~	10月~	月~
油效拉罐合					・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		 					1
					光彩 小子 小子 一	が						
保護マニュアル 作成			調査・研究・情報整理・マ	報整理・マニュアル作成	作成		1					
ササユリ里親制度					情報整理	登理・実験・運営方法の検討・制度の試運転・制度の修正・制	検討・制度の試運	転・制度の修正・制	順の確立			1
下草刈りボラン ティア制度					通過方法	方法の検討・制度の試運転・制度の修正・制度の確立	軍転・制度の修正・	制度の確立				1
フォーラム			計画・実力				計画・実施	1			計画・実施	1
阿南市生物多様性ホットスポット との連携								ヒアリング・課	ヒアリング・課題抽出・情報共有・連携活動の検討・活動実施	連携活動の検討・	活動実施	1

中期計画シート(概要版) ②事業スケジュール

# 記入フォーム①事業の全体構成 協働取組カレンダー

### **-**2 やんばる地域"美ら島・美ら海"連携プロジェクト 業名:

この取組がどうして必要なのか

・現在表面化している問題はなにか

農地からの赤土等流出により、サンゴ礁をはじめ流域の自 然環境への影響、自然を活用した地域エコツーリズム事業等 に支障が発生している。また、農地対策に係る農家負担の軽減・支援体制及び対策農家が積極的に対策する農家メリット の付加が未構築。

業への影響。マングローブ林や沿岸でのカヌー、ダイビングな ・ <u>・ 放置した場合にどのような問題が生じるか</u> 農地からの耕土流出(耕土の劣化等)による農業への影響 や流域、沿岸域生物種の減少やサンゴ礁生態系の劣化、漁 ど地域観光事業の衰退。地域の自然環境を利活用した文化 ④事業開始時のステークホルダーとの関係性はどのようなものか

屋我地 地域関 WWF等 関係者 東村 関係者 高校等 関係者 MPO米  $\prec$ 大宜味 村関係 本部町 関係者 沖縄県 関係者

活動地域の担当行政、農家等・観光事業者と沖縄県担当行政との横断的な情報交流による 対策促進に向けた協働の取組体制

7)異なる主体の協働取組体制の構築 イ)対策農家の理解 ウ)活動を持続発展させる財政、人材の確保 **引この取組を進める上での課題は何か** 

会・協議会の開催。 イン地域と協働による農地での対策「グリーンベルト植 ウ)地域高校と協働による地域活動貢献、環環境モニタリング調査等による人材育成等。 (2)この取組でどのような状況の達成を目指すか 前年度大宜味村、東村で行った協働取組のノウハウ ア)汀 に環境学習と対策、対策の観光体験プログラム化、専会・門機関による科学的な検証等)を本部町、名護市屋我 (7) を目指す。また、沖縄県の担当行政が参加した横断 り)かりな連携促進、対策の農家メリットの付加、支援体制 環りの構築等を行い、自立的・持続的な赤土流出防止対 コ)対 の構築等を行い、自立的・持続的な赤土流出防止対 コ)対

栽活動」の実施。

ア)活動地域関係者と県担当行政が参加した情報交流

3この取組で具体的に何をどのよう!

爅

西原

記入者:

記入日:平成28年8月2日

エ)対策と営農にメリットのある情報提供を目的とした

農家向けセミナーの開催。

環境学習、

オ)グリーンベルト植物の二次活用による農家メリット

⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か 赤土流出の課題解決を契機として、地域自然の保 護・再生、地域活性化と人材育成が連携・協働した "地域自然を利活用した持続・発展す地域コミュニティーの創造"。

⑤事業終了時にステークホルダーとの関係性はどのようなもの変化しているとよいか 北部地域連 絡協議会 屋我地 地域関 WWF等 関係者 関係者 東村 高校等 関係者 NPO法人 大宜味 村関係 本部町 関係者 沖縄県 関係者

対策・普及の加速化に向け地域と沖縄県担当行政が目標を共有し、達成に向け連携する横断 的な地域協働組織体、 8この取組を進める上で課題にどのように対応するか 情報交流会による目標の共有やコミュニケーション等 ・協働によるグリーンベルト植栽活動の実施による理 ア)異なる主体の協働取組体制の構築

()対策農家の理解

・対策と農家メリットに繋がる情報提供(セミナー等)・高校生による貢献活動と人材育成との連携

・グリーンベルト植物の二次活用検討等

ウ)活動を持続発展させる財政、人材の確保 ・沖縄県担当行政の次年度予算へ反映

一般支援 ・協働によるグリーンベルト植栽シア

の波及等による全県への広がり

①~⑧による1年間の活動と課題解決対応によっ ③この取組をどのように継続させるか

て、地域発展に必要不可欠な協働取組の事例として、沖縄県担当行政の方針と予算の確保に反映させ、地域活動と連携させながら継続を図る。

特定非営利活動法人おきなわグリーンネットワーク (H 28協働カレンダー)

	協働取組加速化事業の連絡会・勉強会・報告会の開催 (予定)	グリーンベルト 植栽シアー 民泊体験	お域と協働によ るグリーンベルト 植栽活動	本	制度を表現している。	グリーングアト植物に次が出来、ターグルー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	グリーンベルト 植栽ツアー 民泊体験	地域と協働によるグリーンベルト 権裁活動	情報交流会 <b>本</b>	本名ない 一般を使用する 大なな、 一般を使用する 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 、 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 、 大きない。 、 、 大きない。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	制 高校との環境学 習等	グリーンスルト植物と大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大
日9	第1回連絡会   事 (キックオフ)   強 (6/24   the first of the first	<u> </u>	47. 1.4.		辺土名高校出前講座 (6/28、6/30) (6/28、6/30) 辺土名高校モニタリン グ調査	型		ck 植栽日程及び場所の ルト 調整	関係者スケジュール 調整等	ш	年間スケジュール調整等 整等 近土名高校及び北部 農林高校	琉球大学農学部との   調整   開整   田   日   日   日   日   日   日   日   日   日
月7					北部農林高校出前講 座(7/6) 北部農林高校グリー ンベルト植栽活動 (7/7)		植栽ツアー日程調整 参加企業との調整		第1回情報交流会(東村)			具体的な日程及び費 用の確認等
旨8		・植栽シアー (植栽とパイン収穫 体験)8/27			北部農林高校研究グループ取組ループ取組	第1回ベチバー精治 抽出	民泊体 <b>験全般調整等</b>			関係者との連携調整 (場所及び内容の確 認等) ・情報収集		抽出作業に掛かる業 務契約の締結 作業工程表作成
畄6						本部町店舗でのサンプル施行			地域関係者との協議 会	関係者との連携調整 (最終確認等)		進捗状況確認等
旨01			の漁	セミナーの開催(本部町)		本部町店舗でのサンプル施行		植栽日程及び場所の 最終確認 参加者確認等		セミナー開催最終確 認等		
11月	第2回連絡会	・本部町 民泊体験 (本部町1~2回目) 11/4~11/30	・本部町地域での漁協、小学校等参加による植栽活動						地域関係者との協議 会			抽出作業2回目の作 業等調整
12月		·東村民泊体験 (東村1回目)			北部農林高校全国大 会発表 辺土名高校モニタリン グ調査まとめ	第2回精油抽出						
1月		·東村民泊体験 (東村2回目)				精油採油量及び商品 の評価等まとめ			第2回情報交流会 (大宜味村)			研究成果まとめ等調整
62	報告会											
НE	業務報告書の提出											

協働取組カレンダー 記入フォーム②事業スケジュール

①事業の全体構成	
中期計画シート(概要版)	

事業名: やんばる地域"美ら島・美ら海"連携	連携プロジェクト-2 記入日:平成29年2月3日(金)	記入者:西原 隆
	②この取組でどのような状況の達成を目指すか	③この取組で具体的に何をどのように行うのか
・現在表面化している問題はなにか、 農地からの赤土等流出により、サンゴ礁をはじめ流域の自 然環境への影響、自然を活用した地域エコツーリズム事業等 に支障が発生している。また、農地対策に係る農家負担の軽	・ <u>2017年度時点</u> ・協働体制の強化と人材育成、対策の見える化の取組	・ <u>2017年度時点</u> ・県内農業環境コーディネーターとの情報交流会や対策連携 ・ドローンを活用した見える化の取組 ・環境学習の持続的な取組
滅・支援体制及び対策農家が積極的に対策する農家メリットの付加が未構築。	・2018年度時点 ・協働体制の基盤強化と人材育成、対策の見える化の実現	・2018年 <u>度時点</u> ・県内農業環境コーディネーターと連携した協議会等の組織 化
・放置した場合にどのような問題が生じるか 農地からの耕土流出(耕土の劣化等)による農業への影響 や流域、沿岸域生物種の減少やサンゴ礁生態系の劣化、漁 業への影響。マングローブ林や沿岸でのカヌー、ダイビングな ど地域観光事業の衰退。地域の自然環境を利活用した文化 の消滅。	<u>・2019年度時点</u> ・地域が地域の課題として持続的に取組む体制の構築	・ドローンを活用した対策効果の見える化実現・赤土等に関する環境学習のカリキュラム化・企業SCR活動等との連携・2019年度時点・2019年度時点・農地の土壌保全と対策のメリット構築・対策支援の仕組みづくりの構築
点のステークホルダーとの関係性はど	ーとの関係性はどのような	⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か
のようなものか、 大官味 東村 関係者 対関係	によいか、学校等関係よる本	赤土流出の課題解決を契機として、地域目然の保護・再生、地域活性化と人材育成が連携・協働した"地域自然を利活用した持続・発展す地域コミュニティーの創造"。
沖縄県     NPO法       関係者     人       本部町     高校等       関係者     関係者	島内協議会として組織化機化機化	
活動地域の担当行政、農家等・観光事業者と沖縄県担当行政との横断的な情 。 報交流による対策促進に向けた協働の取組体制	現在のステークホルダーの連携を強化、組織化し教育関連、企業、観光関連組 織等と連携する。	
⑦この取組を進める上での課題は何か ア)異なる主体の協働取組体制の構築	果題にどのように対応するか体制の構築	<ul><li>③この取組をどのように継続させるか</li><li>①~⑧による1年間の活動と課題解決対応によった。 地域発展に必要を可能</li></ul>
)確免	られなくことが ではナー等) 連携	に、心域光展に必要か可欠な協測は祖の事物とし、 沖縄県担当行政の方針と予算の確保に反映させ、地域活動と連携させながら継続を図る。
	ウ活動を持続発展させる財政、人材の確保・ ・沖縄県担当行政の次年度予算へ反映・協働によるグリーンベルト植栽ツアー等、一般支援の 波及等による全県への広がり	

2017年度の重点目標・							
<u> </u>	· 事業内容	201	2018年度の重点目標•蕚	•事業内容	2019年	2019年度の重点目標・事業内容	
《重点目標》 ・協働体制の強化と人材育成、対策の見える化の取組	策の見える化の取組	《重点目標》 •協働体制の基 ョ	盤強化と人材育成、	《重点目標》 ·協働体制の基盤強化と人材育成、対策の見える化の実・ 理	《重点目標》 ・地域が地域の課題としてネ	《重点目標》 ・地域が地域の課題として持続的に取組む体制の構築	
《事業内容》 ・県内農業環境コーディネーターとの情報交流会・農業環境コーディネーターとの連携した農家向けセミナーの開催		が (事業内容》 ・県内農業環境コーディネ- ・農業環境コーディネータ-	1 1	  -  -	《事業内容》 ・県内農業環境コーディネー・ ・農地の土壌保全と対策の、対策の体験プログラム化	事業内容》 県内農業環境コーディネーターと連携した農産物販路支援等の取組 農地の土壌保全と対策のメリット構築 対策の体験プログラム化継続	<b>爰等の取組</b>
・対策の体験ブログラム化・重点海域地域小学校での出前講座の実施・重点海域地域小学校での出前講座の実施・高校とのモニタリング調査の継続・南部、北部農林高校との連携・ドローンを活用した赤土等流出シュミレーション技術の開発	い技術の	及 ・対策の体験プロ ・重点海域地域、 ・高校とのモニタ ・南部、北部農林・ ・バコー、大・ボー	及 ・対策の体験プログラム化継続 ・重点海域地域小学校での出前講座の実施・高校とのモニタリング調査の継続 ・南部、北部農林高校との連携継続 ・ドロー、・チェー・デ・	大、井、谷、井、	・重点海域地域小学校での・・高校とのモニタリング調査・・高校とのモニタリング調査・南部、北部農林高校とのジトワローンを活用した赤土等・・企業からの支援体制の構・企業からの支援体制の構	・車点海域地域小学校での出前講座のカリキュラム化・高校とのモニタリング調査の継続・南部、北部農林高校との連携継続・アローンを活用した赤土等流出シュミレーション技術普及・企業からの支援体制の構築	
30 E		等、普及 ・企業SCR活動との連携取糸	との連携取組	7 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 /			
子里 一						2019年度	
1   1   1   1   1   1   1   1   1   1	10 ∺ ~	1月~ 4,	4月~ 7月~	10元~	7月~	7月~ 10月~	—————————————————————————————————————
版米			情報交流会	 			1
農家向け <del>たミ</del> ナーの開催	セミナー			4ミナー		セミナー	
体験プログラム 化 化	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			—————————————————————————————————————		果	<b>1</b>
(年4回)							
			11年中四年三月		 ሂ		1
でも大・1 日 - 1 日 - 1 元・光・7 日 - 1 元・元・7 日 - 1 元・元・元・7 日 - 1 元・元・7 日 - 1 元・			张 	C連接した4.137別134X CO.	失 <b>加</b>		
ドローンを活用し た対策の見える 化取組	技術開発·検証	1		技術の検証・確立	1	技術の普及	1
企業CSR活動と保護力	支援課事業との連携による企業	(連携		支援課事業との連携による企業支援体制の構	制の構築	支援課事業との連携による企業支援体制	引の構築

特定非営利活動法人おきなわグリーンネットワーク (H28中期計画)

# 記入フォーム①事業の全体構成 協働取組カレンダー

事業名:放置竹林伐採と竹資源の有効活用を通じた、地域における環境保全と地域活性化のための協働取組事業 |記入日:2016/6/24

1)この取組がどうして必要なのか

・現在表面化している問題はなにか

農業従事者の高齢化による担い手不足、食生活の変化や輸入による需要の低迷、農業景気の低迷による 後継者不足などを原因とする、荒廃竹林の増大

・放置した場合にどのような問題が生じるか

- 優良農地、森林への浸食被害 土砂崩れなど災害誘発 竹林の繁茂による生物多様性の毀損

④事業開始時のステークホルダーとの関係性はどのようなものか



**⑦この取組を進める上での課題は何か** 

- 放置竹林が所在する土地(山)所有者が、多岐に亘る。 竹林伐採による社会的意義や効果(防災、環境保全な ど)を所有者に周知し、実際の伐採に取り掛かるまでには、 自治体の協力(所有者との協議など)が重要。
- ◆ 竹林問題を個別に管轄する部署がない一方で、関連す る部署は複数部門に亘る。
- 単独での国の補助金獲得は困難(自治体との連携が必須) ◆ 竹林伐採に係る国の補助金メニューが乏しい。事業者 ◆放置竹林の社会的環境的問題が周知されていない。
- ♦竹に係る製品の需要喚起ができていない。結果供給者が 竹林面積に比して少ない。

②この取組でどのような状況の達成を目指すか

記入者:山村公人(㈱B2S代表取締役、NPO法人筑後川流域連携俱楽部·会員)

◆以下課題を認識し克服手段を検討·試行実施·検証。

3)この取組で具体的に何をどのように行うのか

- ◆竹林伐採と観光を含む地域産業を組み合わせた取組に ついて、多方面から情報集積し協働で検証行い、本課題へ の解決策を探る。
- ◆集積した情報を参考にしつつ、伐採後の竹の利活用方法 の企画又は開発等を試行的に行う事を通じて解決策として の検証(=「久留米モデル」)を行う。
  - ◆また、これらの試行的取組で得られた成果等が他地域で 参照・活用されるよう、必要な情報を整理したアクションプラ ン(マニュアル)の作成やシンポジウム開催を行う。

ーとの関係性はどの ⑤事業終了 時にステークホルダ ようなもの変化しているとよいか

【NPO法人筑後川流域連携倶楽部・㈱B2S】 個別課題として

⑤各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か

(マニュアル)の作成、(3)アクションプランの実証、(4)アク ションプラン実証の検証を兼ねた全国事例の実施者交えた

ッンポッセイ

(1)協議会の開催、(2)個別事業としてのアクションプラン

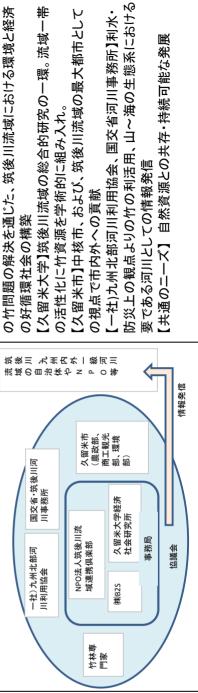
◆検討・試行実施・検証の過程で、以下の業務を行う。

竹需要の具体的喚起策の体系化と情報整備

竹を伐る人員と財源に係る対策・情報整備

【課題①竹の流通の入口】

【課題②竹の流通の出口】



8この取組を進める上で課題にどのように対応するか 8この取組をどのように継続させるか

- 放置竹林解消の為の行政窓口が必要。その為に、行政 としての取組としての社会課題の整理を行い、各部門のあ るべき責任を明確にする。 **•**
- 放置竹林所有者に竹林伐採の動機づけを行う必要ある。 謝意の表明)などを引き出すべく、効果的な方策を検討する。 その一環として、国の補助金や自治体からの働きかけ(含、 ◆企業のCSRやCSVを担当する部署と放置竹林問題につい (含、自治体と連携した国への陳情など)

て情報共有・協働を図る仕組みづくりを検討する。

以上の各目標に到達するには、つなぎの活動資金が必要

活動財源の確保が必要である。当面は、以下を検討する。 ・国からの竹林伐採補助金 ・自治体からの同補助金

- ・企業との協業による竹林伐採(人・金の提供)
- ・伐採した竹の高付加価値化とその売却益の竹林伐採費 用への充当(への試み)

であり、本補助金やそれに類する補助金の獲得を図る。

3月											
2月	報告分	ンンボジウム開催									
月1					第4回協議会		第3回研究会会議	(進物権認、課題と解決策の整理)		第4回研究会会議 (実施計画の検証と 米年度以降の活動 についての討議)	
12月		筑後川流域の自治 体やNPO法人へ案 内				串子印刷。独後川 消域の自治体へシ ンポジウムの案内 と共に送付	課題(第2回会議議	楽)の解決策の試行		第3回研究金融(第2) かった、徳戸観光 かったり、徳戸観光 (ルード・徳戸観光 (地元住下の週上福駅 (地元住民日本住の日本との 協働)	
11月	第2回連絡会	<i>シンボジウムチラン</i> 作成			第3回協議会	「久留米モデル」で 得られた情報も含 める	第2回研究会会議(進格確認)課題の	整理、課題解決策 の討議)		第2回研究会会議 (專務局件放計画 案の討議、実施体 制の確認)	
月0月		日程確定と講師各 位へ連絡、場所の 確保(久留米大学 OR久留米市役所)				左記情報の内、数 か所の有用な事例 を選定し、電話イン タビュー	年路徐大ノンバー令	業等の進捗確認		研究会の今年度実施計画策定	
目6		講師、プレゼンター 又はパネラー~依 類状、日程調整、 類代、日経調整、 場所(候補)の空き 状況確認			第2回協議会	ネット上で収集した 情報の整理	研究会メンバー企業(久留米市からの紹介などによる。協	議会委員以外の団 体や企業など)の開 拓	₩ 元 → 夕 (水俣	#1回研究会会議 今年度スケジュー レと実施事項/目標 り討議)	◆地域住民参画を目指した、荀収穫(非農家)專例研究(糸島市等) ◆水質等化-土壤改善に関する竹炭活 用專例研究(大分県竹田市、北九州市等)
8月						位採目的(生物多様性保全、産業振興等)別に、内の供給商及び需要面で活用できる補助金や関係者等を整理[ネット情報収集]	◆協議会にて、今 年度の目標=5 例、メンバー拡充に ついて考え方の説 明		イ林伐採コスト・既存研究データ(水俣市等)収集	◆協議会にて、本研究会の意義と地域住民との連携に 3ついての対議 (日本の連携に 3ついての対議 (日本地) (日	◆地域住民参画を目 農家/事例研究(糸島 ◆水質浄化・土壌改 用事例研究(大分県等)
月7					第1回協議会開催 (シンポジウム講師 についての協議、 甲で会(2つ)の立 上げについての協議 議)	伐採目的(生物多様等)別に、竹の供給(等)別に、竹の供給できる補助金や関係情報収集]		◆協議会委員(久留米市・商工関連部署)へ、竹苫用した新製品に興味があり そうな市内中小企業の紹介依頼			
旨9	第1回連絡会(キックオフ)										
	協働取組加速化事業の連絡会・勉強会・報告 会の開催 (予定)	九州内の団体(2団体 程度)及び九州外の団体(3団体程度)を講体(3団体程度)を講師、ブレゼンター又はバネラーとは	活動②	活動③	協議会開催	アクションブランの作成 (NPOや他の自治体が参照できるマニュアルの作成)	竹の新たな活用事例 の企画又は開発を行う研究会(協議会の部会)立上げ モノづくり研究会]	※数値目標 商品企 画あるいは開発を5例 /今年度ほど	事務局単独 調査事項など	古見岳竹林整備と観 光振興に係る研究会 に信職会の部会)の立 に信職会の部会)の立 [親光研究会] ※数値目標 地域住 民との会議や現地視 察4回/今年度ほど	事務局単独 調査事項等
	取組加速化事業の開催会の開催	ンンボジウム開催で各事例の情報を放送、アクションプラン・ステア・ステア・ステア・ステア・ステア・スティーの開発をディーの開発をディーの開発を表現し、			i ded	アクションプラン( (NPOや街の自治 ニュアルの作政)			7 89 KH	の試行的実施	
	協働』		女外的な活動					対内的な	<b>收备</b>		

協働取組カレンダー 記入フォーム②事業スケジュール

### (1)事業の全体構成 中期計画シート(概要版)

### じた、地域における環 放置竹林伐採と竹資源の有効活用を通 境保全と地域活性化のための協働取組事業

この取組がどうして必要なのか

・現在表面化している問題はなにか

適正管理された竹林の減少/荒廃放置竹林の増大(地下茎の (世長)

・タケノコ農業従事者の高齢化/担い手不足

・プラスティック製品の台頭による資材としての竹材需要低迷 食生活の変化による需要の低迷

放置した場合にどのような問題が生じるか

・優良農地、森林への浸食被害 土砂崩れなど災害誘発 竹林の繁茂による生物多様性の毀損

◆任意団体「竹林と経済の両立塾」の設立(定款、規約などの整 ②この取組でどのような状況の達成を目指すか -2017年

記入日:2017/2/10

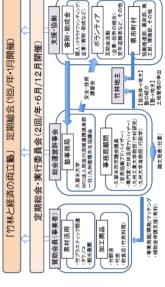
◆アクションプランの2018年度版の策定と組織的なPDCAサイク

◆アクションプランに基づく個別事業の推進(竹材、タケノコ) ◆同プランに、資金調達方針、および、森林トラストなど都市/企業 等と農山村の交流について、人(ボランティア)、金(寄付等)の活 動方針立案し、試行

流)を受け、計画策定し実施。◆活動エリア拡大の方針立案し試 前年度の新たな方針と試行(資金調達、都市/企業等と農山村 2018年度時

2019年度時点 ◆前年度の新たな方針と試行(活動エリア拡大)を受け、計画策定 し実施。 ◆過去3年間の活動による、雇用増大や経済規模拡大 への寄与について、調査し、2020年度以降の活動方針の検討を行

ーとの関係性はどのような ⑤3年後にステークホルダ もの変化しているとよいか 今年度末時点のステークホルダーとの関係性はど



久留米市民・高良山 近郊住民など

以下の対策に減すや よくソヤくの参加

にどのように対応するか ③この取組を進める上で課題「問題の共有」(放置竹林) 自治体の協力の根拠と該当部署の選定。一般に「竹」専門 部署はなく、事象事案により担当部署が異なる。また、「前 放置竹林が所在する土地の問題(境界線/所有者不明等)

◆経済の分野としては、 「観光」と「モノづくり(原料化)」

ツンボジセム微幅者

パスツアー訪問先

公開請座講師 協力者

【方針】 ◆「竹林と経済の共生」の 再構築を図る。

【人人ソ下】 公医職係 バスシドー ツンギンシャ 中の右

X 行野家類群 名電描道部

青椒店

企画·実施

久留米市役所 各課長(委員) 囊政部 函工觀光部 建填部

久留米大学程 済社会研究所

竹材活用母 犯整整 七株裕田/ アベンガー (野中教賞)

NPO法人锁锁川 范域連携資楽部

**回次金·铁袋三** 凶三╋務所

一社)九州北部 河川利用協会

◆竹に係る製品の需要喚起ができていない。結果供給者が竹 面積に比して少ない。よって、放置され、結果地下茎が伸長 ◆放置竹林の社会的環境的問題が周知されていない。 るという悪循環

例がない」という取組を立ち上げるのに時間を要する。

**♦** 6

この取組を進める上での課題は何か

で国の補助金獲得は困難(自治体との連携が必須)

1)「経済」「住民の生業」という観点と、「竹林の適正管理」の相「財源(カネ)の確保】 【有機的連携/協働】各々の社会的責務や要望などを多様なステークホルダー間で相互共有し、協働での取組を考案する。 協働取組が、各自の責務や要望をいかに充たすかを共に考える。そのような機会を考え実施 2) 竹林を経済活用した場合のビフォー/アフターの視覚的訴求等 「経済」という人間が最も敏感に反応する動機を活用し、「適正 管理」という人間の機能を竹林に投影し、里山保全に取組む。 【各自の動機と機能】(自然との共生・持続可能な発展) 関を常に認識できる機会を創出 ◆竹林伐採に係る国の補助金メニューが乏しい。事業者単独

この取組で具体的に何をどのように行うのか

記入者:山村公人(㈱B2S代表取締役、NPO法人筑後川流域連携俱楽部・会員)

◆両立塾としてのクラウドファンディングの企画立案

◆アクションプランのレベルアップ(活動の運営方法/PDCAサイク ル、個別事業の推進、活動内容の追加/都市と農村の交流)

◆クラウドファンディングの実施 -2018年度時点

◆過去2年間の活動について、久留米市以外の自治体へ報 告ならびに官民協働事業を開始するかのニーズ調査

◆他地域の放置竹林に係るNPO等との連携 -2019年度時点

◆久留米以外の市町村と「竹林活用アドバイザー契約」を締結 ◆雇用増大や経済規模拡大への寄与に係る翌年度の活動方 針の検討を行う。

◆塾事務局:「九州循環共生協議会」は久留米大学·NPO・(㈱) **ークホルダーの個別、共通のニーズは何か** 【総会・運営会議】 H28年度事業の主なメンバーで組成 各ステ

◆事務局顧問:幹事会参加は各人の本職を補完・強化 B2Sの代表者で意思決定の効率化を主眼に設立

【支援•協働】

◆寄附/助成者:社会的責任や善意の充足

◆ボランティア:定年退職者など社会貢献ニーズ

◆県市町村:「竹」に直接・間接に関与する部署の業務履行 【賛助会員】: 会員登録者の事業を補完・強化 【共通のニーズ】 自然共生による持続可能な発展(経済活

動、社会活動)、生物多様性·里山保全、低炭素/循環型社会

以下のような、ヒト・モノ・カネを確保する (多この取組をどのように継続させるか

・クラウドファンディング・企業からの客附/助成 ・国/自治体からの竹補助金

【ヒト(ボランティア・タケノコ起業家等)の確保】

・有償/無償ボランティアの効果的な募集と確保

竹林活用に係る教育

・タケノコ商品流通の安定化 モノの確保】

・竹林伐採用機材の充足化(上記財源の活用) ・土地の確保(地主との契約)

のようなものか

4

	2017年度の重点目	目標·事業内容			2018年度の重点目標・事業内容	[目標・事業内容		2019年度の重点	2019年度の重点目標・事業内容	
<b>国 点 目標】(達成状況</b>   ◆任意団体「竹林と経済   ◆アケションプランの20   横築   ・アケションプランに基   ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	<ul> <li>【重点目標】(達成状況)</li> <li>◆任意団体「竹林と経済の両立塾」の本格稼働</li> <li>◆アクションプランの2018年度版の策定と組織的なPDCAサイクル構築</li> <li>◆アクションプランに基づく個別事業の推進(竹材、タケノコ)</li> <li>◆アクションプランに基づく個別事業の推進(竹材、タケノコ)</li> <li>◆同プランに、資金調達方針、および、森林トラストなど都市/企業等と農山村の交流について、人(ボランティア)、金(寄付等)の活動方針立案し、試行する。</li> <li>【事業内容】(何をどのように行うのか)</li> <li>◆竹林と経済の両立塾の運営事務局(大学、NPO, 一般社団法人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるクラウドファンディングの企画立案人)によるの記述を表現で表現で表現が表現を表現されている。</li> </ul>	の本格稼働 毎定と組織的なPD の推進(竹材、タケ が、森林トラストなと ジンティア)、金(寄付 (1) (1) (1) (1) (1) (2) (3) (4) (4) (5) (6) (7) (7) (6) (7) (7) (8) (9) (1) (1) (1) (1) (1) (2) (3) (4) (4) (4) (5) (6) (7) (7) (7) (7) (8) (9) (9) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1	PDCAサイクル 4ケ/コ) など都市/企業 寄付等)の活 中般社団法 PDCAサイク の交流)		( <b>達成状況</b> ) 新たな方針と記 を流)を受け、計 5針 立案し試行 ( <b>何をどのよう</b> 間の活動につい 5びに官民協働 放置 竹林に係る	【重点目標】(達成状況) ◆前年度の新たな方針と試行(資金調達、都市/企業等と農山村交流)を受け、計画策定し実施。◆活動工リア拡大の方針立案し試行リア拡大の方針立案し試行 「事業内容】(何をどのように行うのか) ◆過去2年間の活動について、久留米市以外の自治体へ報告ならびに官民協働事業を開始するかのニーズ調査	、都市/企業 で、◆活動エ 以外の自治 -2かのニー	【重点目標】(達成状況) ◆前年度の新たな方針と試行(活動エリア拡大) を受け、計画策定し実施。 ◆過去3年間の活動による、雇用増大や経済規 様拡大への寄与について、調査し、2020年度以降 の活動方針の検討を行う。 【事業内容】(何をどのように行うのか) ◆久留米以外の市町村と「竹林活用アドバイザー 契約」を締結(含、国の補助金・交付金などへの合 同申請) ◆雇用増大や経済規模拡大への寄与に係る翌年 度の活動方針の検討を行う。	と試行 (活動エリア拡大) 5.5。 たる、雇用増大や経済規 て、調査し、2020年度以 う。 <u>こうに行うのか)</u> と「竹林活用アドバイザー 相助金・交付金などへの 拡大への寄与に係る翌: 行う。	<ul><li>大 張以 かの 密</li><li>降 一合 年</li></ul>
行動計画	-	2017年度		-	2018年度	年度		-	-	
I	4月~ 7月~	10月~	月~	4月~	7月~	10月~	1月~	4月~   7月~	10月~ 1月~	
定期 運営会 議	運営会議 (リ両立塾の企画承認 (アローンをの位置づけ明確化 (アロンエクト会議メンバーの選定 アロジェクト会議メンバーの選定 アロジェフトフェフラン(当該年度)の承 (対 対	P会議(12月)議 題の協議・承諾 アクションブラン の承 の見直し		①今年度アクショ ンプラン内容の確 認・共有 ②P会議(6月)の 次第		P会議(12月)議 題の協議・承諾 アクションプラン の見直し		①今年度アクショ ンプラン内容の確 認・共有 ②P会議(6月)の 次第	P会議(12月)議 題の協議・承諾 アクションプラン の見直し	
アクションプラン の策定と見直し	運営会議にて今 年度実施内容を 確定	見直し		運営会議にて今 年度実施内容を 確定		見直し		運営会議にて今 年度実施内容を 確定	児直し	
プロジェクト(P) 今達(6円 10	開催面立塾、個別活動ごとの実	開催	体共有に	開催回立塾、個別活動ごとの実	手動ごとの実	開催 取組の整理と	開催取組の整理と全体共有に	開催回立塾、個別活動ごとの実	開催取組の整理と全体共有に	IJ
景觀(6月、12月)	務者によるプロジェクト推進	向けた準備		務者によるプロジェクト推進	コジェクト推進	向けた準備		務者によるプロジェクト推進	向けた準備	
<b>公</b>	国 福福	・ 実施 (人)	全体共有と発信 の場(シンポジウ ム等) 人活動報告(含、アクションプラン)	ラグ	計画・実施・実施・		全体共有と発信 の場(シンポジウ ム等)		実施 全体共有と発信 の場(シンボジウム等)	と発信パップウ
アクションプラン にもとづく個別事 業の展開	◆クラウドファン ディングの研究		◆クラウドファン ディング企画内容 の決定(事務局 内承諾事項)	◆クラウドファン ディングの実施				◆クラウドファン ディング出資者へ の報告・返礼	◆久留米以外の 市町村と「竹林活 用アドバイザー契 約」	

特定非営利活動法人筑後川流域連携倶楽部

(H 28 中期計画)